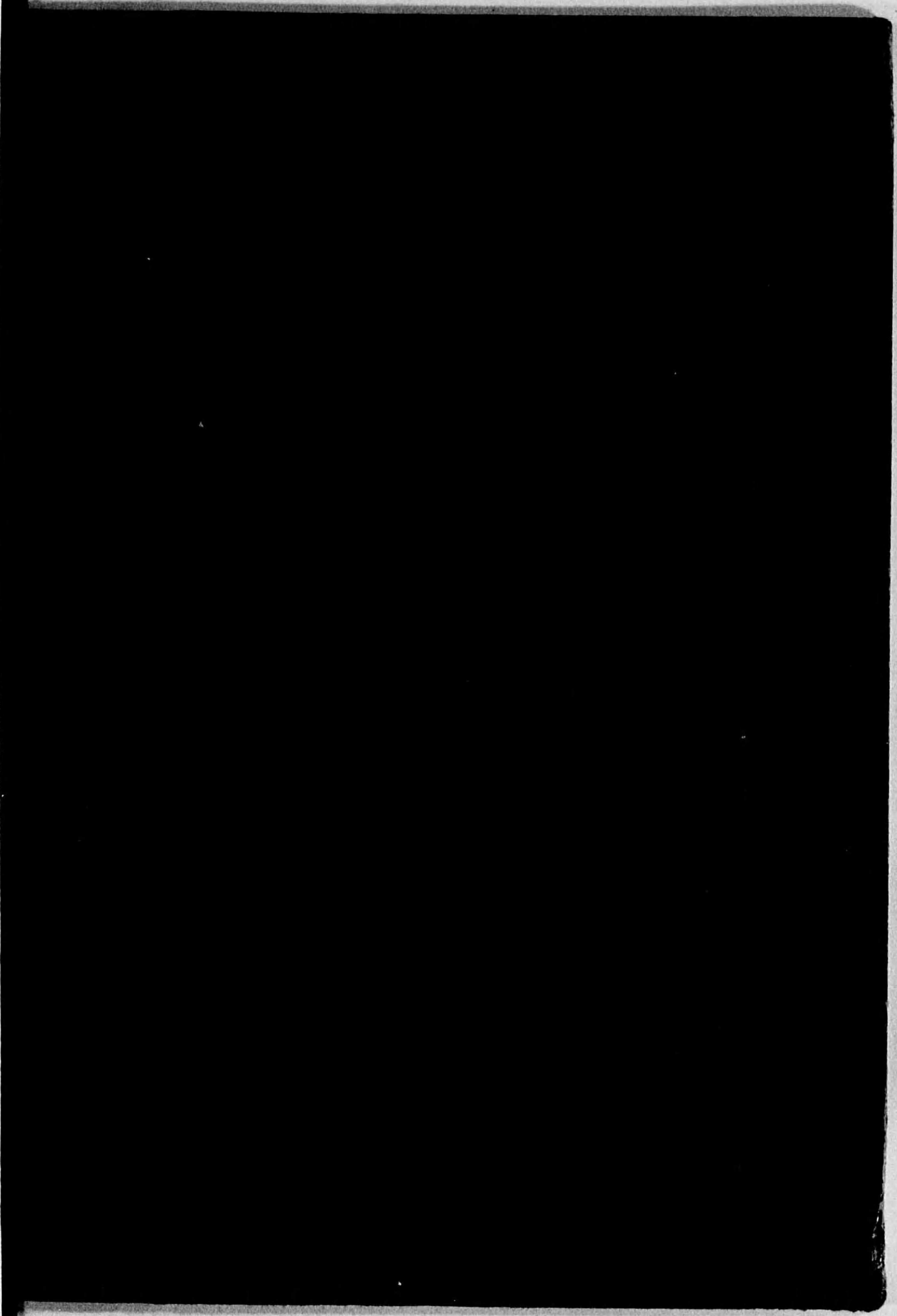


始



57  
82

494 P

H 14

外科 397  
あ

6948  
H14



皮膚科須知

醫學博士 萩原省三 著



57/2

## 序

皮膚科學は他の一般學科に比して、人の始めて其の門に入るに當つて難解を嘆ずる事が多い。蓋し病名、症候に類似したものが甚だ多く、而も専ら視診によつて極めて輕微な差異から診斷を下さねばならぬ場合が多いからである。其疾病の原因、發生の機轉等に就ても、亦分類、種屬に就ても、今日猶不明であり或は議論の一致を見ない所が多いからである。然し其れ丈け皮膚科學の領域には猶吾人の研究によつて闡明されなければならぬ未開の耕土が多く残されて居り、諸君の開拓に俟つ所が多いと言ふ事が出来よう。

此多種多様な皮膚科學を、僅々一週二時間一ケ年に講ずるは至難の事に屬する。従て淺く廣きを求めて多岐亡羊を嘆ずるよりは、寧ろ狭くも精確な實際に役立つ知識を求める方が利益ではあるまいか。

他の學科を專攻する者も、日常眼に觸れる平凡な皮膚疾患に對しては、正鵠な判斷を下す丈の知識は必要である。又之を治療するに當つて、全く誤つた方法を用ひ病狀を惡化せしめる如き事のない様に皮膚科治療の根本方針を學習しなければならない。

## 2 序 文

余の講義の方針は、日常多く見る疾病で假令何科を専攻する者と雖も識らざるべからざるものを稍精しく、又治療の根本方針を詳細に述べ、比較的稀有な疾病に就ては其概念に止め度と思ふ。皮膚病の治療法は専門家に非ざれば殆ど行ひ難い場合が多く、従て其治療は須く専門家に俟つべきではあるが、之を専門家に依すべきか否かを判断する丈の根本知識は醫士の常識として必ず習得しなければならぬ所である。

故に本書に述べた所は、諸君が醫師として必ず知らねばならぬ範囲に限つた、蓋し本書を皮膚科須知と稱する所以である。

昭和八年七月

著 者 識

## 凡 例

- 1 本書は諸君が皮膚科學勉學の便宜の爲に著述したもので、一般教科書の様式には従はない即疾患に従つて記述の繁簡を異にし、濕疹、蕁麻疹の如く最も屢々經驗される疾患に就ては煩を勞はず詳細に記載したが、其他は須知の要點文に止め且つ記憶に便する爲簡條書にする様に務めた。不足の點は講義の際に補つて行きたいと思つてゐる。
- 1 6號活字で印刷した部分は比較的稀有な疾患か、餘り重要ではないが、一通りは識つて置く方がよいものである。尤も稀有な疾患でも識つて居なければならぬと思ふものは9ボで印刷した。
- 1 諸君が餘り眼にする機會のない専門家以外必要と思はぬ疾患は全部省略した。急性傳染性疾患や癩、丹毒等は他科で屢々講義されるから、又梅毒は性病學教科書の方に記述してあるから共に省略した。
- 1 組織像、病理其他も大方は省略した。多く記述しても徒に諸君に求むるに勞多くして効少なきを慮ふからである。更に深く研究する爲には幾多の良参考書がある。別して土肥慶藏先生の皮膚科學を推奨する。
- 1 寫眞は皮膚科教室所藏の伊藤有氏製作の蠟製標本を寫したものである。色彩其他を詳しく識り度い諸君は標本に就て比較研究されたい。

参 考 書

- 1 土肥慶藏： 皮膚科學
- 2 土肥章司： 皮膚及性病學
- 3 Darier: Grundris der Dermatologie
- 4 Joseph: Lehrbuch der Hautkrankheiten
- 5 Zieler, Jacobi: Lehrbuch u. Atlass der Haut-und Geschlechtskrankheiten
- 6 Lesser: Lehrbuch der Haut- u. Geschlechtskrankheiten
- 7 Rieke: Lehrbuch der Haut- u. Geschlechtskrankheiten
- 8 Wolff u. Mulzer: Lehrbuche der Haut- u. Geschlechtskrankheiten
- 9 Schäffer: Haut- u. Venerische Krankheiten
- 10 松本信一: 皮膚病學
- 11 賀川哲夫: 小皮膚科學
- 12 谷村忠保: 臨床皮膚科學
- 13 萩原省三: 皮膚科類症鑑別ノ實際
- 14 旭 憲吉: 皮膚病泌尿器生殖器病醫典
- 15 山田, 淺見: 皮膚病診斷及治療法
- 16 皮膚科泌尿器科雜誌: 日本皮膚科學會發行毎年一卷十二冊
- 17 皮膚科紀要: 京都帝大皮膚科教室發行毎年二卷十二冊
- 18 皮膚ト泌尿: 九州帝大皮膚科泌尿器科教室發行毎年六冊
- 19 體 性: 日本性病豫防協會發行毎年一卷十二冊
- 20 ル エ ス: 日本毒學會發行毎年六冊

目 次

第一篇 總 論

<b>第一章 緒 論</b> .....	1
<b>第二章 皮膚の解剖</b> .....	7
皮膚の表面—皮膚の層—表皮—真皮—皮下組織—血管— 淋巴管—神經—汗腺—皮脂腺 爪—毛髮—起毛筋—色素	
<b>第三章 皮膚の生理</b> .....	19
神經作用 .....	19
知覺神經—自律神經	
分泌作用 .....	22
汗分泌—皮脂分泌	
體溫調節作用 .....	24
皮膚の呼吸作用 .....	25
皮膚の吸収 .....	25
保護作用 .....	26
<b>第四章 一般病理と症候</b> .....	27
一般病理學 .....	27
Stratum corneum の變化 .....	28
角層増殖—落屑—鱗屑—剝皮—秕糠疹—角化症—不 全角化	
Stratum germinativum の變化 .....	29
表皮肥厚—丘疹—漿液性丘疹—充實性丘疹—結節— 瘤腫—苔癬—苔癬化	
Cutis の變化 .....	30
斑—紅斑—蕁麻疹—紫斑—色素常異	
Epidermis と Cutis に渉る變化 .....	31

蕁麻疹—小水疱—水疱—小膿疱又膿疱—疱疹—天疱  
 着—囊腫  
 原發疹と續發疹 .....33  
 痂皮—表皮剝脫—皸破—潰瘍—皸裂—癢痕—皮膚萎  
 縮—色素沈着—膿痂疹—膿瘡—膿殼疹  
 一般診斷學 .....35  
 大小—形—表面の性質—境界—色—硬度—數及び經  
 過—部位—配列—自覺的障礙

第五章 皮膚疾患の原因 .....39

外因—内因

第六章 療法通論 .....41

局所療法 .....42  
 粉末劑—脂肪劑及油劑—漆劑—振盪劑—糊膏—膠劑—  
 泥膏—軟膏—硬膏—石鹼—燻法—浴治法  
 内服及注射療法 .....55  
 理學的療法 .....  
 雪狀炭酸—燒灼法—電氣分解—光線療法

第二篇 各 論

第一章 皮膚の循環障害 .....59

皮膚充血及貧血 .....59  
 Haut の Hyperaemie 又は Anaemie を主徴とす  
 る疾病 .....61  
 大理石様皮斑 .....61  
 温熱性皮斑 .....62  
 分枝性皮斑 .....62  
 貧血性母斑 .....62  
 毛細管擴張性母斑 .....62  
 ライル氏死指 .....63

皮膚紅痛症 .....63  
 レイノウ氏病 .....64

第二章 皮膚出血 .....66

Symptomatische Purpura .....66  
 一種の疾患と目さるゝ紫斑 .....66  
 單純性及儂麻質斯性紫斑 .....66  
 出血性紫斑 .....67  
 壞血病 .....68  
 附 血友病 .....68  
 毛細管擴張性環狀紫斑 .....69  
 紫斑病の療法 .....69

第三章 痒痒性皮膚疾患 .....70

皮膚痒痒症 .....70  
 汎發性痒痒症—局所性痒痒症  
 小兒蕁麻疹様苔癬 .....72  
 癢 疹 .....75  
 蕁 疹 .....78  
 固定蕁麻疹 .....88  
 色素性蕁麻疹 .....88  
 急性限局性皮膚浮腫 .....89

第四章 急性炎症性皮膚疾患 .....90

濕 疹 .....90  
 急性濕疹—慢性濕疹—頭部の濕疹—顔面の濕疹—頸部  
 の濕疹—軀幹の濕疹—陰部の濕疹—四肢の濕疹—手足  
 の濕疹  
 療 法 ..... 102  
 局所療法 ..... 102  
 Symptome による外用膏劑の便用法 ..... 105

部位による膏劑の使用法	106
Eczema の物理學的療法	112
全身療法	112
脂漏性濕疹	114
毒物性皮膚炎	116
漆性皮膚炎—白髮染めに因る皮膚炎	
<b>第五章 滲出性並に中毒性疾患</b>	119
多形滲出性紅斑	119
結節性紅斑	121
血管神經性環狀紅斑	123
遠心性環狀紅斑	123
中毒疹	123
自家中毒疹	125
滲出性中毒疹	126
血清疹—牛痘疹—ツベルクリン疹	
藥疹	127
アンチピリン疹—キニーネ疹—水銀疹—沃度疹—臭素疹—砒素疹—銀色症—其他藥疹の原因となるもの	
蜀黍紅斑	132
<b>第六章 化膿球菌性皮膚疾患</b>	132
白色葡萄狀球菌性膿痂疹	134
連鎖狀球菌性膿痂疹	137
ボツクハルト氏膿痂疹	139
尋常性膿瘡又深膿痂疹	140
壞疽性惡液性膿瘡	141
疱疹樣膿痂疹	142
尋常性瘰癧	143
尋常性毛瘡	146
痘瘡狀瘰癧	148

頭部乳頭狀皮膚炎	150
口角腐爛症	151
<b>第七章 皮膚結核症</b>	142
尋常性狼瘡	154
皮膚疣狀結核	158
皮膚腺病	160
潰瘍性粟粒結核	162
腺病性苔癬	163
顔面播種狀粟粒性狼瘡	165
陰莖結核疹	167
壞疽性丘疹性結核疹	158
腺病性硬結性紅斑	170
結節狀結核性靜脈炎	172
惡液性瘰癧	173
類狼瘡	173
凍瘡狀狼瘡	174
光澤苔癬	176
環狀肉芽腫	177
<b>第八章 癩</b>	179
神經癩—結節癩—混合癩—斑紋癩	
<b>第九章 絲狀菌性疾患</b>	186
黃癬	188
白癬	190
淺在性白癬	190
頭髮白癬—顔面白癬—斑狀白癬—頑癬—汗疱狀白癬—爪甲白癬	
深在性白癬	198
テニルズ—ス氏禿瘡—白癬性毛瘡—白癬性苔癬	
白癬の病原菌に就て	202



経過と豫後	205
療    法	206
蔷薇色枇糠疹	208
紅色陰癬	210
癩    風	211
遠山氏連圈状枇糠疹	212
スポロトリヒヨジス	214
<b>第十章 桿菌、酵母菌及放線状菌に因る皮膚疾患</b>	216
急性陰部潰瘍	216
皮膚デフテリア	
皮膚嚙口瘡	217
皮膚酵母菌病	218
放線状菌病	220
足    菌    腫	220
脾    脱    疽	221
水        瘡	222
<b>第十一章 水疱性皮膚疾患</b>	223
汗        疱	223
天    疱    瘡	224
尋常性天疱瘡	225
落葉状天疱瘡	228
増殖性天疱瘡	228
有熱急性天疱瘡	229
ヂューリング氏疱疹状皮膚炎	230
附 妊娠性疱疹	232
先天性表皮水疱症	232
種痘様水疱症	232
带状疱疹又带状匍行疹	233
單純性疱疹	236

<b>第十二章 炎症性角化性皮膚疾患</b>	239
尋常性鱗屑癬又乾癬	239
バラブソリアジス又類乾癬	243
ヘプフ氏紅色枇糠疹	244
初生兒剝脱性皮膚炎	245
哺乳兒落屑性紅皮症	246
初生兒急性天疱瘡	248
紅色苔癬	248
尖圭紅色苔癬	249
扁平紅色苔癬	252
毛孔性紅色枇糠疹	253
慢性單純性苔癬	255
進行性胼胝状指掌角化症	256
フォックス、フォアダイス氏病	259
<b>第十三章 角質増殖性皮膚疾患</b>	261
魚    鱗    癬	261
先天性手掌及足趾角化腫	263
毛孔性苔癬	264
角性痤瘡	265
附 棘状毛囊角化症	266
ダリエー氏病	257
鱗状毛囊性角化症	268
黑色表皮腫	270
汗孔角化症	271
被角血管腫	273
胼    胝    腫	273
鷄        眼	274
皮        角	274
<b>第十四章 脂腺及汗腺分泌異常症</b>	275

脂 漏	275
油性脂漏 - 乾性脂漏	
皮脂缺乏症	277
酒 皸	277
多 汗 症	279
腋 臭	280
異 汗 症	281
水晶様汗疹	282
鼻部紅色顆粒症	282
<b>第十五章 硬化性及萎縮性皮膚疾患</b>	283
汎發性皴皮症	283
限局性皴皮症	284
初生兒皮膚硬化症	285
斑狀萎縮症	286
特發性皮膚萎縮症	286
老人性皮膚萎縮症	287
顔面片側萎縮症	287
外陰部萎縮症	287
血管性多形性皮膚萎縮症	288
色素性乾皮症	289
紅斑性狼瘡	290
圓板狀紅斑性狼瘡 - 播種狀紅斑性狼瘡	
<b>第十六章 皮膚色素異常</b>	293
雀 卵 斑	293
肝 斑	294
アチソン氏病	295
柑色皮症	296
先天性白皮症	297
白 癩 風	298

其他の白斑症	298
サットン氏遠心性後天白斑 - 海水浴後の白斑 - 癩風性白斑 - 他の皮膚疾患後の白斑 - 先天性對側性色素異常症 - 偽黴毒性白斑 - サルワルサン皮膚炎後の白斑黒皮症	
<b>第十七章 毛髮病</b>	302
脱毛症	302
結髮性禿髮症	302
顛頂部萎縮性脱毛症 - 額部相對性脱毛症	
寄生性疾患によるもの	303
原因未詳の脱毛症	303
聯珠毛	303
毛髮の母地たる皮膚の疾病に原因する脱毛	304
脱毛が併發症狀に過ぎぬもの	304
脱毛を主要症候とするもの	304
圓形脱毛症	305
枇糠性脱毛症	307
毛囊角化性脱毛症	309
集簇性禿髮性毛囊炎	309
假性禿髮症 - 禿髮性毛囊炎 - 狼瘡狀瘰癧 - 深部禿髮性毛囊炎	
結節狀裂毛症	312
黃菌毛	312
砂 毛	312
<b>第十八章 皮膚腫瘍</b>	314
上皮より發生する皮膚腫瘍	314
疣 贅	314
尋常性疣贅 - 青年性扁平疣贅 - 老人性疣贅	
疣贅様表皮發育異常症	316

傳染性軟屬腫	317
尖圭コンヂローム	318
皮膚乳嘴腫症	320
結締織より發生する良性腫瘍	320
纖維腫	320
レツエクリングハウゼン氏病	320
蟹足腫	321
眞性ケロイド—癩痕ケロイド	
脂肪腫	322
黄色腫	322
扁平黄色腫—結節性黄色腫—糖尿病性黄色腫	
弾力纖維性假性黄色腫	323
膠様稗粒腫	324
石灰沈着症	324
先天性畸形に屬するもの	325
母斑	325
組織母斑	325
色素性母斑—小兒斑—軟性母斑—硬性母斑	
器官母斑	326
血管腫—貧血性母斑—淋巴管腫—軟骨性母斑—面 髓性母斑—皮脂腺腫—汗腺腫—多發性丘疹狀毛囊 上皮腫	
列序性母斑	330
筋組織より發生するもの	330
皮膚筋腫	330
囊腫に屬するもの	331
稗粒腫	331
粉瘤	331
汗囊腫	332
悪性腫瘍	332
皮膚癌	332

扁平皮膚癌—深行性皮膚癌—乳頭狀皮膚癌	
ペーゼット氏病	334
ボーウエン氏病	335
其他の癌前驅症	336
Erythroplakie—Leukoplakie—外陰部コンヂロ ーム様癌前驅症—皮角	
皮膚肉腫	338
菌伏息肉腫	338
白血病性及假性白血病性皮膚病	340
<b>第十九章 動物寄生及刺咬症</b>	341
疥癬	341
鼠咬症	345



# 論

皮膚は身體の全面を蔽ひ、直接に外界の刺戟に接觸するのみでなく、更に各種の重要な作用を營み、又内臟諸器官とも密接な交渉を有するもので、身體中最も主要な器官の一である。

之に關する一切の病理を研究し、之と他の器官臟器或は全身との生理的乃至病理的關係を究明するのが **Dermatologie** 皮膚科學或は **Dermatopathologie** 皮膚病學である。

世人は動もすると、皮膚科學を以て *Kleine Fach* として輕んずる傾向を有するけれど、今日の病理科學は皮膚科學上の知識から歸納せられたものが極めて多い。例へば彼の *Entzündung* の定義は皮膚の病變から確立せられたものであり、癌の病理に就て不朽の功績を致した山極博士の人工癌は、兎の耳に起した皮膚癌である。蓋し内臟の疾病は直接に之を見ることを得ず、僅かに手術の際に之を窺ひ、或は死後病理解剖によつて生前の病機を識るのである。反之皮膚病に於ては、其症狀は直ちに眼に之を視、手に之を觸れ得るのみでなく、日々疾病の變化を精細に觀測し得られ、從て之が治療には毫末も糊塗曖昧なるを許さない。不適當な *Behandlung* に依つて症狀が悪化すれば、患者も

亦直ちに之を知覚するのである。加之近時内分泌の研究及免疫學の發達は、益々皮膚の有する機能の重要性を示してゐるのである。Pocken 痘瘡、Masern 麻疹、Rubeola 風疹等の如き熱病疹の際に、發疹が著明なる時には病毒の内攻する憂が少なく、経過も短いとは古來俗間に信ぜられるばかりでなく、醫者も亦之を認める事實であるが、近年は純學理的立場から之を信じ、之を説明するに至つたのである。微毒患者に於て皮膚の發疹の著明な場合には、第二期に於てのみでなく、第三期、第四期に於て内臓殊に中樞神經に於ける繼發微毒は稀有なる事實がある。

元來皮膚は、全身を蔽ふて、外界から來る總ての刺戟に對して身體内部を保護するものである。即ち外界に對する保護作用を營む、之を **Exophylaxie** と稱するが、尙其他に溫の調節作用、分泌作用 (Wärme regulations-, Exkretionsvermögen) 感覺作用をも司るものとして重要である。此事は既に古くから知られる所であるけれど、其重要性に就ては生理學乃至病理學上猶認識の不足が發見される。即體內で製造される熱の80%は皮膚を通じて放散されるのであり、又炭酸ガスの他 Per-spiratio insensibilis により 300ccm の  $H_2O$  が皮膚を通じて蒸發する、是は時に300cc より 500cc に上り、更に發汗によつては著しく増加する。又腎臟に障害のある場合には、多量の Kochsalz, Harnstoff が皮膚の作用によつて排泄せられるのである。其他内臓機能の障礙は又よく皮膚に反映する。身體の強壯なる時と衰弱した時と皮膚の状態に著しき變化を起すが故に Sprache der Haut の語があり、或は皮膚は Spiegel innerer Leiden であると爲す者がある。

先に述べた皮膚の悪性微毒を有したものは神經系統の微毒性變化を起すことが尠なく、反之皮膚に微毒性發疹を缺いた者に腦脊髄微毒の

多いことに著目して Ehrlich Hoffmann は 1915 年に『微毒疹は皮膚の内分泌を刺戟して、内臓に對する免疫物質を産出せしむるものならん』との假説を發表した。即皮膚は外部に向つて皮膚を保護するのみならず、又身體内部に向つても防禦保護作用を營むものであるとなし、此作用を **Esophylaxie** と名附けた。Hoffmann の説によると、皮膚は皮膚自身に、或は Licht, Massage, Bäder 等の Reiz の影響の下に一種の物質を製造する、是が Blut 或は Lymphbahn を通じ、或は Nervensystem 殊に vegetative Nervensystem を經て内臓諸器官に作用し、各種の疾病に對して身體の保護をなすのである。此際 Blut, Blutgefäss od. Nervensystem に作用するのみならず、皮膚細胞から全身に作用する一種の物質が分泌される、即一種の内分泌が行はれるのであると云ふ。

皮膚が内分泌を營むとの學説は、已に 1903 年に Kreidl によつて唱へられてゐる。皮膚全面積の  $\frac{1}{2}$  に亘る火傷又は漆料を塗布した場合に險惡な全身症狀を呈し、時に死の轉機をとるのは單に中毒又は過度の體溫消失等の理由以外に、皮膚の内分泌が障礙される結果である。皮膚は元來一種の内分泌を行ひ、全身の新陳代謝を助け、或は體中の有毒物を中和する作用を有するので、全身表面積の  $\frac{1}{2}$  以上の皮膚火傷の際には廣面に渉る皮膚内分泌の中止が致死的の影響を全身新陳代謝に與ふる結果であると唱へられてゐる。

微毒に如上の事實が認められる他、結核に就ても狼瘡患者は割合に内臓結核を免れ、内臓結核患者には皮膚結核を見ることが稀であるとの事實がある。即皮膚に結核が存すれば、一種の保護物質が製造されて内臓を保護することを假想し得られる。

Tuberculintherapie に於ても、subcutane Injektion を行ふよりも

intracutane Injektionを行ふべしと云はれるのは、皮膚に於て抗体成生の旺盛なるを示すものである。

Pirquet の Tuberculinreaktion, Bloch の Trichophytonreaktion, 野口氏の Luetinreaktion 等は、皮膚の Allergie を利用して夫々 Tuberculose, Trichophytie, Syphilis の存在を證明せんとするものであるが、是は一種の Antigen-Antikörperreaktion によるもので、是に依つて皮膚が内臓或は他の器官の疾病に對して如何に鋭敏な反應を有するかを示すに足るものであり、入浴、冷水摩擦、海水浴等によつて皮膚を鍛練することが、如何に全身に好影響を與へるかは人のよく知る所である。

更に Haut の Pigment に就て皮膚が如何に重要な機能を營むかを述べよう。

皮膚色素の存在は、身體が常に其中に曝露する光線に對して極めて重要な意義を有するものである。

Finsen 氏に據ると、太陽光線中赤線及之に近い長波長線は能く皮膚を透過して皮下に迄達するが、紫外線に近づくに従つて透過力が減少する、即紫外線中波長の短いもの即化學的作用の最も強烈なものは表皮細胞層で已に吸収し盡くされ、紫外線中比較的長波長のもの乃至青色線は表皮を通過して真皮に迄達する。Busk の研究によると、乳頭層に達した光線の 99% は其中の毛細管網内の血液によつて吸収されるのである。即太陽光線中化學的作用を有する青色線乃至紫外線中の長波長の部分とが Blut に吸収されるが、細胞原形質及酵素に對して破壊力の最も大な短波長紫外線は表皮細胞によつて吸収されるのである。

Tappeiner 氏は螢光性物質の感作作用を研究し、螢光性物質が存在する際には、生活組織は短波長線を吸収して之を長波長線に變化させ

る作用を示すことを發見し、上皮細胞中の角質層及顆粒層細胞は螢光體で、此處に吸収された短波長の化學線は波長を變じて更に深層に進入するのであると唱へた。更に Rollier, Bering, Meirowsky 等に據ると、基底細胞層其他に存する色素顆粒を以て、一種の螢光性物質なりとし、共有する作用によつて短波長線も亦透過力を増加して皮膚の深層に達する。即ち色素顆粒は感作作用を營み、同時に若し化學線が過量に存在して基底細胞核或は其下層にある組織酵素に破壊作用を營まんとする時は、之を吸収して一種の防禦作用を行ふものである。

日光の直射によつて皮膚に色素の増加するのは、日光中の化學線的作用に因るのであるが、是は又化學線が過量に存在する際、その特殊的障礙に對する皮膚色素の防禦作用を證明するものである。又色素の増殖は光線の吸収を一層良好ならしめ光線エネルギーの利用を大ならしめる。

Zimmern, Meirowsky 氏によると、色素顆粒は一つの吸収體で、光線を吸収して其化學エネルギーを悉く熱のエネルギーに變じ之を貯藏する竈爐である。即光線中の化學線の持つエネルギーは、色素顆粒によつて熱に變化されて體内に輸送される。

Weidenreich 氏は此熱線が皮膚の水分蒸發作用に使用される、即皮膚の蒸發に要する溫熱は體内で産出されるのみでなく、皮膚色素を介して細胞に賦與される。斯くして色素は又體溫調節作用に關與すると唱へて居る。

Jesioneck 氏は色素は光線の爲に液化されて血液中に流入し、内臓に對して光線エネルギーを運搬する役をなすとも主張する。

以上の色素に關する諸説は、其適否は誠に判決し難いけれど、然し皮膚に於ける是等色素の變化移動に徴しても、皮膚に對内保護作用

Esophylaxie の活動しつつあることは想像し得られるであらう

Endlich kommt auch für den gesunden Menschen einer geeigneten Hautkräftigung durch Bäder, Abreibung, systematisches Bürsten u. s. w. eine grosse Wichtigkeit zu, da sie nicht nur gegen Erkältungen und mancherlei Infektion abhärtet und widerstandfähiger macht, sondern auch den inneren Organen und Nerven anregende und schützende Stoffe zuführt, deren vitale Bedeutung die künftige Forschung hoffentlich bald noch mehr als bisher aufklären wird. (Hoffmann)

## 第二章 皮膚の解剖 Anatomie der Haut

### 皮膚の表面 Oberfläche der Haut:

Haut, Cutis は全面積約 1,6 平方米を有し, 其表面には肉眼的に Cristae cutis, Hautleisten 皮丘と, Sulci cutis, Hautfurchen 皮溝があり, 縦横に錯綜して Hautfelderung 皮野をなす, 所謂指紋は之である。尙 Haut には Anhangsorgan として, Schweissdrüsen 汗腺, Talgdrüsen 皮脂腺, Haare 毛髪, Nagel 爪がある。

### 皮膚の層 Schichten der Haut:

Haut は次の 3 Schichten からなる

- I] Epidermis, Oberhaut 表皮
- II] Cutis, Corium, Lederhaut 真皮
- III] Subcutis, Tela subcutanea 皮下組織

#### I] 表 皮 Epidermis, Oberhaut

は更に次の各層に區分される。

- 1) Stratum corneum, Hornschicht 角層
  - 2) Stratum lucidum, Helle Schicht 透明層
  - 3) Stratum granulosum, Körnerschicht 顆粒層
  - 4) Stratum germinativum, Keimschicht 種子層
- 4 は又 Rete Malpighii マルピギー氏層とも云ひ, 更に分つて

- i) Stratum spinosum, Stachelzellenschicht 有棘層
- ii) Stratum cylindricum, Basalzellenschicht, Zylinderzellenschicht  
基底細胞層とする。

以下此各一層に就て述べると、

1) **St. corneum, Hornschicht:**

Epidermis の最上層をなすもので、Handteller, Fusssohle では甚だ厚い。此層をなす Zellen は Protoplasma が全く乾燥し、Kern は消失し、Zellmembran は壓平せられて硬い Keratin 角質よりなる膜に變じ、相互の Zellen は密着して Hornplättchen 角板をなし、其間には殆ど空隙を存しない。

2) **St. lucidum, helle Schicht:**

一、二層の Zellen で Hornschicht の下部に在り、其 Zellen の Protoplasma は油状の Eleidin に變化して透明である。Handteller, Fusssohle に於て見られるが、他の皮膚面では多く此層を缺如する。

3) **St. granulosum, Körnerschicht.**

2-4 層の扁平な Zellen よりなり、其 Zellen は Protoplasmafasern を有せず、光澤ある Granula 顆粒即ち Keratohyalinkörperchen 晶様角素顆粒を有するのが特徴である。

此層の細胞は猶 Kern を有し細胞間溝も認めらる。

4) **St. germinativum, Keimschicht**

Keimschicht の最下部で、Cutis と接するのが Basalzellenschicht である。此 Basalzellenschicht は規則正しく並列した Zylinderzellenschicht で、此 Zellen は旺んに Mitose (indirekte Kernteilung 間接核分裂) によつて増殖し、其陳腐なものが漸次上層の各細胞に移行し、上層に至るに従ひ益々扁平になるのである。其 Protoplasma は多くの Mel-

anin 色素顆粒を藏し、其 Protoplasmafasern は縦に並列し、細胞外に於て Cutis に連絡する。Stachelzellenschicht は Basalzellenschicht 以外の Keimschicht が之であつて、4-8層の Rundzellenschicht である。此 Zellen は Kern が大きく圓く、polygonal 多角形で、周圍に多數の Protoplasmafortsatz s. Stachel 原形質突起或は棘を有して相互に連結する故に Stachelzellen 有棘細胞の稱がある、従て細胞と細胞との間に宛も橋を架した如くであるから、之を Interzellularbrücke 細胞間橋と稱へ、其間に間溝を作る。是が Interzellularraum 細胞間溝で其中には Epithellymph を充たし、Cutis の淋巴腔と交通して Ernährung が行はれると共に Cutis から marklose Nervenfasern 無髓神經纖維が入り込む。

## II 眞皮 Corium, Cutis, Lederhaut

Bindegewebszellen と kollagene Fasern とよりなり、elastische Fasern が之を纏絡する。其他 glatte Muskelfasern, Blutgefäss, Lymphgefäss, Nerven, Nervenendigung, Talgdrüsen, Schweissdrüsen, Haarbalg を藏する。

kollagene Fasern は 大小の Bindegewebsbündel を作り網状をなす故に眞皮を又 Stratum reticulare 網状層とも呼ぶ。

眞皮の上層は無数の Papillen 乳頭を形成して表皮内に突起する。故に此部分を Stratum papillare 乳頭層と名付け、之に對して表皮の突起を Epidermis-od. Retezapfen 表皮又は網突起と呼ぶ。

乳頭の數、長短、大小及配列は身體の部位により一定しない、又 Haut を伸展すれば扁平になる。身體の部位により密度をを異にし、手掌、足趾に最も密で、線状に並列する。



Papilla は最も Blutgefäss, Lymphgefäss, Nerven に富み, physiologisch に極めて重要な Schicht で, Blutgefäss を有しない Epidermis の Ernährung 及び Stoffwechselprodukt の收容を行ふ, 従て Haut の Erkrankung には最も密接な關係を有する部位である。又乳頭の存在により, Epidermis と Cutis との接觸面は著しく擴大される。元來此兩者の結合は, 其間に Basalmembran が存在せず, Epidermis の Basalzellen の Protoplasma から出る Wurzelfüßchen, Herxheimer-sche Spiralen 細根と, 真皮上層の Bindegewebe から分岐する微細の纖維と聯結することにより結合されるのである。従つて Interzellularräume des Epidermis 表皮細胞間溝を流れる Lymph は, 自由に乳頭内の Lymphräume と交流することを得るのである。

### III] 皮下組織 Subcutis, Tela subcutanea,

長い Bindegewebsfasern と, elastische Fasern とが疎大な網を形成して, 其間に多量の Fettgewebe を容れる, 故に一名を Uterhautfettgewebe od. Panculus adiposus 皮下脂肪組織と呼ぶ。

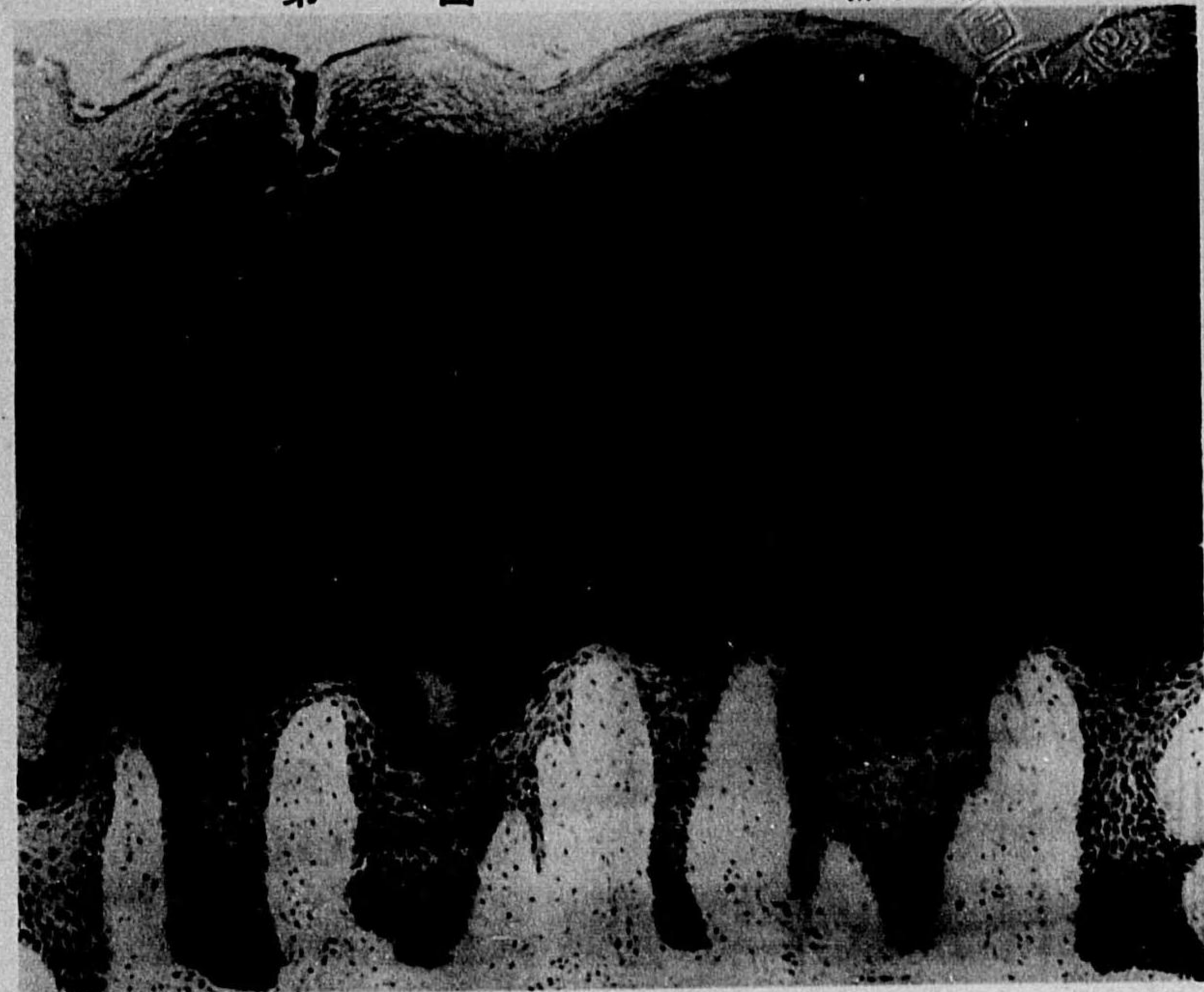
### 皮膚附屬器官 Anhangsorgane der Haut

#### I] 血管 Blutgefäss:

Subcutis 中の subcutanes Arteriennetz 皮下血管網から起る血管が真皮内を斜走して表皮直下に至り, 分岐交通して subpapillares Arteriennetz 乳頭下血管網を作る。是より Kapillaren を出して乳頭内に入り, Kapillarschlinge 毛細管縮を作つた後靜脈毛細管となる。Venen は Arterien と同様に, subpapillares Venennetz, subcutanes

第一圖

10LJ Mädchen 指尖ノ皮膚



第二圖

成人頭皮



Venennetz を作る。

### II 淋 巴 管 Lymphgefäss:

乳頭下及び皮下淋巴管網があり、乳頭下淋巴管網は乳頭の毛細淋巴管網に連なり、表皮の細胞間溝及び真皮の淋巴腔内の淋巴液を收容する。

### III 神 經 Nerven:

Haut の tiefe Schicht に於て疎網を作り、是より分枝しつつ Blutgefäss に沿ひ上行し Papillarschicht に達して此處に密網を作る。

是より分枝した Nervenfasern は、或は Cutis 中の Bindegewebe 内に遊離し、若くは Terminalkörperchen 終末小體に入る。

Terminalkörperchen には

Corpuscula tactis Meissneri	マイスネル氏觸體
Cor. bulboidea Krauseri	クラウゼ氏小體
Cor. Vater-Pacini	ファテル パチニー氏小體
Cor. Ruffinii	ルフィーニ氏小體

があり、markhaltige Nerven は此内に入り微細な Nervenfasern に分裂して密網を形成する。

以上は皆 sensible Nerven 知覺神經であるが、尙 Haut には marklose Nervenfasern 無髓神經がある。Hautgefäss, 殊に Papillarschicht の Kapillaren, Haarbalg, Schweißdrüsen, glatte Muskel に達し密網をなして之を纏絡し、又は表皮直下で密網を形成した後、分枝して網絲を作りつつ表皮の Keimschicht 内に入る。或は Achsenzylinder 軸索を裸露したまゝ鉤状をなして終り、或は突端を Keimschicht の細胞

中に挿入し、一部は表皮の深層及び之に接する Papillarschicht 中に存在する Tastzellen 觸細胞に附着する。

#### IV] 汗腺 Glandulae sudoriferae, Schweißdrüsen:

Corpus glandulae sudoriferae, Schweißdrüsenkörper 汗腺體は tubulöse Drüsen で Epidermis が其表面から陥没して生じたものである。一層の分泌細胞が並列し、其周圍に glatte Muskelfasern と Basalmembran があり、更に其外面に Bindegewebsmembran があつて之を包む。此腺體は Cutis の tiefe Schicht 又は subcutane Gewebe 内に存在し、之より出づる Ductus sudoriferus, Ausführungsgang 排泄管は初め直線をなして上行し、乳頭の間を通つて表皮に達し、夫より spiralige Windung 螺線状回轉(2-16回)をなし表皮を貫き trichterförmig をなして皮膚表面に開く。其開口部即 Porus sudoriferus, Schweißporen 汗孔は圓形で肉眼を以て認め得られる。

Schweißdrüsen は glans penis, Innenfläche des Praeputium に之を缺く他、全身の Haut に存在し、部位により其密度を異にする。殊に Handteller, Fusssohle に多く、1qcm 中に前者は 373 後者は 369 個を算するが Nacken, Rücken, Gesäss では僅かに 57 に過ぎない。

Schweißdrüsen には ekrine Drüsen と apokrine Drüsen の二種がある。

##### 1) Ekrine Drüsen:

表皮組織から分化したもので、Haar と關係なく直接外表に開口する普通の Schweißdrüsen で、幼時から其機能を營む。其分泌は Drüsenzellen の分泌機能によつて營まれる。

##### 2) Apokrine Drüsen:

Haarbalg から分起する大形の Schweißdrüsen で、Haarbalg 中に開口し、女子では Achselhöhle, Brustwarze, Umgebung der Nabelgrube, Analgegend, äussere Genitalien に、男子では主に Achselhöhle に存在し、Pubertät に至つて始めて機能を開始し、老年に至れば退行する。即ち Geschlechtsfunktion と密接な關係を有するのである。

此腺の分泌物は Drüsenzellen の崩壊によりて行はれること Talgdrüsen と同様である。

#### V] 皮脂腺 Glandulae sebaceae, Talgdrüsen

alveoläre Drüsen で、Haar と Haut との作る鈍角内に存し、Handteller, Fusssohle 及 dorsale Fläche der Endophalangen を除く全身に存在する。

Schweißdrüsen に比すると淺く、Cutis の obere Schicht に位し、Haar と相伴ひ Haarbalg 中に開口する。但し毳毛部では Drüsenkörper が較大で、毳毛が却て之に附屬する如き觀を呈する。

毳毛脂腺は1-2個、硬毛で4-6個の單腺が環状に Haarbalg を圍繞する。故に一名之を Haarbalgdrüsen と稱へる。

又 Haarbalg がなくて Talgdrüsen のみ存する部位もある。即ち Augenlid, Lippenrot, Nasenschleimhaut, Rektumschleimhaut と äussere Haut との境界, Wangenschleimhaut, Glans penis, Innenfläche des Praeputium, kleine Schamlippe, Clitoris, weibliche Brustwarze und Warzenhof. である。

Drüsenkörper は Basalmembran の上に cubische Zellen があり、

其内方に Fettkügelchen を含む大小不同の Zellen がある。是が Talgzellen で fettige Degeneration に陥ると Fett が遊離して腺腔内に出で、Ausführungsgang を経て Haarbalg 内に排泄される。

### VI) 爪 Ungues, Nagel

Epidermis の化生せるもので、Nagelplatte, Nagelkörper 爪甲は扇面の如く Nagelbett 爪牀の上に坐し、其後端及兩縁は皺襞に覆はれる之を Vallum unguis, Nagelwall 爪廓と云ふ。

厚さは 1-1.5 m.m. で、Radix unguis, Nagelwurzel 爪根及び Margo lateralis 爪縁に向つて菲薄になる。

Lanula, Mündchen 爪半月より後方が即ち Nagelwurzel で、此部分の Nagelbett が Matrix unguis 爪母である。

### VII) 毛 髪 Pili, Haare

身體中で Haare を有せざるは、僅に Lippenrot, Handteller, Fusssohle, Endophalangen, Glans penis, Innerblatt des Praeputium, kleine Schamlippe のみである。

Haar に二種あり、一は身體の殆ど大部分を被ふ短細な Wollhare, Lanugohaare 毳毛で、一は頭部、眼瞼、眉、鼻孔、鬚髯、腋窩、生殖器附近に存する derbe Haare 硬毛である。

成長せる Haare には次の三層を區別し得る。

- 1) Scapus pili, Haarschaft, 毛幹及 Radix pili, Haarwurzel 毛根
- 2) Haarscheide 毛鞘
- 3) Folliculus pili Haarbalg, 毛囊

Haarschaft は Haare の皮膚面上に遊離する部分で、其斜に皮下に

在る部分を Haarwurzel, Radix pili 毛根と謂ひ、皮膚面から抽出する處を Haarfollikel 毛囊口と呼ぶ。

Haarwurzel の周圍には、上皮に屬する Haarscheide と、Bindegewebe よりなる Haarbalg とがあつて之を圍繞する。

Haarbalg, Folliculus pili は Cutis の obere Schicht から生じ、内外二層の Bindegewebsmembran である。äussere Schicht の Bindegewebsfasern は Haarschaft に並行して縦走し其まゝ周圍に移行し、innere Schicht は輪状をなす纖維層で、其内部に殆ど無紋の Glashaut 硝子膜があり、菲薄強靱で内方は毛根鞘に接する。

Haarscheide 毛根鞘は

äussere Wurzelscheide 毛根外鞘

innere Wurzelscheide 毛根内鞘

とよりなり、外鞘は Keimschicht の延長したもので、5-12 層の細胞層から成り、其最も外層にあるものが Epidermis の Bazalzellschicht に相當する。

内鞘は Hornschicht に相當するが、脂腺開口部即 Haartrichter 毛漏斗部より下方では其性質を失ひ、分れて二層になる。外層は Henlesche Schicht ヘンレー氏層と呼び、一、二層の低い無核上皮細胞であり、内層は Huxleysche Schicht フックスレイ氏層と稱へ有核細胞の單層よりなる。即ち Haarscheide は Haartrichter 迄は通常の状態に於て Hornschicht を有するのである。

内鞘の更に内方には、Cuticula vaginae 鞘上皮があり、一層の無核角化細胞で、上方に向ひ屋瓦状に配列し、此と同じ構造を有する毛皮と密着する。

Haarschaft 本來の毛は Haarscheide に包まれて其内部に存在す

る。是に

Substantia medullares, markgewebe 髄質

Substantia corticales, Rindengewebe 皮質

Cuticula pili, Haaroberhäutchen 毛囊皮を區別する。

Markgewebe は Haarschaft の中軸をなすもので、Markzellen 毛  
髓細胞と稱する cubisch 方形の Epithelzellen よりなり是が二層に  
並ぶ。

Rindengewebe は Rinden oder Faserzellen 皮質細胞又は纖維狀  
細胞よりなり、Markgewebe より遙に厚い。

Markzellen 及び Rindenzellen は内部に Pigmentgranula 色素顆  
粒と、Luftblase 氣泡とを含む。Zellen は元來黒、褐、紅、黄色等  
の色を帯び、此固有色と Pigmentgranula とにより、種々異なる毛髪  
の色澤を形成するのである。老年に至ると、此 Pigment が消失し、  
同時に Markzellen の含氣量は益々増加し、Epithelzellen の間腔に迄  
空氣が入り Canities 白髪又は Poliosis 白毛に變ずる。

毛表皮は鞘表皮と同じ構造を示すものである。猶毳毛は多く Mark-  
substanz を缺く。

Haarwurzel の unteres Ende は葱根狀に膨大して、Haarschaft の1,5  
乃至3 倍の太さに達する。之を Bulbus pili, Haarzwiebel 毛球と云  
ふ、其の Uterfläche の中心に空洞を作り、Haarbalg の Bindege-  
webe が之を充填する。即ち毛乳頭 Papilla pili, Haarpapille で Cutis  
の Papilla に相當するものである。而して之に對して Cutis の Basal-  
zellenschicht の如く Haarwurzel の基底に Matrixzellen 母細胞があ  
つて、是から Haarschaft の Marksubstanz と Rindensubstanz とが  
産出される。Haar が成長すると同様に、毛表皮、毛根鞘も亦 Haar-

papille に接して各々 Matrixzellen があり、Haarpapille から營養を  
吸収して新生されるのである。

Blutgefäss und Nerven der Haare

Haarbalg は Subpapillararteriennetz より來る Kapillarenetz に  
より圍繞される。Haarpapille の Blutgefäss は皮下血管網より來る。

Haarbalg には又 Markhaltige Nervenfasern が分布して、Haar を  
して一種の sensibles Organ たらしめる。神經の一部は marklose  
Nervenfasern となつて Glashaut に達し、更に分岐して äussere Wur-  
zelscheide に達し、其細胞間腔に終る。

頭髮の數は平均 80,000 本あり、其他の身體各部に於ける derbe  
Haare は約 20,000 本を算する。毛髪の壽命は部位により異なり、頭部  
髮際の短毛は 4-9 Monate, 頭髮は 2-4 Jahre, 睫毛は 100-150 Tage が  
其平均年齢である。従て一日の脱毛數は男女共 18-26 Lj. では 30-108  
本, 20-30 Lj. では 90本, 50-60 Lj. では 120 本以上に及ぶ、毳毛の壽命  
は 100 Tage を出でない。

#### VIII] 起毛筋 Musculus arrector pili

Haarbalg に屬する Glattemuskelfaserbündel で、Talgdrüsen と同  
じく Haarbalg の鈍角側で其下方三分の一又は二分の一邊に附着し、  
外側から Talgdrüsen と密接する。周圍殊に下端附近は多數の elasti-  
sche Fasern により圍繞され、上方 Papilla に向ひ斜に扇狀に展開す  
る。

是が kontrahieren すると、Haar は直立し、同時に Talgdrüsen の  
分泌が促され、Kapillaren の Anaemie を招き Haut は blass となり  
所謂 Cutis arserina, Gänsehaut 鷓皮を來す。

Nerven は markhaltige Nerven があり、是が marklose Nervenfasern に分岐して Muskelfasern の外面に附着する。

### IX 色素 Pigmentum

Hautfarbe は主として Basalzellen 内にある Pigmentgranula、及び Cutis 中に存する一種の Bindegewebszellen 内にある黄、褐、黒色の微細な Pigmentgranula の存在に原因し、其量と色とによつて各人各種の皮膚色をなすのである。

此 Bindegewebszellen は Melanoblasten od, Chromatophoren と呼ばれ、真皮内に多く存在するのみでなく、棘細胞間隙内に Langerhans' sche Zellen として存在する。

Pigmentgranula の由來及其本態に就ては、今日猶不明に屬するが鐵反應を呈するものと、然らざるものがあり、鐵反應を示すものは Haemosiderin で Blutpigment から由來すると謂はれる。鐵反應を呈せざるものは Melanin と稱し Basalzellen 中の Pigment は之に屬す、之は無形の有機性色素で炭素、窒素、硫黄、酸等を含有し、Alkali に溶解し Säure に析出せられるが、其 chemische Bestandteile は猶不明である。最近 Bloch は皮膚及毛髪内にある Pigment は、此等の Epithelzellen 内に在る酸化酵素を介して Dioxyphenilalanin 即ち Dopa より生ずる Dopamelanin なりと稱へてゐる。

## 第三章 皮膚の生理 Physiologie der Haut

- I) 感覺作用
- II) 保護作用
- III) 呼吸, 分泌, 吸收作用
- IV) 體溫調節作用
- V) 免疫, 内分泌作用

### I) 神經作用 Funktion der Hautnerven

Haut の Nerven は sensible Nervensystem と vegetative Nervensystem とに分たれる。

#### 1) 知覺神經 Sensible Nervensystem

sensible Nerven の司るものとしては、痛覺、觸覺、溫冷覺がある、此等は夫々之を分擔する特殊の神經末端によつて知覺されるので、其間に嚴重な獨立性が在り、外界から與へられた刺戟の中から個々の刺戟を撰擇して反應するものである。又其各自の Nervenendigung 又は Terminalkörperchen の存在する部位以外の場所に與へられた刺戟には毫も反應しない。故に Frey氏 は Haut に Tast-od. Druckpunkt 觸點又は壓點, Kältepunkt 冷點, Wärmepunkt 溫點, Schmerzpunkt 痛點を區別した。例之痛覺は痛點の存在する部位に、之に相當する刺戟が加へられた時に限り痛覺を喚起するのである。此各刺戟點は全身に分布するが、其密度は種類により處によつて異なり、從て知覺の鋭

敏強弱は、其分布密度に正比例する。密度の最も大なるは痛點で、觸點之に次ぎ、冷點、溫點は最も疎である。

i) 觸覺 Tastsinn:

觸覺神經は Haarwurzelscheide の神經網及 Meisner'sche Tastkörperchen に入る。

Tastsinn は Tast-od. Druckpunkt により感受され、壓迫感により感覺を喚起される。接觸感、振動感、擦感も同様である。又 Tastsinn は Ortsinn とも密接な關係がある。

Tastsinn の密度の最も大なるは Fingerspitze で、殆ど空虛を證明し得ないに反し、Rumpf では甚だ疎である。

Ortsinn は主として Tastpunkt により感受されるが、又溫點、冷點、痛點によつても喚起され同様の感覺を中樞に傳へる。

擦感 Kitzeln, Kitzelempfindung

極めて表面的な輕微な而も反覆する接觸、又は遅々として皮膚面上を移動する刺戟によつて誘導される。

然し擦感には精神作用が或程度の交渉を有す。

癢感 Jucken, Juckempfindung

壓點により感覺されるとも云ひ、或は痛點に對する輕微な刺戟によつて起るとも謂はれ、又化學的刺戟によつても起り易い、然し皮膚以外の部位に於ける神經の刺戟によつても起り得るもので皮膚に原因するものは、局所を搔破し、又は壓迫して貧血を招來すると之を鎮靜することが出来る。是れ癢感が他の感覺と異なる處で寧ろ痛覺との類似

を思はしむるものである。

ii) 溫熱感 Temperaturssinn

Wärmesinn と Kältesinn とあり、前者は Ruffinische Körperchen に於て、後者は Krause'sche Endokolben に於て感覺せらる。

然し Tastsinn と異なり、上述の Terminalkörperchen のみに限らず神經幹又は Zentralnervensystem の Reizによつても起り、尙外部よりの作用のみでなく、皮膚を灌注する血流による熱の變動によつても刺戟される。

高度の低溫 ( $-10^{\circ}\text{C}$ 以下) 及高溫 ( $47^{\circ}\text{C}$ 以上) は疼痛を喚起する。

如斯強烈な刺戟は、溫知覺神經の刺戟領域以外で、寧ろ痛點を刺戟するからである。

iii) 痛覺 Schmerzssinn

固有の中樞神經細胞と、神經纖維と表皮細胞間に遊離する Terminalkörperchen とによつて感覺され、壓點に比し其充奮性は著しく低いが、其の刺戟の領域は極めて大である。

痛覺は種々の刺戟により喚起されるが、又組織内の壓の變化及化學的作用によつても刺戟される。是れ皮膚の表在性炎症に疼痛甚だしく慢性症に輕微な理由である。

又神經幹の刺戟によつても感覺される。唯此際痛覺は皮膚に存在する。

以上の外 sensible Nerven の Reiz は又 direkt, indirekt に Haut の Zirkulationssystem に影響し Hyperaemie, Anaemie 時に Oedem を將來する。

## 2] 自律神経系又植物神経系

## Autonomes od. vegetatives Nervensystem

Sympaticus, Parasympaticus があり, glatte Muskel, Blutgefäss, Schweissdrüsen, Talgdrüsen の Funktion を支配するのみでなく, 皮膚細胞の全生活力を維持支配し, 全身の Stoffwechsel との関係を司どる。其内 vasomotorische Nerven は, 其 Zentrum を Medulla oblongata と Rückenmark とに有し, 従て精神作用, 延髄, 脊髄の刺戟又は皮膚末梢血管の刺戟により亢奮し或は弛緩する。精神作用が顕著な影響を有するは人のよく識る處で, 喜怒哀樂により顔色が或は蒼白となり, 或は潮紅するは即其結果である。延髄中樞の刺戟によりても皮膚に充血を來す, 即ち血中炭酸ガスの増量したとき, 皮膚の充血を招くは之に因る。

汗脂の分泌, 起毛筋の收縮も亦自律神経により支配され, 皮膚の栄養, 毛髮色素の成生も其支配下に屬するのである。

## II] 分泌作用 Sekretion der Haut

## 1) 汗分泌, 發汗 Schweissabsonderung

體温の調節に至大の關係を有するものである。體温が上昇し, 毛細管の充血と其旺盛なる血流のみでは體温調節に不充分なる時に, 發汗によつて體温を低下せしめる, 即ち汗の蒸發は著しく皮膚を冷却し, 體温を降下せしめる。又發汗の主要なる作用は, 水分の排泄にある故に, 他器官殊に腎臓の官能に障礙があれば, 汗分泌は代償的に著しく亢進するもので, 場合に依つては能く腎臓機能の一半を代償し得るの

である。發汗が甚だしい時に尿量が減少して濃厚になるは, 日常經驗する處である。従て又體温と全然没交渉にも發汗は行はれるのである。

汗分泌の中樞は延髄に在り, 第二次中樞が Brustmark, Halsmark, の Vorderhorn 中に存在する。是より出でた Nervenfasern は sympatische Nervenfasern と共に走つて, Drüsenkörper に達するから, Reiz が其経路中の孰れかの部分に加へられれば, 發汗を來す。其他 Grosshirn は或る Vasomotoren を介して間接に, 又は種々の精神作用に依つて汗分泌を喚起する。例へば精神亢奮せる際とか, 非常な憂慮苦悶を抱く際に, 手掌, 腋窩の發汗を見るが如くである。又 Drüsenzellen に直接に作用して其分泌作用に影響するものもある。例之 Pilocarpin は發汗を促し, Atropin は機能の麻痺を起すが如きである。

發汗は間斷なく行はれるものであるが, 普通の場合には汗は直に瓦斯體となつて發散するから之を認め得ないに過ぎない。但し個々の Schweissdrüsen は交互に其作用 (Schweissabsonderung) を營むのである。

## 汗水 Schweiss

汗腺細胞の固有の分泌機轉に依つて産出されるもので, 1% の固形物と 99% の水分とからなり, 比重は 10036-1010 を示し, 鹹味を帯び, 弱酸性を呈する。但し本來の腺分泌物は alkalisch であるが, 酸性の皮脂分泌物と混するが故に酸性を呈するのであつて, 高度の汗分泌がある際には元來の alkalisch を呈する。

固形成分は主に NaCl と  $\text{CO} < \begin{matrix} \text{NO}_2 \\ \text{NO}_2 \end{matrix}$  (Harnstoff) で, 其他には  $\text{H}_2\text{S}_4$  (Schwefelsäure),  $\text{H}_3\text{PO}_4$  (Phosphorsäure) の如き無機酸と其鹽類及び尿酸・中性脂肪・揮發性脂肪酸類の如き有機物を含有する。



汗が臭氣を發するのは、脂肪酸の分解するためで、又時に糖、血液の如き病的産物を含有し、或は内服せる藥物・沃度・臭素・砒素・水銀・硫黄・酒精・吐根・阿片・バルサム精等が汗腺より排泄されることがある。

## 2) 皮脂の分泌 Talgabsonderung

Talgdrüsen の Zellen が fettige Degeneration に陥り、其崩壊して生ずるもので、Fett と Wasser とよりなり、Schweissdrüsen の如く Schweiss の眞の分泌と機能に因つて産出されるのではない。

Fett は Fettsäure, Glycerinester, Cholestearin, Cholesterinester よりなり、食物として攝取した Fett も其儘排泄され得る、故に汗水の場合と等しく藥物 (Brom, Jod etc.) も ausscheiden されて其作用を爲し得るのである。

Hautalg は先づ毛漏斗に排泄され、次で皮膚表面に流出して Haut, Haar を滑澤ならしめる。

其分泌量は脂腺の大小と數とにより、又年齢によつて異なる。顔面部・有髪部・胸部中央及背部には其數多く且つ形も大きい。

分泌旺盛な青年期では皮脂は往々白色の塊をなして排泄管中に堆積する。

## III] 體温調節作用

### Regulierung d r Körpertemperatur

Epidermis の Hornschicht は熱の不良導體で、外界の過熱に對して身體を保護し、同時に又體温の過度の消失を防禦する作用をなすの

である。

體温の放散は外氣温度の變化に伴つて増減される。蓋し皮膚が其血液循環の状態を變化して體温の調節を行ふので、外界の温熱に遭ふと毛細管は擴張し、Blut の Zirkulation が旺んになり、Haut は潮紅し體温は多量に放散される。若し外界の温度又は體内の熱産出が一定度を超過すれば、Haut は更に發汗作用によつて之を調節する。又發汗によつて多量の熱を失ふのみでなく、汗によつて濕潤した皮膚は熱の放散を容易ならしめるのである。

反之外氣が寒冷ならば皮膚は蒼白に變ずる、是れ毛細管が收縮して血液の循環が減退するためである。此際滑平筋も寒氣のために反射的に收縮して皮膚上層は緻密になり、一層毛細管腔を狹隘ならしめ、皮脂の分泌も増加して皮膚を被ひ、従て熱の放散は著しく減少する。

## IV] 皮膚の呼吸作用 Respiration der Haut

Haut は Hornschicht を通じて、肺呼吸の 220 分の一に當る CO<sub>2</sub> を排泄し、その 180 分の一に當る O<sub>2</sub> を吸収する。

又絶えず水蒸氣を排泄し、其量は 24St. に體重の 67 分の 1 に達すと云はれる。之を Haut の Perspiratio insensibilis 不知覺的呼吸と稱し、發汗が高度で皮膚面に液化する時は Perspiratio sensibilis 知覺的呼吸と云ふ。

## V] 皮膚の吸収 Resorptionsfähigkeit der Haut

1) 健全な皮膚面からは固體、液體は吸収されない。

- 2) 流動體は表皮角層が膨脹液化した時には吸収される。
- 3) 瓦斯體は往々多量に吸収され得る。沃度ガス・硫化水素・炭酸ガス・酸素等又體温により容易に氣化する水銀軟膏の如きもの。
- 4) 脂肪、又は軟膏の如く脂肪に溶解した物質も吸収され易い。
- 5) 硫黄・沃度・昇汞の如き皮脂及表皮脂肪に溶解する藥品は割合によく角層を通過する。
- 6) 鹽類等の水溶液としては吸収せられないものも、之を電流の極として身體の一部を其中に浸し他の部位に他極の導子を貼じて通電すれば、容易に吸収せしめ得る。

#### VI] 保護作用 Schutzvermögen der Haut

- 1) 皮膚は強靱にして弾力に富み、又よく伸展移動する性質により外界から來る傷害に對して身體内部を保護する。
- 2) 器械的傷害・打撲・壓迫等に對しては、重積した弾力性の subcutane Fettgewebe はよく之を緩和する。
- 3) Hornschicht は chemische Schädiguug に對して抵抗強く、又容易に Bakterien の侵入を許さない。唯生理的に存在する開口部、即毛囊孔と汗孔とが、往々にして細菌の侵入門戸になるのである。
- 4) Hornschicht の有する液體の不透過性は、内部體液の消失を防ぎ、Hornschicht のみならず皮膚全層の熱に對する不良導性は氣温の變化が身體に及ぼす影響を減弱させる。
- 5) Hautpigment は化學線に對する防禦作用を營むものである。

## 第四章 一般病理と症候

### Allgemeine Pathologie und Symptomatologie

Haut の病變は肉眼的に之を視、手に之を觸れ得るが故に、其診斷も亦極めて容易なるが如くであるけれど、實際には其病狀が甚だ多種多様の外觀を呈するが爲に、初學者をして往々迷路に彷徨するの感を抱かしめる。併し其症狀を精細に觀察し、微細な變化に迄よく注目すれば之に依つて相互に類似した皮膚病をも鑑別し得るのみでなく、外觀によつて已に克く病理的變化をも覗ひ識り得られるのである。

皮膚病の診斷に當つては、問診よりも視診に重きを置かなくてはならない。皮膚の色彩・光澤・病變の種々の性状を能ふる限り緻密に觀察し次に手に之を觸れて、其性状或は周圍との關係を究め、かくて診斷に就き大體の成案を得て後、始めて問診を行ふのである。勿論問診によつて癢痒・疼痛其他の感覺の異常乃至疾病の發生經過を識り得るけれど、専ら觀察によつて診斷を下し患者の訴ふる所は参考に止めなければ、時に却て診斷の正鵠を失ふ憂がある。故に皮膚病學を學ぶに當つては、其各症狀に通曉し、觀察眼を鋭利ならしむる事が最大急務である。

### 一般病理學 Allgemeine Pathologie

皮膚の病變は、角層、種子層或は Anhangsorgane 等の一部に限局するものもあり、或は皮膚全層を侵すものもある。又深部組織から發して皮膚表層に病變の及ぶものもある。従て是によつて夫々症狀を異

にするは言を俟たざる處であるが、其病變の皮膚に現はれたものを **Efflorescenz, Exanthem, Ausschlag, 皮疹**又は**發疹**と稱へる。

### I] Stratum corneum の變化

1) **角層増殖**又は**角質過生 Hyperkeratose**: 角層細胞の Stoffwechsel が調和を失つて、病的に肥厚した場合を云ふ。此時は概ね Stachelzellenschicht も増殖する。併し Hyperkeratose は角質細胞の病的増殖の際のみでなく、角質細胞が固着して遊離しない場合にも亦起り得る。後者の場合には Stachelzellenschicht の變化を伴はぬこともある。

2) **落屑 Desquamation, Abschuppung**: 角質細胞が旺んに脱落する現象を云ふ。之に小さくて枇糠状をなす所謂 kleienförmige Abschuppung と、大きく葉状をなす lamellöse od. membranöse Abschuppung とを區別する。

3) **鱗屑 Squama, Schuppen**: Abschuppung により脱落せる角質細胞を云ふ。

Schuppen は通常乾燥して grauweisslich であるが、時に脂肪・血球を混じて種々の色を呈する。

4) **剝皮**又は**脱皮 Exfoliation**: Schuppen が相接續して甚だ大きな落屑をなすのを云ふ。

5) **枇糠疹 Pityriasis**: Exfoliation とは反對に、Schuppen が微細で、kleienartig の Schuppen が附着した Ausschlag を云ふ。

6) **角化症 Keratosis**: 増殖した角質細胞が鱗屑を形成せず皮膚面に厚く固着した状態である。

7) **不全角化 Parakeratose**: 種子層細胞の増殖が病的に亢進すると、Verhornung が充分行はれず、元來無核なる角層に有核細胞を混ざることがある。之を Parakeratose と稱し、Abschuppung を伴ひ常に Körnerschicht に變化があつて晶様角化顆粒を缺くことが多い。

### II] Stratum germinativum の變化

1) **表皮肥厚**又は**有棘層増殖 Acanthose**: Stachelzellenschicht の肥厚したるとき之を Acanthose と稱し、單に Keimschicht が肥厚するのみでなく、Retezapfen も肥大延長する。概ね同時に Hyperkeratose があり、又 Papillarschicht の病變を伴ふ。

2) **丘疹、小結節 Papula, Papel, Knötchen**: Stachelzellenschicht の限局性肥厚又は Hornschicht の増殖に因つて、限局性の且つ充實性の皮膚小隆起を呈するものを丘疹と云ふ。又皮下の浸潤や、脂腺分泌物等の蓄積に因つて發生することもある。其大きさは、針頭大から粟粒大・米粒大、或は扁豆大、豌豆大に及び、扁平に或は銳利に、時には圓錐形・半球狀に Hautniveau 皮膚面より隆起し、形も圓形・橢形・多角形等種々である。

隆起の度、硬度著色も表皮並に眞皮の變化の度に從て異なる。

3) **漿液性丘疹 Seropapel**: Papel の中心に漿液を含むものを云ふ。

4) **充實性丘疹 solider Papel**: Seropapel に對するもので實質性で液の滲出のなきものを云ふ。

5) **結節 Tuberculum, Knoten**: Papel の大なるものを謂ふ。概ね豌豆大から胡桃大に至るものを示す。

6) **瘤腫 Phyma, Knollen:** Knoten より更に大なるものを謂ひ、腫瘍状に皮膚面上に隆起し、或は莖を以て皮膚と連絡するもある。

7) **苔癬 Lichen:** solider Papel の一種で針頭大から麻實大に及び、終始充實性丘疹の儘で、決して他形の皮疹例へば水疱・膿疱等に變化することなきものを云ふ。

8) **苔癬化 Lichenification:** 皮丘が肥厚し従て皮溝が著明疎大になり、菱形の丘疹の集合した状を爲すもので表面は常に乾燥し決して濕潤しない。

### III] Cutis の變化

1) **斑 Macula, Fleck:** Hautniveau から隆起しない限局性病變的變化で、視診によつて認められるが、觸知する事の出来ない變化で、之に屬するものに次のものがある。

i) **紅斑 Erythema:** Papillarschicht の Kapillaren の充漲によつて皮膚の潮紅するを云ふ。故に指壓を加へて Blut を驅除すれば一時褪色する。

ii) **薔薇疹 Roseola:** 小さい限局性の紅斑で約爪甲大以下のものを指示する。

iii) **紫斑 Purpura:** 皮膚内の Blutung の爲に起る斑點で指壓によつて褪色しない。新鮮のものは鮮紅色であるが血球内血色素の變化に従て陳舊になるに従ひ、暗紫色となり綠色となり黄色となつて消失するのが特色である。

其出血が廣大で時に皮膚を擡起するものを **斑状出血 Ecchymosen**

と謂ひ、針頭大乃至扁豆大の圓形血斑を **點状出血 Petechien** と云ひ、線状のものを **線状出血 Vibices** と呼ぶ。

此紫斑は他の皮疹と結合して發生する事も屢々ある、即丘疹中に出血し、或は水疱内に出血して **血疱 Blutbeule** をなす如きである。

iv) **色素異常 Pigmentanomalie:** Hautpigment の増減による變化を云ふ。

a) **色素斑 Pigmentfleck, 色素沈着 Pigmentatio, Pigmentierung:** 色素の増加、色素の沈着によつて起る。

b) **異物の沈着による斑 Flecken die durch äusseren Einflüsse:** Tätovierung 刺青及 Argyrie 銀色症等が之に屬する。

c) **白斑 Vitiligo s. Leucoderma, 色素脱失 Depigmentatio, Depigmentierung:** 是には色素の全脱失を來す場合と、比較的減退を示す場合とある。

### IV] Epidermis と Cutis に渉る變化

1) **蕁麻疹 Quaddel, Urtica:** Stachelzellenschicht の Interzellularräume, 並に之に接する Cutis の Papillarschicht に起る急性限局性の漿液浸潤で、皮膚の扁平な隆起として現はれ、一過性のものである。消褪した後痕跡を止めず、又漿液が外部に滲出することはない。

2) **小疱・小水疱 Vesicula, Bläschen:** 多くは klare Flüssigkeit を有し、Hautniveau 上に隆起する小腔である。subepithelial, intraepithelial, 又は subcorneal に存在し、此部位に於ける漿液の浸潤と、局部細胞の崩壊性現象により發生し、或は汗瀦溜に因り生ず。

Grösse は naedlkopfgross bis halbreisskorngross で、Inhalt は時と

して trüben する事があり、又 Blut を混じて赤色、暗赤色を呈する事もある。

一定の神経枝に沿ひて集簇して發生する小水疱群を、**疱疹・匍行疹 Herpes** と云ふ。

3) **水疱 Bulla, Blase**: Bläschen の較大なるものを云ひ、多くは Reteschicht 内に在つて其 Boden は Basalzellschicht によつて形成されるが、時には眞皮と表皮との間に存在する事もあり、又 Hornschicht と Keimschicht との間に在る事もある。

孰れも多少半球状に Hautniveau より隆起し、薄い疱膜を被り、最初は被膜が緊張するが、少しく時を經過すると弛緩し皺襞を形成する又被膜を破れば漿液を泄す。Inhalt も Bläschen と等しく時に潤濁し又は血液を含む。

其内腔は多くは單室であるが時に多室なるもある。

4) **小膿疱又は膿疱 Pustula, Eiterbläschen od. Eiterblase**: 水疱、小水疱の内容に Leucocyten を混じ、爲に乳白色又は黄色を呈するもので、炎症の結果發生する事が多く、従て周圍に roter Hof 紅暈を伴ふ。

5) **疱疹又は匍行疹 Herpes**: Bläschen の集簇した意義であるが、現今は一定の神経枝に沿ひ連続發生した水疱疹を云ふ。

6) **天疱瘡 Pemphigus**: 健全な皮膚面に反覆して發生する水疱を天疱瘡と云ふ。

7) **囊腫 Cystis, Zysten**: Cutis 中に存する空洞で、結締織膜又は上皮膜を被わり、種々の内容(皮脂、體液等)を有するものである。腺體、其排泄管又は血管の擴張、又は上皮の絞斷されたものより發生する。

### 原發疹と續發疹 Primärefflorescenzen und Sekundärefflorescenzen

總ての Ausschlag は、之を原發疹と續發疹とに大別する事が出来る。**Primärefflorescenz** 原發疹とは、疾病現象の最初の、且つ疾病の原因が直接作用する結果として發現するもので、前述の Macula, Papel, Knoten, Phyma, Quaddel, Bläschen, Blase, Pustel, Zysten が原發疹である。

之に對し **Sekundärefflorescenz** 續發疹とは、原發疹の存在する間に之に續發する變化、或は原發疹の消褪した後に遺る病的變化である。原發疹の直接變化によつて生じ、或は他の要素の附加するに由つて發生するもので、前述の Schuppen, Pigmentatio は之であるが其他之に屬するものを擧げると

1) **痂皮 Kruste, Crusta, Borke**: 痂皮とは Blase, Pustel が破壊し、或は Erosionsfläche, Geschwürsboden から滲出する seröse Flüssigkeit 或は Eiter の凝固し乾燥したものである。

主として seröse Flüssigkeit からなるものは蜂蜜様黄色を呈し、Eiter からなるものは黄綠色を呈す。又 Blut を混ずると黒褐色の Blutborke 血痂を形成する。

2) **表皮剝脱又糜爛 Erosion**: Hornschicht 及び Reteschicht の一部が剝離して、Keimschicht の一部又は全層の露出した状態を謂ひ、Interzellularräume der Keimschicht を流れる表皮淋巴が漏出して必ず濕潤する。

Bläschen, Blase, Pustel が破れて發生する事が多く、治癒する時には完全治癒を營んで後に Narbe を遺さない。

3) 搔破又爪痕 **Excoriation**: 爪甲を以て強く搔破して發生する皮膚の損傷で、單に表皮に止まつて **Erosion** に終る時と、更に深く **Papillarschicht** にも達し **Blutgefäss** が破れて **bluten** し、**Blutborke** を形成することゝある。

劇痒ある皮膚疾患に屢々見られるもので、線状を呈することが多い。

4) 潰瘍 **Ulcus, Geschwür**: **Erosion** に比し、皮膚組織の缺損が更に深く、真皮の缺損を生じたもので、治癒後癍痕を遺すのが常である。

**Geschwür** は **Rand** と **Grund** を分ち、その **Form**, **tief od. seicht** 以外に **Geschwürwand** に就ては、其硬軟及嶮峻なりや否や、又は **wallartige Erhebung** 堤防状隆起、**Uutermierung** 縁下潜蝕の有無を、又 **Geschwürgrund** に就ては **glatt od. unebene, granulierend** なりや、**speckig** なりや、**Granulation** の性質は **gesund** なりや **atonisch** なりや **leicht blutend** なりや、膿汁或は漿液の漏泄ありや、若しくは **trockend** なるやの諸點に注意する。

5) 皸裂或は裂傷 **Rhagades, Fissura, Schrunde**; 正常の **Haut** に於ても、又病的の **Elastizität** の缺乏した皮膚に於ては一層、皮膚の過度の伸展によつて、皸裂或は裂傷が生じ易い。外皮と粘膜との移行部は其好發部位であつて、例へば口唇・口角・鼻口・肛門・包皮口・耳翼・關節屈面等である。

6) 癍痕 **Cicatrix, Narbe**: **Geschwür** の治療した後に發生する結締織性組織で、**elastische Faser** を缺き、表面は平滑で屢々光澤を帯び、皮野及毛髪は消失する。形は種々で **Hautniveau** から隆起するもあり、或は陥凹するもある。色は蒼白色、淡褐色或は淡紅色である。

7) 皮膚萎縮 **Atrophia cutis, Hautatrophie** **Haut** の各組織

及び附屬器官の退行性變化で、**Haut** は菲薄になり、其表面は平滑で光澤があり、又乾燥し皺襞は著明になり或は細皺に富む。

8) 色素沈着 **Pigmentation**: **Pigment** の増殖に因る **Haut** の著色變化で、種々の炎症性疾患に續發する。褐色、暗褐色、黒褐色を呈し一時的なるもあり、或は長く消退しないものもある。

9) 膿痂疹 **Impetigo**: **Pustel** の上に **Kruste** を被むるものを云ふ。

10) 膿瘡又は深膿瘡 **Ekthyma**: **Pustel** が **Cutis** にまで達するものを云ふ。

11) 癩殼疹又は汚疹 **Rupia**: **Ekthyma** の **Kruste** が蝸殼状をなして疊積したものを云ふ。

## 一般診斷學

### Allgemeine Symptomatologie

**Primärefflorescenz** か **Sekundärefflorescenz** かの診斷に次で、各發疹の **Grösse**, **Form**, **Farbe**, **Konsistenz**, 發疹相互の關係、發疹と周圍との關係、及び發生部位を明にし、更に **subjektive Beschwerde**, **Verlauf**, **Alter**, **Gewerbe**, 等を精細に詮索し又は **Anamnese** に留意する事が必要である。

1) 大さ **Grösse des Ausschläge**: **Ausschlag** の大小を形容するのに種々の比較物をとる、例へば **mohnkorng.** 罌粟粒大, **miliarg.** 粟粒大, **stecknadelkopfgr.** 帽針頭大, **hirsekorngs.** 黍粒大 **halbreis-** **korng.** 半米粒大, **hanfkorng.** 麻實大, **linsengr.** 扁豆大, **erbsengr.**

豌豆大, bohnengr. 蠶豆大, kirschengr. 櫻實大, haselnussgr. 榛實大, walnussgr. 胡桃大, taubeneigr. 鳩卵大, hühnereigr. 鶏卵大, gänseeigr. 鶩卵大等であり, 其他 fingerkopfgr. 指頭大, nagelgr. 爪甲大, münzengr. 貨幣大, fanstgr. 手拳大, handtellergr. 手掌大, kindeskopfgr. 兒頭大, 等も屢々應用される。

2) **形 Form der Ausschläge:** Ausschlag の Form を形容するには, rundlich 圓形, oval 橢圓形, polygonal 多角形, zackig 鋸齒狀, lappig 瓣狀, streifen-od linienförmig 線狀, ringförmig 環狀, regelmässige-od unregelmässige Form 整形又は不整形, landkartenförmig 地圖狀等の語を用ひ種々の原發疹並に續發疹を同時に見るを polymorph 多形と稱する。

3) **表面の性質 Oberflächenbeschaffenheit der Ausschläge:** glatt 平滑, glänzend 光澤, rauh 粗糙, verrucös 疣狀, papillös 乳頭狀, trockend 乾燥, nassend 濕潤などに注目し, 又時に Ausschlag の Zentrum に Delle 臍窩を見ることがある。Ausschlag が周圍の健康皮膚に對する關係は flach 扁平, konisch 圓錐形, halbkuglig 半球狀, kuglig 球狀, tumorartig 腫瘍狀, polypös ポリプ状態に erhaben し或は Hautniveau より einsinken, vertiefen して居るのもある。

4) **境界 Grenze:** deutlich, scharf に begrenzen されてゐるか, 或は verschwommen 模糊として diffus に周圍に übergehen してゐるかに注意する。此境界に就ては個々の發疹の境界と, 次に疾病部位と周圍の健康皮膚面との境界とに就て注意するのである。

5) **色 Farbe:** Ausschlag は Entzündungszeichen として rot を呈すること最も多く, blasserot 淡紅色, hellrot s. frischrot 鮮紅色,

rosarot 薔薇色, tiefrot 濃紅色, dunkelrot 暗紅色などあり。又 braunrot 褐紅色, kupperrot 銅紅色, blaurot s. blaulichrot 青赤色, lividorot 紫紅色なるあり。

gelb 黄色にも blassgelb 淡黄色, hellgelb 鮮黄色, tiefgelb 濃黄色 gelbbraun 黄褐色, schmutziggelb 汚穢黄色などがある。

其他 weiss 白色, silberweiss 銀白色, blass 蒼白, milchigweiss 乳白色, grauweiss 灰白色, schieferblau 石盤色, schwarz, schwärzlich 黑色, schwarzbraun 黑褐色等極めて多きを以て他は省略する。

6) **硬度 Konsistenz:** Ausschlag の Konsistenz を知るには指間に撮むか, 或は示指にて壓し weich 軟, hart 硬, derb 韌, schlaff 弛緩, spannen 緊張, Fluktuation 波動性, Pseudofluktuation 假性波動性を區別し, 或は Haut を示指及び拇指にて撮擧し Infiltration 浸潤, Verdickung 肥厚の有無を診定する。

7) **數及び経過 Zahl und Verlauf:** Ausschlag が solitär 單發か multipel 多發なるか, Verlauf は acut なるか, chronisch なるか, angeboren s. kongenital なるか, erworben s. akquiriert 後天性なるかを確め, 又 Ausschlag が plötzlich 卒然或は schubweise 段々に發生するか, Ausschlag は vorübergehend s. flüchtig 一過性或は stabil s. persistieren 持続性なるか, 尙又消退に際して spurlos 痕跡もなく消退するか或は Narbe 癍痕, Atrophie 萎縮, Pigmentation 色素沈着を遺すかを注意する。

8) **部位 Localisation** 或種の疾患では特有の Lieblingsitz があつて, 之のみで診断し得る場合もある。

發生部位としては, Streck-s. Beugeseite der Extremitäten 四肢の伸側或は屈側, Interdigitalfalten 指趾間, Berührungsstellen der bei-

den Hautfläche 兩皮膚面の觸接部, frei getragene Hautstelle 露出皮膚部, bedeckte Hautstelle 被覆皮膚部, unilateral s. bilateral 一側或は兩側, folliculär entsprechend 毛囊に一致するかを注意する。

9) 配列 **Verteilung und Anordnung** 發疹の分布及配列状態としては, 一部に localisieren 限局するか, 全身に universell 汎發するか, 又 isolieren 孤立するか, confluieren 融合するか, gruppieren 集簇するか, disseminieren 播種するか, annulär 環状か, halbringförmig 半環状か, circinär 連環状か, serpiginös 蛇行状かに著目する。

10) 自覺的障碍 **subjektive Beschwerden**: Jncken 癢痒, Schmerz 疼痛, Brennen 灼熱, Hyperaesthesia 知覺過敏, Paraesthesia 知覺異常, Anaesthesia 知覺麻痺等の有無を精細に検査する。

## 第五章 皮膚疾患の原因

Hautkrankheiten の Ursache を検索することは最も難事に屬する。或者は erworben であり, 或者は angeborene Anlage による一種の Missbildung である。然も之に出産時既に存するものと, 成長するに従つて發生するものがある。又 erworben のものにも exogene Ursache に因るものと, endogene Ursache に因るものがある。

同一の皮膚變化が種々の原因によつて誘發され得るし, 一つの皮膚疾患の發生に數種の原因が同時に作用してゐることも多い。又同一の Ursache に對しても個人によつて皮膚の示す反應は必ずしも同一でないのである。

### □ 外因 Exogene Ursache

#### 1) 器械的原因 Mechanische Ursache:

reiben, drucken, schlagen 等であるが, 最も重要なるは kratzen 搔破することで, 之によつて皮膚疾患は常に増悪するのみならず, 細菌の傳染を起し易い。

#### 2) 化學的原因 Chemische Ursache:

- i) 各種の藥品: 昇汞, 沃度ホルム, 水銀軟膏, 曹達, 白髮染め等,
- ii) 植物の樹脂, 葉毛, 漆, 蕁麻等,
- iii) 放射線: Radium, Röntgen, Ultraviolettstrahlen etc.

#### 3) Termische Ursache 溫熱的原因:

高温による火傷, 低温による凍傷

#### 4) Parasitäre Ursache 寄生性原因:



- i) Fadenpilz 絲狀菌: Favus, Trichophytie, Pityriasis versicolor u. s. w.
- ii) Kokken 球菌: Impetigo, Furunkel, Erysipelas u. s. w.
- iii) Bazillen 桿菌: Lepra, Tuberculose etc.
- iv) Protozoa 原生動物: Syphilis, Framboesia etc.
- v) Insekt 昆虫: Skabies 疥癬, Cimex 床虫, Pulex 蚤等。

## II 内因 Endogene Ursache

- 1) 藥物性皮膚疾患 Medicamentöse Dermatose:  
Antipyrin, Chinin, Brom, Jod, Balsam etc.
- 2) Alimentäre Intoxication 食餌性中毒:  
蟹, 蝦, 牡蠣, 豚, 魚介類, 蒜等。
- 3) Bakterientoxin 細菌毒:  
Typhus, Diphtherie, Tripper, Influenza 等の Vaccin 又は Serum により Ausschlag を發することあり。
- 4) Autointoxikation, autotoxische Dermatose 自家中毒, 自家中毒性皮膚疾患:
  - i) Stoffwechselstörung: Diabetes mellitus, Nephritis etc.
  - ii) innere Sekretionsstörung: Morbus Adisonii.
- 5) Ursache von Nervensystems:
  - i) Zentralnervensystem: Tabes dorsalis.
  - ii) Peripheriennerven: Lepra
  - iii) Vegetative Nervensystem: Pigmentanomalie
  - iv) Hysterie.

## 第六章 療法通論

Hautkrankheiten の Behandlung は locale Therapie 局所療法と, allgemeine Therapie 全身療法とに大別することが出来る。

先にも述べた如く, 皮膚疾患の原因は不明のものが多いので, 近年内分泌學, 免疫學等の發達に伴つて, 此方面に病理を探求する傾向が旺んである, 従つて治療に當つても, 内分泌障礙, 新陳代謝障礙, 或は過敏症現象の治療の如き allgemeine Therapie が漸次盛んになりつつある。例へば彼の Schrumpfniere の患者に見る頑固な癢痒性疾患即ち土肥氏の所謂 Eezema uraemicum 尿毒性濕疹は, locale Therapie よりも寧ろ利尿を通じて尿酸排泄を促進するに據りて治癒する如き, 或は Urticaria 蕁麻疹の或種類が Vagotonie の抑制に依つて輕快する如き事實は, 明に此間の消息を物語るものと云ひ得られよう。併しながら此 allgemeine Therapie と共に, locale Therapie も亦決して忽にすることは出来ない, 殊に medicamentöse Therapie 藥物療法は今日と雖も皮膚病治療に一日も缺く可からざるもので, Eczema 濕疹や Impetigo 膿痂疹の如き日常最も多く眼に觸れる疾患は, 皆 locale medicamentöse Therapie に依つて behandeln しなければならない。又 allgemeine Therapie を用ふる際と雖も, 局部を放置することは許されない場合が多い。故に皮膚科學を學ぶには一通り之に用ふる藥劑の製法・性状・効果に通曉し其適應症を識る事が必要である。殊に藥劑の選擇を誤つて症状が増悪すれば患者自身も直に之を知覺する故に, 醫師たるもの之に就て確實な知識を習得し置かねばならぬのである。

## A) 局所療法 Locale Therapie

## 1) 粉末劑 Pulvis, Pulver, Puder

- 効用** i) 汗脂を吸収し、水分の蒸發を促し、體温を冷却せしめる。  
 ii) 血管を收縮せしめ、充血を減じ、皮膚に清涼の感と與へる。  
 iii) 軽い充血面に撒布し、或は膏油を拭ひ去るに用ひ、又膏藥類に調合して硬度を加減し、其の効力を補助するに使用さる。

**用途** 未だ炎症の軽度な場合に用ひ、Haut が nassen し、或は Sekret ある際は使用しない、是れ Sekret と混じて Kruste を形成するからである。

**種類** 最も多く用ひられるのは Zincum oxydatum 酸化亞鉛末所謂亞鉛華と、麥粉、米粉、馬鈴薯粉等の Amylum 澱粉及び Talcum venetum 滑石末で、此等を次の如く混じて用ゐる。

Rp. 1)	Zinc-Amylum	亞鉛華澱粉	} 各等分
	Zinc. Oxyd.	亞鉛華	
	Amyl.	澱粉	
2)	Zinc. Oxyd.	亞鉛華	} 各等分
	Amyl.	澱粉	
	Talc. venet.	滑石末	

防腐劑として用ゐられるものには： Acidum boricum

硼酸, Acidum benzoicum 安息香酸, Acidum salicylicum サルチル酸, Jodoform, Vioform, Hydroargyrum praecipitatum album 白降汞等。

收斂劑として用ひられるものには： Aiol, Dermatol, Bismut subnitricum 次硝酸蒼鉛, Alumen crudum 明礬, Xeroform, Tannoform, Thionolcalcium, Sulfur sublimatum 硫黃華等。

鎮痛止痒劑として用ひられるものは： Anaesthesin, Orthoform, Kokain, Cycloform, 等

## 2) 脂肪劑及油劑 Adeps et Olei (Fett und Öl)

**効用** 鱗屑痂皮を軟化除去し、分泌を減じ、水分の蒸發を制限して皮膚の乾燥を防ぎ、表皮を膨大せしめ、皮膚の吸収力を増加し、又氣脫面の表皮形成を促す。  
 其他損傷部を保護し細菌の侵入を防ぐ。

**用途** 油脂劑は之を單用することは稀で、多くは軟膏、泥膏の基礎劑として用ひられる、唯 Olivenöl は皮膚面に塗布した膏劑を除去するに用ひ、又 Zincöl 亞鉛華油として用ひられる。

**種類** i) 植物性油脂  
 Ol. camelliae Japonicae 椿油, Ol. Olivarum オリーブ油, Ol. Sesami 胡麻油, Ol. Ricinii ヒマシ油, (Alkohol に溶解する唯一の油で Alkohollösung として用ひられる) Ol. Gynocardiae 大楓子油, Ol. Lini 亞麻仁油等。  
 香料 Ol. Rosarum 薔薇油, Ol. Bergamottae, l. La-

vendulae, Ol. Caryophyllorum 丁字油等。

### ii) 動物性脂

流動脂: Ol. jecoris Aselli, (Levertran) 肝油, Glycerin

固形脂: Adeps suillus 豚脂 分解し易く, 殊に夏期は此爲に却て Haut を刺戟する虞がある故に常に新鮮なものを用ひ, 又之に 1-2-4 %の割合に安息香酸を加へて分解を防いで使用する。所謂安息香酸豚脂である。

Lanolin ラノリン 羊毛から精製した脂肪で, 無臭でよく皮膚に粘着して皮膚を刺戟しない。

Lanolinum anhydricum 無水ラノリン  
(Lanolin 1. Vaseline 2.)

### iii) 礦物性油

Vaseline: 石油の副産物で黄白の二種があり, 米國製黄色ワゼリンが最も良質である。

不純品は精製の際使用する硫酸が残留して皮膚を刺戟する。

Paraffinum: 流動パラフィンと固形パラフィンとある。

## 3) 漆劑 Firnisse

効用 水に溶解しない薬品を Alkohol, Aether, Chloroform 等に溶解し置き, 之等を Haut に塗布すれば, 直ちに蒸發して其あとに薬品を平等に皮膚に固着せしむるのである。

用途 繃帯を用ふる必要がない故に便利であるが, Alkohol も Aether も Haut を reizen する故急性炎症や, 分泌のある際には用ひ難い。

種類 i) Alkohol 酒精劑: Alkohol には殺菌・消炎・鎮痒の作用がある。皮膚病の中には痒痒を制止するのみで, 炎症がとれ治癒する事がある。

如斯場合即ち痒痒を去るのみの目的には酒精劑が最も適する。然し酒精劑の塗布は皮膚の脱脂を招き, 水分を吸収し, Eiweiss を沈澱せしめ Schleimhaut und Wundfläche を腐蝕する作用があるから必ず人工的に脂を塗る必要がある。此の目的のために多く 10% Glycerin, 5-10% Ricinusöl を加へ又水を以て稀釋して用ふる即ち

Rp. Alkohol	40.0
Aqua	50.0
Glycerin	10.0

を基礎とし之に種々の薬名 Salicylsäure (5-10%), Carbolsäure (2-5%), Mentha (5-10%), Teer (5-10%), Pityrol (5-50%), Glyteer (5-20%) 等を加へて用ゐる。以上の他次の如きものが屢々用ひられる。

Rp. 1 Acid. salicyl.	サルチル酸	3.0
Zinc. oxy.	亜鉛華	20.0
Amyl.	澱粉	20.0
Alkohol.	酒精	300.0

ii) Aether, エーテル劑: 單用するか, 又は酒精と等量に混じて同じく溶媒として使用する。

iii) Chloroform クロロホルム劑: Auspitz'sche Traumaticin として用ひられる事が多い, 即

Rp. Chloroform	100.0	} Traumaticin
Guttapercha	10.0	

此の Traumaticin に Chrysalobin (5-10%), Pyrogallol (5%) Salicylsäure (2-10%) 等を加へて使用さる。

#### 4) 振盪劑 Schuttermixtur

**効用** 液體と粉末劑とを等量に混じたもので, Alkohol 劑よりも皮膚掩護の効がある。

**用途** 急性期で刺戟を可及的避けねばならぬ時, 又は皮膚が弱く油脂類に堪えない場合に用ひ, 又時として繃帯を施さず用ひ得らるる故に皮膚の廣汎な部位に用ひ得る便がある。

**種類** Oleum zinci Unna (Zinköl)

Rp. Ol., oliv オリーブ油	} 等分
Zinc. oxy. 亞鉛華	

多く之を塗布した上に 2% Borwasser 硼酸水の濕布を行ふ。炎症の最も激烈な際に克く刺戟を與へずに用ひ得る。

Rp. Zinc. oxy. 亞鉛華	} 各 25.0
Talc. venet. 滑石	
Glycerin グリセリン	
Aq. dest. 淨水	

容易に乾燥し, 繃帯を要しない。上記の水の代りに Al-

kohol を用ひると, 制痒作用があり, 同時に乾燥時間を短縮し得るが刺戟が強くなる。尚之に鎮痒の目的に Carbol 石炭酸, Menthol, Campher, Thymol, Chloral hydrat 抱水クロラール等を 0.5-2.0% に加へ, 殺菌, 消毒には Carbol, Sublimat 昇汞, Salicylsäure サルチール酸, Naphthol, Formalin, Trypaflavin, Rivanol 等を加へて用ひる。

#### 5) 糊膏 Linimentum

**効用** 極めて清潔で, 塗布後 1-2 分で乾燥し, 繃帯を要せず, 又屢々塗布しても Haut を reizen せず, 塗布に依り清涼の感を與へる。

**用途** 癢痒のみを訴へるか又は僅に潮紅を呈するか, 或は炎症已に去つて軽度の Rötung 潮紅と Abschuppung 落屑のみを存する如き皮膚面に用ふ。濕潤面に用ゐると, 水に溶解し或は滲出性の部位を蔽ふて Exsudat の滲出を増加せしめ, Entzündung を増強せしむる虞がある故如斯場合には不適當である。此の他痂皮, 膿疱, 水疱面にも同様不可である。

本劑は塗布後繃帯を要せず, 之を除くには温湯に綿を浸して拭へば容易に清拭し得られる。

**種類** Linimentum zinci carbolicum Dohi (Corbolzinkliniment)

布苔又はトラガカントゴム	5.0
Glycerin	3.0
Zinc. oxy.	10.0

Carbol	2.0
Aqua	100.0

## 6) 膠劑 Leime

**効用** Liniment に類するもので、使用時、湯煎して溶解し、刷毛で厚く塗布する。平温では凝固し、少し熱すると Liniment の如くなる。

**用途** Haut に固着するので、乾燥した entzündliche Hautkrankheiten に適する。

**種類** Zinkleim Unna

Rp. Zinc. oxyd.	亜鉛華	30.0
Leim alb.	白膠	30.0
Glycerin		50.0
Aqua		90.0

## 7) 泥膏 Pasta

**効用** Schüttermixtur の基礎剤中液體の代りに固形脂たる Vaseline, 豚脂, Lanolin, 等を用いたもので、Lassar氏の創製したものである。

即ち油脂と粉末剤とを等量に混じ、泥状となしたるもので、其効用は兩成分の合したるものに同じである。良好なる Pasta は薄く塗布して能く粘着する事が必要である。

其質鬆粗なるが故に能く Haut の Sekret を吸収し Haut を乾燥せしめる。軟膏より清潔で且つ屢々繃帯を省き得

る利がある。

**用途** 使用法は手を以て患部に薄く塗布し、其上に粉末剤（亜鉛華澱粉）を撒布する。或は更に其上に青梅綿をあてて Verband を施す。之を除くには Zinc-Amylum を撒布し綿花を以て軽く拭去する。其固着した時は Olivenöl 又は Benzin を脱脂綿に浸して靜かに拭去するが Olivenöl で拭いた後は必ず Zinc-Amylum を撒布して再度綿花を以て拭去し Olivenöl を除く必要がある。Benzin は充血を招き軟弱な皮膚を刺戟し易い。

**種類** 基礎として用ゐられる油脂は Vaseline, 豚脂, Lanolin である。

## i) Vaselinpasta Lassar

Zinc. oxyd.	亜鉛華	25.0
Amyl.	澱粉	25.0
Vaseline	ワゼリン	50.0

## ii) Fettpasta Wilson

Zinc. oxyd.	亜鉛華	5.0
Acid. benz.	安息香酸	1.0
Adeps suil.	豚脂	30.0

本剤は其組成上軟膏となす者もあり、従て軟膏の如く Linth に厚く塗布して用ひ却て効果ある場合もある。

## iii) Lanolinpasta Dohi

Zinc. oxyd.	亜鉛華	25.0
Amyl.	澱粉	25.0
Lanolin	ラノリン	50.0

本剤は土肥慶藏博士の創製されたもので Vaselinepasta, Fettpasta より較々硬く、粘着力が強く且つ無刺激性であるが、硬いから使用の際にはよく練つて軟かにして使用するを要す。

本剤は粘着が強い結果 Haut を強く被覆するから、滲出性の傾向ある際や炎症の強い際には適しない。

## iv) Teerpasta Dohi

Zinc. oxyd.	亞鉛華	10.0
Sulfur Sublimat.	硫黄華	10.0
Pix liquida	木タール	10.0
Adeps Suillus	豚脂	30.0

硫黄華及び木タールは Haut を reizen し易き故に急性炎症には用ひない。

## v) Glyteerpasta Unna

Glyteer	グリテール	2.0
Sulfur depuratum	精製硫黄	4.0
Talc. venet.	滑石末	2.0
Zinc. oxyd.	亞鉛華	6.0
Adeps suill	豚脂	28.0

頭部皮膚疾患に屢々用ひられる。ウイルソン氏膏に類し只之に比し稍刺激性が強いが、硫黄を含有する故皮脂の分泌を抑制する力が勝る。

以上の基礎剤 (i, ii, iii) に止痒、鎮痛、防腐、收斂等の効力を有する粉末剤 (本章 1 参照) 或は次の液體を 2-5-10% の割に加へて用ひることが多い。

Holzteer, Glyteer, Novoteer, Pityrol, Neopityrol, Tumenol, Thigenol, Thionol, Ichthyol, Cryslobin, Pyrogallol, B-Naphthol 等

## 8) 軟膏 Unguentum, Salbe

**効用** 濕潤面、結痂面、肉芽面に貼用して痂皮を軟化除去し、炎症を減じ、分泌物を吸収して創面を乾燥させ、表皮の形成を促す。

**用途** Salbe は地厚の布、Linth, モンパ, フランネル等に肉厚く展ばして貼用する。

強く濕潤して分泌の過大な肉芽面に使用すると、往々軟膏と肉芽との間に滲出液の滯留を來し、却て肉芽を弛緩せしめることがある故注意しなくてはならない。

**種類** i) Unguentum simplex, Wachssalbe 單軟膏。

Paraffinum flavum 黄蠟 1.0

Ol. Sesami 胡麻油 2.0

軟膏の原料として最も多く用ゐられる。

ii) Ung. (Acidi) borici et. Ung. zinci (oxydati) 硼酸軟膏及び亞鉛華軟膏

單軟膏に 10% の割合に硼酸又は亞鉛華を加へたもの

iii) Ung. boricum zinci (Borzinksalbe) 硼酸亞鉛華軟膏。

最も刺激性少なく廣く用ゐられるもので、單軟膏に硼酸と亞鉛華を各 10% に加へたものである。

iv) Ung. Hebrae ヘブラ氏軟膏

Empl. Diachylon. 單鉛硬膏	} 各等分		
Ol. Oliv. オリーブ油			
v) Ung. Wilkinsonii ウィルキンソン氏軟膏			
Sulphur praecipitatum 沈降硫黄		10.0	
Pix liquida 木 釜 兒		10.0	
Talc. venet. 滑 石 末		5.0	
Sapo. kali. 加里石鹼		20.0	
Vaselin ワゼリン		20.0	
vi) Haarsalbe 毛髮軟膏			
Acid. carbol. 石 炭 酸		5.0	
Acid. Salicyl. 水 楊 酸		10.0	
Vaselinum flavum 黄色ワゼリン		100.0	
vii) Ung. Hydrargyri (Grausalbe) 水銀軟膏			
Hydrargy. 水 銀		10.0	
Adeps. suill. 豚 脂		15.0	
Paraff. flav. 黄 蠟		5.0	
viii) Ung. sulfuratum (Schwefelsalbe) 硫黄軟膏			
Ung. simpl. 單 軟 膏		45.0	
Sulfur deprat. 精製硫黄		5.0	
ix) Besnier'sche Schälpaste ベニエー氏剝離膏			
B-Naphthol.		5.0	
Acid. salicyl. サルチル酸		5.0	
Resorzin レゾルチン		5.0	
Amyl. 澱 粉		25.0	
Sulf. sublim. 硫 黄 華		25.0	

Vaselin. ワゼリン 25.0

Sapo. kali. 加里石鹼 25.0

(i ii iii) には Pasta の時と同様に止痒, 鎮痛, 消炎剤を加へて用ふ。例へば Pityrol, Thionol, Glyteer, Tumenol-Salbe の如きである。

### 9) 硬膏 Emplastrum

**効 用** 質硬く體温によつて始めて軟化し, 皮膚面に密着し, 之を壓抵して含有した藥品を深達せしめる。

硬膏は無刺激性で, 膠着力が強く, 質薄くして多くの藥品を含有し, 且つ容易に變質せざるものを良好とする。

**種 類** i) Empl. saponatum salicylicum Pick. ビック氏硬膏  
單鉛硬膏に Salicylsäure 10-20% 30% を加へたるもので俗にビック氏膏と呼ぶ。

ii) スピール膏  
「とりもち」を原料とし 30-50% に Salicylsäure を加へたものである。

### 10) 石鹼 Sapo, Seife

Fettsäure と Alkali との化合物で, Natron と結合すれば硬石鹼を, Kalium と化合すれば軟石鹼を得る。

總て石鹼は皮膚面を清潔にし, 角質を軟化溶解する作用がある。加里石鹼は角質を軟化溶解し, 且つ殺菌作用がある。然し加里石鹼も, アルカリ性ナトロン石鹼も, 皮膚を刺激し炎症を起す作用がある故に特殊の目的以外には使用せず, 通常中性ナトロン石鹼を用ゐる。

## 11) 膏法 Umschlag

**効用** Warmer Umschlag は Blut- u. Lymphgefäss を擴張し、消炎、病的浸潤及び滲出物の吸収を促す。

Kalter Umschlag は Blut -u. Lymphgefässe を收縮せしめ鎮痛、止痒、緊張及び灼熱感を緩解せしめる作用がある。

**種類** i) Liq. Burowii ブロー氏液

Alumen crudum. 明礬 1.5

Plumbum aceticum. 鉛糖 5.0

Aqua 水 100.0

右用時振盪し 10% に稀釋して使用する

ii) 2% Borwasser, 2% 醋酸礬土水, 2% 鉛糖水,

## 12) 浴治法 Badekur

**効用** 浴治法は Haut を清潔にし、血液淋巴の循環を旺盛ならしめて、浸潤の吸収を促し、又皮膚を軟化して薬剤の吸収を容易ならしめる効がある。又時には之を消毒、鎮痒、保温の目的にも利用する。

此目的のために Vollbad 全身浴と、Localbad 部分浴とがある。

**種類** i) 糖浴：糖一升を袋に入れ五升位の水にて煮沸し後之を糖袋と共に浴槽に投ずる。

ii) 人工鹽浴：一浴に鹽一貫目位

iii) 曹達浴：一浴に曹達 200 匁位

iv) 明礬浴：一浴に明礬 500 匁位

v) 過マンガン酸加里浴：一浴に 5-10 gr.

vi) リゾール浴：大人 10cc 小兒 5cc

vii) 昇汞浴：大人 10.0 小兒 2.0

viii) 硫黄浴：湯の花 100 匁位

ix) カミツレ浴：200 匁位

x) テール浴：釜兒丁幾（木釜兒酒精、エーテル等分のもの）を患部に塗布したまゝ火傷させぬ程度の熱湯に浸し、冷ゆるに従ひて熱湯を注加し、約 30 分行ふ。多く手足に用ふ。

## B) 内服及注射療法

i) 患者の栄養、體質を顧慮し、或は疾病の原因に應じて、一般内科的の治療法を講ずべきは論を俟たない所である。殊に飲食物の種類と、便秘とは種々皮膚疾患の原因をなす故に充分の注意を拂ふべきである。

Alkohol 性飲料、刺戟性食物、脂肪に富む食料等は共に皮膚の充血を導き、一般に癢痒を増悪せしむるから、注意しなくてはならない。

ii) 亞砒酸劑、沃度劑、水銀劑、カルシウム劑、マグネシウム劑、サルチル酸劑、金製劑等の内服、注射及び生理的食鹽水の大量靜脈内注射等が皮膚疾患の治療に屢々用ゐられる。

iii) 又 Acidosis のある際に於ける重曹の内服又は注射、Avitaminose には Vitaminpraeparat を與へる如き對症療法も行はれる。

iv) 以上の他 Organtherapie, Vaccintherapie, Immunserumthera-



pie, Autoserumtherapie, Eiweisstherapie 等がある。

### C) 理學的療法 Physicalische Therapie

1) 雪狀炭酸 Kohlensäureschnee: 鐵筒の中に貯へた流動炭酸を小孔から噴出させ、鞣皮の囊にとると雪狀の塊となる。之を種々の型につめ、適宜の形にして患部に貼用する、此場合患部は冷却して $-30^{\circ}\text{C}$ に達すと云ふ。

其作用は貼用時間、壓低の強弱、組織感受性によつて異なり Erythema, Blasenbildung, Geschwurbildung を來す。

2) 燒灼法 Kauterisation: Paquelin'scher Brenner と同様で平流電氣によつて白熱せる白金針を以て燒灼するのである。

3) 電氣分解 Elektrolyse: 鋼鐵針又は白金、イリヂウム針を一極とし皮膚中に刺し、他極を電導子に連絡して皮膚に接着しめ、平流電氣又は高周波電氣を通すので、此の時針の刺口から微細の泡沫を生ず。

拔毛、腫瘍組織、血管腫の凝固等に用ふ。

4) 光線療法 Lichttherapie:

i) Ultraviolettstrahlentherapie 紫外光線療法: 19世紀の末期に Finsen により創めて行はれたもので、其の當時は Lupus の Behandlung を主眼としたものであるが、Tuberculose のみならず、汎く種種の皮膚疾患の治療に卓効あることが認められ、今日では皮膚病治療に缺くべからざるものとなつてゐる。

皮膚疾患には多く人工紫外線が用ひられる。其種類に

Kohlenbogenlampe Finsen 電氣炭素弧光燈

Künstliche Höhensonne Bach 人工高山太陽燈

Quecksilberquarzlampe Kromyer 水銀石英燈

ii) Ultrarotstrahlentherapie: Solluxlampe は莖外線(化學線)に對し、熱線及び青線、赤線を利用するもので、ウォルフラム線を巻纏した窒素電球を用ひて所要の光線を獲るのである。此の照射によつて皮膚の充血(赤)貧血(青)を越し、又鎮痛作用がある。

iii) Röntgen u. Radium: Röntgen 照射及び Radium 貼用も今日では皮膚疾患の治療に殆ど缺く可からざるものである。

## 第二篇 各論

### 第一章 皮膚の循環障碍 Zirkurationsstorungen der Haut

#### I) 皮膚充血及貧血 Hyperaemiae cutis et Anaemiae cutis

Haut の Hyperaemie を次の二つに區別する。

- 1) aktive od. arterielle Hyperaemie 實性或は動脈性充血
- 2) passive, venöse od. Stauungshyperaemie 虚性或は靜脈性充血  
又は鬱血

**Aktive Hyperaemie** とは、動脈血の充漲により發生するもので、此際 Haut は rosa rot 又は frisch rot を呈す、是所謂 **Roseola** 蕁麻疹或は **Erythema** 紅斑である。

**Passive Hyperaemie** とは、靜脈血の Stauung により起るもので、Hautfarbe は dunkel rötlich 又は braunlich rötlich を呈し、local の滯度低く、若し持続すれば Oedem 即ち **Stuungsoedem** 鬱血性浮腫を來す。

**Anaemie** は皮膚内を流通する Blut が減少する結果生ずるもので

local は bläss になる。

### 原因

A) **Hyperaemie**: 血管收縮神経の麻痺, 又は血管擴張神経の刺激により生ず。

#### a) aktive Hyperaemie

1) Rubor essentialis s. angioneurotica Eulenburg. 眞性又は血管神経性潮紅。

i) Erythema psychicum 精神紅斑, E. iracundiae 憤怒性紅斑, E. pudoris 含羞性紅斑。

ii) Körperliche Austregung, 外氣の高温。

iii) 酒, 茶, 香料。

iv) Chronische Uteruserkrankungen, Magendarmerkrankungen, Hysterie.

2) 毒物による Vasomotonische Zentrum の Reiz.

i) Acute Infektionskrankheit:

Typhus abdominalis, Cholera, Fleckfieber, Rattenbisskrankheit, Syphilis, Rubeola, Masern, Scharlach, Pocken

ii) Alimentäre Hyperaemie: 芥子, 蛋白質

iii) Arzneimittel の内服又は注射; Chinin, Arsen, Antipyrin, Serum

3) Nerven の Reiz によるもの, 又は Zentrum の疾患;

Meningitis, Tabes dorsalis, Hysterie, 之を Taches cerebrales 脳斑と呼ぶ。

4) Haut の直接作用

i) E. mechanicum s. traumaticum 器械的又は外傷性紅斑

ii) E. chemicum 化學的紅斑: E. solare 日光紅斑, E. aestivalis bullosa 水疱性夏期紅斑, E. caloricum 温熱紅斑,

iii) E. abaribus s. venenatum 被刺戟性或は毒物性紅斑,

#### b) Passive Hyperaemie

1) Allgemeine Zirkulationsstörungen: Herzfehler, Lungenzirkulationsstörungen.

2) locale Zirkulationsstörungen: Bier's Stauung,

Lebererkrankung, Bauchhöhlengeschwülste.

3) Atonische od. Asthenische Hyperaemie: Kapillarenwand 及び周圍組織の弛緩

B) **Anaemie**: äussere od innere Blutung に因つて來ることは勿論であるが局部の皮膚貧血は通常憤怒恐怖の如き精神作用, 或は寒冷壓迫又は麥角, Adrenalin による血管の中樞又は末梢の刺激による Angiospasmus 血管攣縮に因る。

### II) Haut の Hyperaemie 又は Anaemie を主徴とする疾病

#### I) 大理石様皮斑又は網狀貧血紅斑

Cutis marmorata s. Livedo annularis

原因 Kälte のために生じ先天性の特異な毛細管感受性に因る。

部位 Rumpf und Streckseite der Extremitäten

症候 Stauung に因る暗紅色又は青紅色の網狀斑と其間の小さな貧血斑

I) 温熱性皮膚斑 Cutis marmorata pigmentosa  
s. Livedo calorina

原因 温熱が Haut の一局部に反覆然も相當持久的に作用するにより生ず

症候 Cutis marmorata に似て然も漸次 Pigmentation を來し終には皮膚に幾分の増殖性變化さへも來す。

II) 分枝性皮膚斑 Livedo racemosa,  
Inflammatio cutis racemosa Ehrmann

原因 皮膚深部血管の炎症性變化による露血と考へられてゐる。

部位 Extremitäten, selten に Rumpf.

症候 帯青紅色又は暗紫色樹枝狀の皮膚斑で大なる枝より小なる枝を分枝し境界模糊として周圍腫脹部に移行す。

IV) 貧血性母斑 Naevus anaemicus Vörner

原因 先天性毛細管發育障碍

症候 帽針頭大より手掌大に達する不正形の局所的貧血斑で、Rand は zickzack である。周圍に軽度の Kapillarendilatation を存する事がある。

V) 毛細管擴張性母斑 Naevus teleangiectodes

原因 表在毛細管及び小血管の増殖により生ず。

症候 形状排列種々なる帯青色又は赤色斑で先天性母斑の像を呈するが時に青年、老年にも發生する。

VI) ライル氏死指 Reils toter Finger,  
Vasokonstriktolische Akroparaesthesia

定義 一個或は數個の手指、稀には前膊の皮膚に發作性に高度の貧血を呈するを謂ふ。

原因 Arterienkrampf による hochgradig の locale Anaemie 即ち一種の Akroasphyxie で、神經性又は Hysterie の婦人に多い。

部位 一個又は數個の指、稀には Vorderarm の Haut に及ぶ。

症候 Anfallsweise に蟻走感、鈍感があつて Haut は blass になり、Kältegefühl 強く、heftiger stechender Schmerz がある。

療法 加温、摩擦、感傳電氣、紫外線、生理的食鹽水の注射、一般強壯療法

VII) 皮膚紅痛症 Erythromelalgie

定義 四肢の末節に、發作性に皮膚の潮紅と疼痛とを發し、慢性に経過するものである。

原因 1) Zentralnervensystem の funktionelle od. organische Veränderung による。(z. B. Hysterie, Neurasthenie, Tabes dorsalis, Progressive Paralyse, Myelitis, Syringomyelie,

2) 認むべき原因なくして特發することもある。

部位 Finger, Zehe, Hand, Fuss, Vorderarm, Unterschenkel

症候 1) 中年以上の男子に多く、anfallsweise に plötzlich に heftiger Schmerz を發す。加温と運動が誘因となり易い。

2) Schmerzfall の後局部の hyperaemische Rötung を來し fris-

chrot を呈す。Rötung は scharf begrenzt である。

- 3) Anfall が屢々反覆すると Haut は narbig の外觀を呈し終には Atrophie に陥る。

#### 類症鑑別

- 1) レイノウ氏病 Morbus Raynaudii: Schmerz は發作性でなく、且つ Nekrose を續發する。
- 2) 凍瘡 Perniones: 鬱血性紅斑は専ら冬季に發生し、數々 Blase を伴ひ殊に夜間癢痒が著しい。
- 療法 1) 特發性のものは治癒しない、症候性のものは原病の治療によつて治癒する。
- 2) 安靜、肢節の高舉と冷却
- 3) 内服には Chinin, Pyramidon, Arsen, Jod を與へる。

### VII レイノウ氏病 Morbus Raynaudii

定義 四肢の末梢に於ける皮膚の發作性血行障碍で貧血に始まり鬱血を來し、限局性壞疽に陥るものであり且常に對側的に來る。

原因 Zentralnervensystem の障碍, Syphilis, Alkoholismus

部位 Extremitäten ⊙ Peripherie に、多くは symmetrisch に生ず。

- 症候 1) Prodrom として Dysaesthesiae, Schmerz, Eczem, Erythem, Schwindel, Schlaflosigkeit がある。
- 2) locale Syncope od. locale Ischaemie 局所假死又局所血虚を來し、蒼白になる。
- 3) 次に locale Asphyxie 局所絶脈を生じて Cyanose を生じ。暗

紅色から紫藍色時に鉛黒色に變じ往々劇痛がある。

- 4) 最後に umschriebene Nekrose 限局性壞疽を生ず。
- 5) Nekrose が深部に及んで Knochen を侵し、Finger, Zehe が脱落する事あり、又 sekundäre Infektion を來し、Phlegmone, Sepsis を來す事もある。

診断 對側性、指趾の末端、發作性の症狀、壞疽の發生。

療法 1) 原因に對する Behandlung.

2) local の warmer Umschlag, Ultraviolettstrahlen

3) 0.85% NaCl-injektion

4) 一般強壯療法

## 第二章 皮膚出血

## Haemorrhagiae cutanae

**定義** 皮膚出血とは Subcutane Gewebe 又は Cutis 中に Blut の溢出するものを云ひ, Hautblutung を呈する疾患を總稱して Purpura 紫斑と謂ふ。

Blutung の大小により Petechien 點狀出血, Vibices 線狀出血  
Ecchymosen od. Sugillation 斑狀出血等の名稱がある。

## A] Symptomatische Purpura

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 1) P. traumatica    | 外傷性紫斑  |
| 2) P. plicosa       | 蚤蝨性紫斑  |
| 3) P. seniles       | 老人性紫斑  |
| 4) P. toxica        | 中毒性紫斑  |
| 5) P. cachecticorum | 惡液質性紫斑 |

B] 一種の疾患と目される紫斑には

## I 單純性及儂麻質斯性紫斑 P. simplex et rheumatica

**定義** 主として四肢, 殊に下腿の點狀出血に伴つて, 屢々關節のリュマチス性疼痛と腫脹とを兼發し, 往々熱發するものである。

**原因** Rheumatismus に近似した Villus により起ると考へられてゐる。

**症候** 1) Prodrom: Fuss- u. Kniegelenk の rheumatische

Schmerz und Anschwellung, leichtes Fieber

2) Hautblutung: Petechien で linsengross に至る。

3) Localisation: Unterschenkel, 重症では上腿, 上肢に及ぶ。

**経過豫後** 一回の發作は 1-5 Woche で吸收さるるも, 多くは發作數回反覆し, mehrere Monate に及ぶこともある。

## 分類

- 1) P. simplex: Gelenksymptome なし。
- 2) P. fulminans Henoch: Eingeweide の Schleimhaut に Blutung を來し Prognose schwer なり
- 3) P. erythematosa: Erythema exsudativum multiforme に合併又は續發す。

## II 出血性紫斑 P. haemorrhagica

(Morbus maculosus Werlhoffii)

**定義** 皮膚の他粘膜にも出血し, 關節痛を缺くものである。

**原因** 一種の Sepsis と想像される他に原因不明なるも, 血小板減少を本態とす。

**症候** Prodrom: Allgemeine Mattigkeit, Appetitlosigkeit, leichtes Fieber

Blutung: i) Hautblutung: Stecknadelkopfg. bis handtellergross.

ii) Schleimhautblutung: Mund, Conjunctiva, Nase, Magen, Darm, Lunge, Niere etc.

Localisation: Rumpf und Extremitäten 時に Gesicht

## 其他粘膜

Allgemeine Symptome: Anaemie, Oedem, Schwäche

経過後 1) leicht のものは einige Woche で heilen するも  
schwer のものにては mehrere Monate に及び、屢々 recidivieren  
する。

2) Eingeweide に Blutung 甚だしければ Lebensgefahr あり。

## III] 壞血病 Scorbüt

定義 皮膚並に粘膜の出血、及び出血性炎症を作ふ全身の貧血  
及び悪液質で、殊に齒齦を侵すのが特徴である。

原因 Vitamin-c Mangel

症候 Prodrom: Allgemeine Mattigkeit und Schwäche,  
Herzkropfen, Haut und Mundlippe は  
blassanämisch

Blutung: Hautblutung: Petechien bis Ecchymosen  
Schleimhautblutung: 殊に Gingiva は紫藍色に腫脹し潰瘍をなし出血し口臭甚し。  
Brust- u. Bauchorgan よりも bluten ず。

Localisation: Ganze Körper, Schleimhaut besonders  
Gingiva

経過後 原因持続すれば死に至る。Pleurahöhle, Pericard の出  
血は最も危険である。

附)

VI) 血友病 Haemophilie

原因 Angeboren に男子にのみ發す。Thrombokinase の減少による。

症候 Trauma により又は spontan に bluten ず。

時に Gelenkhöhle に bluten して其 schmerzhaft なる Anschwellung  
und Fiebersteigerung を來す。

V) 毛細管擴張性環狀紫斑 Purpura annularis teleangiectodes  
Majocchi

Kapillarendilatation に兼ね Purpura を伴ふもので慢性再發性の  
疾患である。殆ど下肢に限つて生ず。

## 紫斑病の療法

1. P. rheumatica には Salicylsäure-präparat (Na-Salicylicum)  
Urotropin, サリピリン, アスピリン, ザロール 等を投與す。
2. Scorbüt には Vitamin C. (新鮮な野菜果物殊に柑橘類)
3. Allgemeine Therapie: 安靜及び刺激少なき滋食物の攝取, 局  
所の氷罨法
4. 内服療法: 麥角劑, Adrenalin, 止血劑 (一半クロール鐵, スチ  
プトール,  $\text{CaCl}_2$ .)
5. 注射療法: 止血劑 (Ergotin, Stiptin, Geratin, Coagren,  
Thrombrin, Thrombogen, Fibrogen etc.) 10% NaCl,  
5%  $\text{CaCl}_2$  5-10% Traubenzuckerlösung.

### 第三章 掻痒性皮膚疾患

#### Juckende Hautkrankheiten

#### I 皮膚掻痒症 Pruritus cutaneus

**定義** Pruritus cutaneus とは Haut に何等の變化なく、唯 Jucken のみを訴へる皮膚の知覺異常である。

但し掻痒に對して屢々搔破摩擦するために續發的に Lichenification 苔癬化 或は Eczematisation 濕疹化を作ふ事がある。

之に P. universalis 汎發性皮膚掻痒症と、P. localis 局所性掻痒症とを區別する。

#### A) 汎發性掻痒症 Pruritus universalis

**症候** 1) 或る一局部より發作性に掻痒が始まり、次第に蔓延して全身を侵す。

2) 掻痒發作は外氣温度の變化、又は精神的感動及び想像により誘發される。

**原因** 種々にして老人に來る事最も多く、P. senilis と稱へ頑症が多い。

- 1) 慢性病: Nephritis, Acidosis, Diabetes mellitus, Lebererkrankungen, Tuberculose, Carcinom, Pseudoleukämie,
- 2) 婦人病: Menstruationsanomalie, Schwangerschaft, Klimakterium, Myoma uteri, Kystoma ovarii
- 3) 中毒: Morphin, Nicotin, Tee, Kaffee, Alkohol,
- 4) 神経系障碍: Hysterie, Neurasthenie

#### B) 局所性掻痒症 Pruritus localis

**症候** 1) 陰部掻痒症 P. genitalium; 最も多く殊に中年以後の婦人の äussere Genitalien, Clitoris, Scheidenöffnung に局在す (P. vulvi) 男子では Hodensack, Damm に來る。又 Tripper, Leucorrhoe が屢々原因になる。

2) 肛門掻痒症 P. ani: 男子中以後に多く發生し, Parasiten, chronische Verstopfung, Prostataerkrankung, Haemorrhoid 等が原因となる。

3) 頭部掻痒症 p. capitis; P. senilis が頭部に局在せるとき、又 Hysterie, Neurasthenie の Kranke に來る。

4) Pruritus des Gehörgangs.

5) Pruritus des Unterschenkels.

6) P. palmaris et plantalis.

#### C) Komplikation des Pruritus cutaneus

掻痒は常に初めは輕微であるが、搔破するに従て激烈となり、益々烈しく搔破する、之を繰返す爲に Excoriation 搔痕を生じ、出血を招き或は屢々 Urticaria, Folliculitis, Impetigo, Furunkel 等を發生し、又皮膚は Lichenification を來して肥厚する。

**療法** 1) 原因の除去に努める、原因的疾患が存すれば之に對する療法を行ふ。

2) 内服薬: 臭素劑, Antipyrin, 楊曹, Salol

3) 注射薬: 2-3% CaCl<sub>2</sub>, 0.85% NaCl, Bronatrin, Jukromin, Tetrodotoxin.

4) 温浴: Lysol, Menthol, Carbol 浴



- 5) 外川薬: Carbolzinkliniment, 酒精劑  
重症には Teerpasta, 10% Pyrogalloltraumaticin, 10-20% AgNO<sub>3</sub>.
- 6) 理學的療法: Künstliche Höhensonne, Röntgen
- 7) 臓器療法: 婦人の P. genitalium には Ovariumpraeparat の奏効する事がある。

### Ⅲ 小兒蕁麻疹様苔癬又小兒ストロフルス

Lichen urticatus infantum s. Strophulus infantum

**定義** 小兒期に於ける掻痒性皮膚疾患で、蕁麻疹様の紅斑と丘疹とを生じ、部位は毫も一定しない。経過は數年に亘るが多くは一定の季節に反覆して發生するものである。

- 症候** 1) Erythem は多く unterfingerspitzgross で rundlich od. polygonal である。
- 2) Papel は reisskorngross から bohnergross に及び rosarot で扁平か又は konisch をなし、或は却て蒼白又は淡黄色を呈して眞珠様の光澤を帯び、稍硬く周圍に紅暈を示すものもある。之を **Strophuluspapel** と呼び、其頂點には其大小に應じ一個又は數個の Vesikel がある。即ち Strophuluspapel は一種の Seropapel である。是は激烈な掻痒を伴ふ故に常に搔破されて漿液を洩し、點狀黄褐色の漿液性結痂をなし、時には血痂を帯びてゐる。而も此丘疹は發作性に掻痒を呈するが、數時間乃至 4-5 日で消失し、時に後に Pigmentierung を貽すこともある。
- 3) Strophuluspapel が乳兒の Fusssohle, Handteller に發生する

と、Bläschen が擴大して小豆大に及ぶ Blase となり、厚い角層の被膜に包まれる故容易に破れず、掻痒が一層激烈なことがある之を **Strophulus bullosum** と呼ぶ。時に四肢軀幹に於ても Strophuluspapel が大豆大以上に及び炎症症狀の強い時には、其 Seropapel 内の Bläschen が融合して、小豆大に及ぶ Blase に化すこともある。之も同じく Strophulus bullosum に屬する。

- 4) 紅斑と丘疹の他に屢々眞の Urticaria も發生する。
- 部位** 四肢及軀幹に一定の部位なく發生するのを却て其特徴とす。顔面には稀である。

- 経過** 1) 卒ね生後數ヶ月又は一年位の間突然發疹し、4-5歳に至ると 快し、7-8歳頃自然に治癒する。
- 2) 時に Masern, Vaccination 後に初發し又は増悪する事もある。
- 3) 多くは初夏に始まり、掻痒は夜間に特に著しく母親をして安眠せしめない。秋から冬季にかけては輕快するのが常であるが、夏と冬とに増悪するもあり、重症なものは四季を擇ばずに反覆發生する。
- 4) 續發症は殆どなきか、又激しく搔破する時に Pustel となり Impetigo や Furunkel を作り、regionäre Lymphdrüsenanschwellung を來すこともある。

**原因** 未だ不明なるも、先天性自家中毒、内分泌障礙、胃腸障礙(下痢、便秘、偏食、牛乳、卵の過食)が屢々誘因となる。

**診斷** 幼少時の發生、激烈な掻痒、紅斑と固有の丘疹、部位の不定、慢性の経過、濕疹化及び苔癬化の缺如、

**類症鑑別** 1) 疥癬 Skabies: 疥癬虫の感染に因るものであるから、多く家族間の傳染を證明する。幼兒では屢々 Pustel を發生し、

部位も屈側に好發する。尙又固有の Milbengang 疥癬隧道を證明出来る。

- 2) 痒疹 Prurigo: 初めは Strophulus の状を呈する故區別は困難であるが、一、二年の間に部位が主として四肢の伸側に限局し、局部は浸潤肥厚し汚穢である、又蕁麻疹を作らず、且つ固有の Prurigobubonen 痒疹更毒がある。
- 3) 昆虫刺螫 Insektenstich: 蕁麻疹又は紅斑で中央に小出血點を見る。
- 4) 蕁麻疹 Urticaria: Quaddel で忽ち生じ忽ち消退す、且つ扁平で形状大きさも種々である。
- 5) 丘疹性濕疹 Eczema papulosum: 多くは部位が一部に限り diffus の Rötung があり、丘疹以外にも水疱や濕潤面がある。
- 6) 水痘 Varicella: 乾涸して黒褐色の痂皮を作る、尙發熱があり、流行性に來り再發しない。

**療法** 1) 食物の注意 卵や牛乳或は餡氣のものを禁じ、又牛豚肉、天麩羅等の膏膩のものは屢々誘因になる。時にバナナや鹽氣の多い食餌が原因となるもあり。個人によつて異なる。便秘過食を注意しなければならない。林檎、柑橘類、野菜等を與へるがよい。

- 2) 轉地 山間清涼の地に轉地すれば速に治するが常である。海岸は屢々痒疹を激烈ならしめる處がある。
- 3) 對症的療法 i) Lysolbad (一浴に2.0-5.0)を二、三週間持續して毎日就寢前に行ふのは効果が最も多い。其他鹽浴、カミツレ浴も行はれる。
- ii) 輕症には Carbolzinkliniment, 2% Mentholalkohol, 2% Na-

phtholvaselin, Camphertinktur, 1% Peptonvaselin の塗擦を行ひ、痒疹激烈な際には 2% Kaposi 氏膏を全身に塗擦するもよい。但し是は餘り持長すると腎臓を障碍する處がある故患者には與へない方が可い。

- iii) Höhensonnenbestrahlung: 毎日數分宛全身浴を行はせる。
- iv) Mutterserum: 母親又は健康者から 10-20 c.c. を採血し之を氷室に貯へて分離血清をとり、一回に 1-2 c.c. 宛隔日に皮下注射する。
- v) 肝臓機能障碍との考から、其作用を充進せしめる目的に Hepan, Jacriton 等が用ひられる。
- vi) 續發症として Pustel, Impetigo を生じたならば Pick 氏膏 Borzinksalbe を貼用する。
- vii) Strophulus bullosum は酒精綿で局部を拭ふた後、滅菌した針で穿刺し、水疱内容を壓出した後沃度丁幾を塗布するのが最も効果がある。此沃度丁幾塗布は、丘疹にも用ひて其痒疹を制止し吸収を促すに妙である。

#### 附) 蕁麻疹様苔癬 Lichen urticatus

痒疹性疾患に目撃し、或は單獨に成人に來る。Strophuluspapel は其一種である。Stecknadelkopfgross bis bohnergross の Papel で Spitze に Bläschen を有し或は Krüstchen を結ぶ。常に痒疹が激烈である。

### III 癢疹 Prurigo Hebrae

**定義** 主として四肢の伸側に、劇烈な痒疹を伴ふ小丘疹を發生

し、多く幼児時代に始まり、壯年に及ぶ迄治癒しない慢性癢痒性疾患である。

**症候** 1) 乳児時代から Urticaria, Lichen urticatus が散在性に反覆発生するに始まる。

2) 次第に 1-2 年の内に發疹が Extremitäten 殊に下腿の Streckseite に localisieren し Prurigoknötchen 癢疹性小結節を生ず。

3) **Prurigoknötchen** は reisskorn-bis azukigross の Seropapel で flach に Hautniveau より erhaben し gesunde Hautfarbe 又は rötlich bräunlich に著色し、scharf begrenzt で、時に Blase, Pustel を有す。初期の小さなものは皮膚の上層中に埋没し目で視るよりも手に觸れて識り易い、是は數時間から二、三日の後には自然に消失し Pigmentation 又は fein な Narbenbildung を残す。

此丘疹が多數續生して、常に激烈な癢痒を伴ふ故に搔破されて剝脱、糜爛を來し、又落屑、結痂、膿痂疹を生じ、爲に皮膚は瀰漫性に浸潤肥厚して汚穢の外觀を呈するに至る。

4) **癢疹夏毒 Prurigobubonen** は必發の症狀で股腺、鼠蹊腺が幼時より漸次無痛性に増大して鶏卵大以上に及ぶが毫も炎症症狀を伴はない。

5) 症狀は氣候によつて消長する。夏季又は冬季に増悪するが、時に春秋二季に發生するもある。我國では夏季癢疹 Prurigo aestivalis が冬期癢疹 Prurigo hiemalis より多い。

**部位** 1) Extremitäten の Streckseite 殊に Unterschenkel に著しく、上肢にも及ぶ。

2) Prurigo agria s. ferox 重症癢疹では Rumpf, Gesicht, Kopf に

及ぶものがある。

3) Prurigo mihi s. mitis 輕症癢疹は比較的症狀著しからざるもので部位も四肢、殊に主として下肢の伸側に限るものである。

4) 多年存在するも Kniekehle, Ellenbeuge, Handteller, Fusssohle は常に intakt である。

**経過** 1) 幼児より始まり Pubertät に著明になり、漸次勢を減じて、三十歳前後に自然に消失す。

2) 老年まで存在するものもあり。

3) 成年以後に發生するものもある。

**併發症狀** 1) Kratzezem, Verdickung und Pigmentation der Haut.

2) Exkoration, Erosion, Abschuppung, Blutborke.

3) Impetigo, Furunkel, Nephritis.

**豫後** 患者は癢痒に苦しめられる他、全身状態は毫も侵されな、但し Nephritis を合併する危険がある。

**原因** 未だ不明なるも、内分泌説、先天性自家中毒説がある。

**診断** 1) 激烈な癢痒ある固有の Prurigo-knötchen.

2) 發生部位

3) Schmerzlose Prurigobubonen.

4) 發疹と季節との週期的關係

5) 幼児より始まり多年慢性の経過をとる。

**類症** 癢疹性濕疹 Eczema pruriginosum

Prurigoknötchen の代りに、境界明瞭な濕疹狀の局面を散在性に生じ、伸側以外に膝肘高等の關節屈面をも侵すものである。

季節的關係があり、無痛性便毒も激烈な癢痒もあり、経過も慢

性である等癢疹と同じである。其 Eczema chronicum と異なる  
點は伸側を侵し境界明瞭な事である。

**類症鑑別** 1) 小兒ストロフルス Strophulus infantum: 初めは區  
別が困難であるが本症は部位が一定せず、且つ皮膚に持続性の變  
化を呈しない。

2) 慢性濕疹 Eczema chronicum 多く屈側を殊に關節屈面を侵  
すもので便毒もなく、且つ癢疹の如く季節的關係がない。

**療法** 全治せしめる事は困難で只患者の苦痛を輕快ならしめる  
のみである。

1) 入浴と轉地: 糠浴. 硫黄浴. Lysol 浴等, 又轉地は最も効果  
がある。

2) 食事の注意: (Strophulus infantum の療法 i) 参照)

3) 外用薬: Kaposi 氏複方ナフトール膏. Wilkinsonsche Salbe,  
Teerpasta.

4) 注射薬: 1) 1% Pirekarpin 水溶液  
2) 1% 亞砒酸曹達. Solarson, Optarson,  
3) Bruck の Injektion.

#### IV 蕁麻疹 Urticaria

**定義** 皮膚上層の限局性浮腫で、忽然發生し、又忽然と何等の  
痕跡を遺さずに消失する搔痒性皮膚疹である。

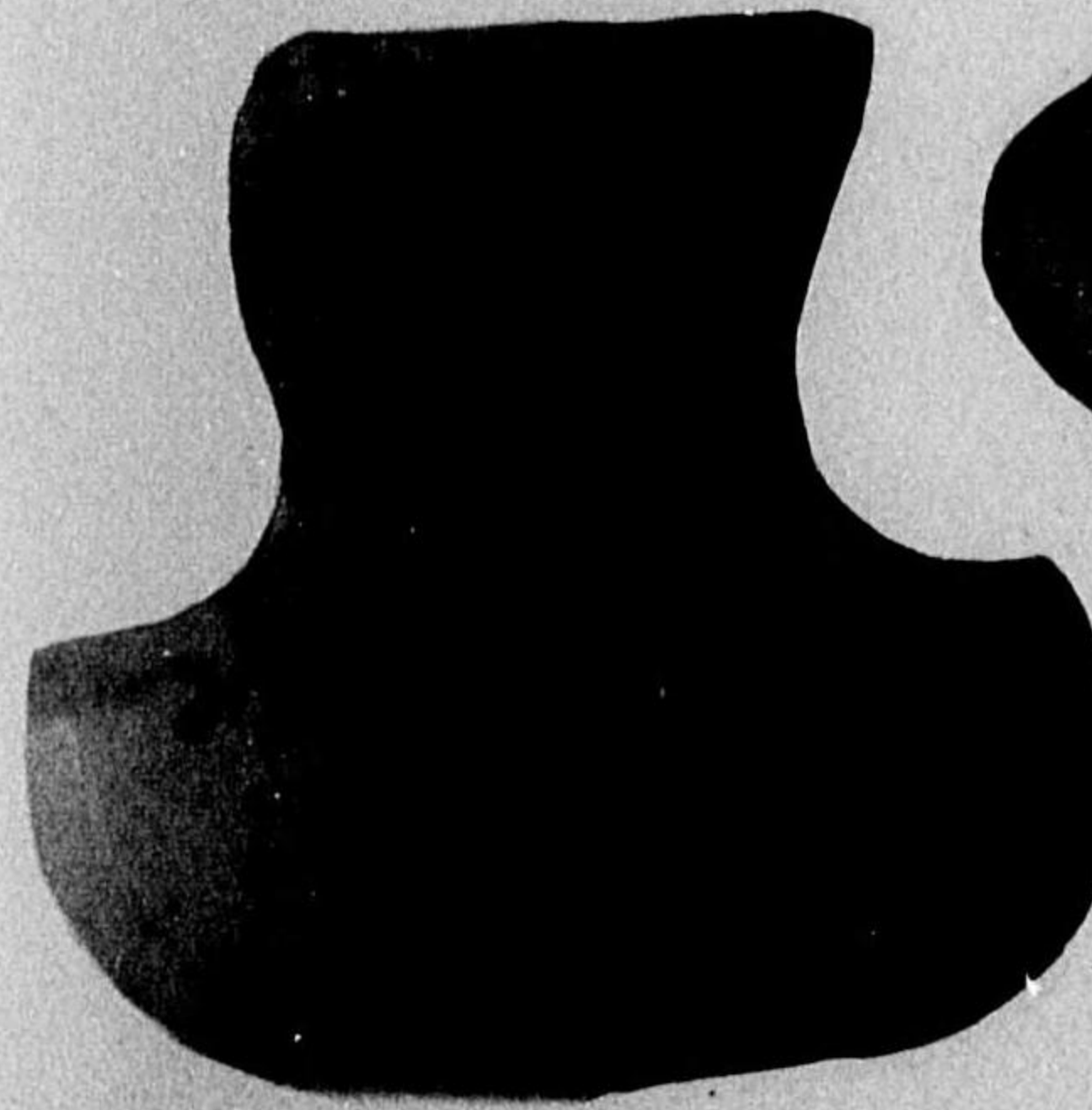
**症候** 1) 健康皮膚面に突然癢痒を感じ、搔けば充血を來し、浮  
腫即ち Quaddel を生ず、發疹前に違和倦怠、發熱を伴ふことも  
ある。

第三圖



癢疹  
Prurigo Hebrae

第五圖



脂漏性濕疹  
Eczema seborrhoicum

第四圖



小兒蕁麻疹樣苔癬  
Lichen urticatus infantum

第六圖



多形滲出性紅斑  
Erythema exudativum multiforme

2) **Quaddel** は *Urticaria* の特徴で限局性浮腫である。稍硬く皮膚面より扁平に隆起し、大小は不同である。屢々融合して大局面をなすもある。決して浸潤せず、約ね數分數十分で消失して何等痕跡を止めない。

3) **Quaddel** は常に癢痒を伴ふ。

4) 屢々**人工蕁麻疹** *Urticaria factitia* 一名 *Dermographismus* 皮膚標記症を伴ふ。即皮膚を強く摩擦すれば潮紅浮腫を生ずる。

**分類** 1) **Farbe**: **Quaddel** の紅色なるを紅色蕁麻疹 *Urticaria rubra* と云ひ、蒼白で紅暈を有するものを白色又白陶色蕁麻疹 *U. alba s. porcellanea* と呼ぶ。

2) **Form**: 其形状により地圖狀蕁麻疹 *U. figurata*, 蛇行性蕁麻疹 *U. serpigiosa*, 環狀蕁麻疹 *U. annularis*, 花環狀蕁麻疹 *U. gyrata*, 等の名がある。

3) **Exsudat**: **Oedem** が強い時には稀に表面に **Blase** を形成するものがある。即水疱性蕁麻疹 *U. bullosa* である。又此中に出血すれば、出血性蕁麻疹 *U. haemorrhagica* である。

4) **Verlauf**: 急性蕁麻疹 *U. acuta*, 慢性蕁麻疹 *U. chronica*,

5) **Ursache**: 内因性蕁麻疹 *U. interna*, 外因性蕁麻疹 *U. externa*

以上の他多數の區別がある。例之夏季或は冬季蕁麻疹 *U. aestivalis et hiemalis* 寒性又は温熱性蕁麻疹 *kälte od. wärme Urticaria* の如くである。

**経過** 1) 多く急性で個々の發疹は數分數十分で消失し發作性に反覆し數日間で終る。

2) 慢性のものは數月、數年に亘つて不定の間隔を以て發疹するも

のがある。

原因 従来一般的に考へられた原因の種類

外因 1) 物理學的刺戟

- a) 機械的刺戟: 人工蕁麻疹, 摩擦, 壓迫, Bier氏鬱血帶等。
- b) 温熱及寒冷: 寒冷は温熱に比し屢々原因となる。
- c) 日光光線, 紫外線
- d) 電氣的刺戟: Galvanisch には陰極の方が強く作用する。

2) 化學的刺戟

a) 植物性及動物性物質

蕁麻 *Urtica urens*, つたうるし *Rhus toxicodendron*  
をにしばり沈丁香 *Daphne mezereum*, さくらさう  
*Primeln*.  
Wolle, Flöhe, Wanzen, Laïse, Blutegel, Wespenstich

b) 藥物. 治療血清

Copaivabalsam, Morphin, Atropin, Codein,  
Chloral, Chinin, Antipyrin, Santonin, Terpentin,  
Jod-Brom-salz, Arsen, Salvarsan, Pepton, Trypsin,  
Harnstoff, Milchsäure, Salzsäure, Kresol, Carból,  
Diphtherie- Tetanus- Scharlachserum, Vaccin etc,

c) 食餌及飲料

魚肉殊に秋刀魚. 鰯等. 獸肉殊に豚肉. Majonnaise,  
Käse, 蝦. 蟹族. 貝類. 牡蠣. 蝸牛. 茸類. 葱類. 甘藍  
Selleri, Melone, いちご, 胡桃 etc.

鶏卵. 牛乳. 牛酪. チョコレート. 珈琲. 茶 etc

内因 3) 内臓疾患, 全身性疾患

胃腸疾患 (最も屢々原因になる) 腸寄生虫, 肝及肺の *Echinokokkuscysten*, 膽石, 肝臓痛, 黄疸, 腎疾患 (慢性蕁麻疹の原因として最も多し) 痛風, *Muskelrheumatismus*, 女子生殖器疾患, *Hypothyroidismus* etc.

4) 傳染性疾患

*Malaria*, 化膿性疾患, *Leukaemie*, 淋巴癌腫, *Mycosis fungoides* etc.

5) 外傷性疾患

出血. 組織の挫碎及び崩壊

6) 神經性疾患

*Epilepsie*, *Hemiplegie*, *Neurasthenie*, *Hysterie* etc.

7) 植物性神經系の緊張異常

*Vagotonie*, *Sympaticotonie*, 或は *Vegetative Nervensystem*  
全體としての緊張異常

8) 遺傳的關係

上述の諸原因が如何なる機轉によつて, *Urticaria* 殊に *Quaddel* の發生を來すかに就ては, 古來最も旺んに議論研究せられる所であつて, 外部から若しくは内部から *Haut* に達する各種の *Noxe* 毒素の作用なりとされるが, 局部に於ける其作用に關しては未だ定説がないのである。其 *Pathogenese* に就ての意見を總括すると, 或は *Gefässneurose* の結果なりとし, (*vasomotorische sekretorische Neurose* Neisser) 或は一の *entzündlicher Vorgang* (*Cohnheim*, *Philippson*) なりとし, 或は *Gefässanaphylaxie* (*Lewandowsky*) 等の説がある。今現今に於

ける此研究を検すると

- 1) 血液化學的乃至化學的方面から之を説明せんとする一派は、屢々蕁麻疹患者に Histamin 増加, Hyperuricaemie 又は Hypercholesterinaemie, 或は組織内無機鹽類含有量の變化を證明し、之に因て組織の Säuerung を生じ、又は直接に組織の Quellung を生じて浮腫を發生し、Quellung は又神經末梢を亢奮せしめて癢疹を惹起し、更に Sympaticus を通じて反射的に紅斑を發生せしむるものとなしてゐる。
- 2) 植物性神經系統に原因を求める一派は Vagotonie, Sympaticotonie, 或は一般に植物性神經系統の不安定 Labilität を證明し、其異常な亢奮性を以て蕁麻疹の要素なりとし、Vagotoniker では Alkalose を sympaticotoniker で Azidose を認めるとなしてゐる。
- 3) 内分泌障礙説 内分泌腺の Funktionsanomalie は一種の Noxe を發生し、或は又中間新陳代謝殊にその Mineral-stoff の代謝、又は H-resp. OH-Ionen Konzentrationverschiebung と關係し、或は植物性神經系統と密接な關係を有する意味に於て、蕁麻疹の發生に影響する、即ち Epithelkörperchen の障礙、Schilddrüsen の Disfunktion のある際、Morbus Basedowii に屢々 Urticaria が發生する。Keimdrüsenstörung 殊に婦人生殖器は屢々 Urticaria の發生に關係し、Schwangerschaft, Menstruation, Klimakterium に其發生を見る。
- 4) Urticaria を以て一の Allergie なりとする説 此説が最近最も有力で、Bruck, Bloch, Rost, Jadasshon氏等によつて唱へられ、Urticaria を一種の Antigen-Antikörperreaktion として發

生するものとして、其發生の總ての場合を説明せんとするのである。即先に述べた如き種々の原因が Antigen として作用し、表皮細胞及び血管内被細胞が之に對する Antikörper の成生を營なみ同一の原因が再び作用する時反應として Urticaria を發生するのであると考へる。

此性質は Allergie の特性として先天性遺傳性にも存在し又或局部皮膚にのみ存在する事も可能である。又其 Antigen は Anaphylaxie の Antigen の如く eiweissartige Natur に限らず Eiweiss 以外の極めて廣汎な範圍の物質が Antigen となり得るのであつて、種々の藥物例へば Salvarsan, Trypaflavin, 等に因つても此反應が起り得る。換言すれば此 Allergie は Anaphylaxie と Idiosynklasie との凡てを包括する意味の Überempfindlichkeit である。

**診 断** Quaddel の發生、之に伴ふ激烈な癢疹、濕潤しないこと數分にして消失して痕跡を止めぬこと。

#### 類症鑑別

- 1) 皮膚癢疹症 Pruritus cutaneus: 發疹がない。
- 2) 小兒ストロフルス Strophulus infantum: 搔破による血痂がある。
- 3) 癢疹 Prurigo: 固有の丘疹があり、膿疱血痂が附着する。
- 4) 中毒性紅斑 Erythema toxicum: 癢疹少く、灼熱感が強い。且つ Ausschlag は Urticaria より永く持續する。

**療 法** Behandlung の爲には Urticaria を次の如く分類するの

が便利であるが、努めて其原因を探求して Kausale Behandlung を行ふ事を心懸けなければならない。

- 1) 過敏症の原因が発見されるもの： 例へば特殊の食餌や薬剤に依る場合には、此等一定の原因を廢止しなければならぬ。又時としては純 Anaphylaxie に於ける如く Desensibilisierung を行ふがよい。其法は epicutan, intracutan, subcutan, parenteral に Allergen の極く微量（例へば Salvarsan ならば其  $\frac{1}{10000}$  から始め、夫から漸次増量して與へるのである。或は食餌性のものならば Pepton 5mg, を毎食前に與へるもよい。
- 2) 新陳代謝障碍に因るもの： a) 多くは Magendarmstörung を伴ひ之から Allergen が吸収せられるものであるから硫苦、人工カルルス泉鹽の如き下劑を投じ、慢性便秘、異常酸酵には Hefepreparat, 硫黄劑殊に複方甘草散がよい。

Rp. 精製硫黄	}	各一分	每食前 1.0宛内服
茴香末			
センナ末	}	各三分	
甘草末			
白糖			

或は Menthol, Resorzin を與へる。或は毒素を中和し、早く排泄させる爲に 0.85% Nacl, 葡萄糖液, 次亜硫曹達液(10%, 10 c.c.) の注射を行ふ。CaCl<sub>2</sub> の注射も Urticaria の發生を抑制する効果がある。

又組織の酸性化が Urticaria の原因になるとの考の下に重曹療法をも用ひる。(2-3gr 宛一日三回内服又は 20-40%液10c.c注射)

- b) Urticaria chronica の原因に屢々 Hyperuricaemie が證明される。此時には Atophan を與へて、尿酸の排泄を促進するのが合理的である。(一日三回 0.5 宛内服或は靜脈注射又は Atophanyl の靜脈内注射) プリン性食餌は此際避けねばならぬ。
- c) Nephritis, Diabetes mellitus, Maligne Geschwulst 等も中毒物質を産出して原因になるので、之が治療を行はねばならないのは勿論である。故に常に尿、糞便の検査を怠つてはならない。
- 3) 内分泌障碍： Ovariumpraeparat, Hypophysenpraeparat を用ひ、Schilddrüse の Hypofunktion には Schilddrüsenpraeparat, Jod. を用ひる。
- 4) 植物性神経系統の異常： a) Vagotonie の症状が明かなるもの例へば所謂 kälte Urticaria は多く Vagotonie を伴ふ。此時には Atropin を與へ或は Sympaticus を reizen する爲に Adrenalin を用ひる。又多く血液中の Ca 含有量の減少が證明されるので CaCl<sub>2</sub> の注射をも行ふがよい。
- b) Sympaticotonie のあるものには特効的に好作用を與へる薬物がないが Magnesiumpraeparat (Magbron, Magnesol etc.) が比較的効果がある。時として Antipyrin が効果ある事もある。
- c) Vegetative Nervensystem の Labilität を證明するのみの時には Brompraeparat を比較的少量に與へるがよい。
- 5) 原因の全く不明の場合 a) 以上孰れの場合と雖も亦對症療法を忽にしてはならない。即患者には先づ Stuhlgang を整へ、無刺戟性食餌を命じ、酸性の不消化物や刺戟性の食餌、飲料、珈琲、茶、Alkohol 性飲料を禁止する。或は全く食餌を變化さ



せるもよい。

又過勞や精神感動を避けしめ、衣服には毛製のものを禁ずる必要がある。

b) Bruck, Organismuswaschung (0.85% NaCl 300—500c.c. 毎日静脈内注射)

c) 異種蛋白療法 又は Terpentinpraeparat の注射 (Terpichin)

d) Aderlass 之は(i)と併用する。

e) Autoserum Therapie 數年に亘る原因不明の蕁麻疹が之に依りて治癒することがある。

f) 發疹局部には鎮痒劑として酒精劑、振盪合劑或は Carbolzinkliniment Dohi を與へる。酒精劑、振盪合劑は廣汎な部位に用ふるに適し、Hautの抵抗力に應じて加減して用ゐるのである。

酒精劑としては 1—5% Menthol, 2% Carbol, 0.2—1% Thimolalkohol, Campheralkohol etc.

浴治法としては糠浴, Lysol浴, 乾葉浴, Menthol浴, 硫黄浴を用ゐるもよい。

g) 時としては紫外線療法も有効である。

h) 内服劑としては、時に睡眠不足を救ひ、精神の安靜を得るために Carmotin, Veronal, Chloralhydrat, Bromral 等を用ふるもよい。慢性症には Arsenpraeparat (ホーレル水, 亞細亞丸) Salol, Aspilin, Salicylsäurenatrium, Brocqの鹽基麥角丸(鹽規 0.2, 麥角 0.2, 莨菪越 0.1, グリセリン適宜爲五十丸一日九粒内服) Gynargen (一回0.5c.c.皮下注射)

石炭酸丸(結晶石炭酸 3.0 適宜爲三十丸一日 2—3粒)クレオソート(一日0.3—1.0) チオノール (0.3丸一日分服)

## V. 固定蕁麻疹 Urticaria perstans

**定義** 激痒を伴ふ扁平の丘疹が散在性に發生し、慢性で容易に消失しないものである。

**症候** 1) 癢痒激烈な持久性丘疹で、多く汚穢暗褐色を帯び薄い鱗屑血痂を有す。

2) 散在性に來り linsengross より bohngross に達し類圓形又は不正形である。境界は明割で Boden に強い Infiltration を觸れる。

3) Zahl は多く數個乃至十數個であるが、時に無數に全に汎發する事あり。但し決して融合しないのが特徴である。

4) 搔破により一時腫大し漿液を洩し或は出血するが少時にして原形に復す。

**分類** 1) 單純性固定蕁麻疹 Urticaria perstans simplex 概ね數日で消失するもので昆蟲類の刺螫による。

2) 丘疹性固定蕁麻疹 Urt. perst. papulosa bohngross 以上に及ぶ扁平丘疹で主に四肢軀幹に生ず。

3) 疣狀固定蕁麻疹 Urt. perst. verrucosa Urt. perst. papul. より更に大きく、數は少なく、表面が粗糙で疣贅狀を呈するものである。

**部位** 手甲, 足背, 下肢伸側, 前膊伸側に多く時に顔面軀幹にも來る。

**経過** 数日、数週で消失するものあり (U. P. simp.) 又數年に及ぶものあり。一時吸収されて時を経て復隆起することもある。

**原因** Insektenstich が往々原因になる、他は不明。Urticaria と同様の原因が考へられる。

- 療法** 1) 5% Chrysalobintraumaticin, 5% Pyrogalloltraumaticin Teerpasta, Wilkinsonsche Salbe, Pick 氏膏  
2) 紫外線, Röntgen, Radium.

## VI 色素性蕁麻疹 Urticaria pigmentosa

**定義** 初生児時代に發生し、皮膚に黄褐色の小斑又は丘疹を生じて長く存在し、其間に常に蕁麻疹様過敏症を伴ふ慢性皮膚病である。

**症候** 1) 乳兒期、生後一年以内に fingerspitzgross の Urticaria を多發し、其の跡が frischrot の Fleck 又は Papel になり時々 Urticaria の様に腫脹する。

2) 漸次 gelblich, bräunlich となり, schmutzig gelb となる。又 dunkelrötlich bräunlich になるもある。

3) 大さ時に貨幣大より手掌大に達する。

4) 外部的刺戟又は精神感動により urticariös に anschwellen し、又眞の Urticaria を生じ易い。

5) anfallsweise に heftiges Jucken を klagens。

6) Urt. pigmentosa adultoum は成年以後に始めて發疹するものである。

**経過** 數年、十數年、數十年に亘る。

**療法** 1) 根治法なし。

- 2) 掻痒に對して Carbolzinkliniment の類を與ふるのみ。

## VII 急性限局性皮膚浮腫 Oedema cutis circumscriptum 又 Urticaria gigantea, Oedema Quinkei

**定義** 皮膚及び粘膜に突然限局性の大な浮腫を生じ、痕跡を止めずに消失するものである。

**症候** 1) Prodrom として allgemeine Mattigkeit, Appetitlosigkeit, Kopfschmerz を伴ふ事がある。

2) 巨大な皮膚浮腫を生ず、單發又は多發し、形は饅頭の如く限局性で, relativ scharf begrenzt であり、色は normale Hautfarbe 又は bläss od. etwas rötlich である。

3) subjektive Beschwerde は leichtes Juckgefühl, Brennendesgefühl, Spannungsgefühl.

**部位** Augenlider, Wange に最も多く。時に Extremitäten, Rumpf 又 Schleimhaut にも來る。

内臓粘膜を侵した場合には嘔吐、精神沈鬱、昏蒙、蛋白尿を來す事がある。

**原因** 不明、一種の風土病とも云ふ。

**診断** 突發する饅頭大の浮腫、反覆發生、及び炎症の缺如。

**療法** Aspirin, Antipyrin, Na-Salicylicum, Atropin, Chinin Arsen etc. 効果正確ならず。

## 第四章 急性炎症性皮膚疾患

### Akute entzündliche Hautkrankheiten

#### I. 濕疹 Eczema

**定義** Eczema とは Epidermis 及び Oberschicht der Cutis を侵す juckende Dermatitis で、Haut に diffuse Rötung を呈して其上に Papel, Bläschen, Pustelchen, Kruste, Abschuppung 等各種の皮疹を生じて濕潤し、Grenze は unscharf である。終には落屑して治癒し屢々 Haut の Infiltration und Verdickung を來して慢性症に變ずるものである。

#### 濕疹に対する解釋

1. 維納學派： 外界よりの刺戟により起るものなりとす。(Artefizielle Eczem 人工濕疹)
2. 佛蘭西學派： 體質説で特殊の濕疹體質が存在して始めて發生するので慢性の経過をとり且つ屢々再發す。
3. Unna: 皮膚表層の癢痒性鱗屑性の病變で慢性の傾向を具へ之に各種の刺戟が加はると千差萬別の症狀を呈する。
4. Pinks: 外面から作用する原因の分明なる時は濕疹と云ひ得ず。
5. Rost: 外面から作用する原因が除去されると同時に治癒するものは Dermatitis で、それが除去されても反く病變が持續するか又は次第に蔓延する傾向のあるものを Eczema であるとす。
6. Puley: Akute Dermatitis に Jucken の加はつたものを Eczema とす。

7. 土肥慶藏博士: Eczema とは一つの Symptomen Komplex に對する名稱で klinisch の Befund により "Eczema" なる Diagnose を下すべきものである。

即 Eczema は 内因(佛蘭西學派)によつても外因(維納學派)によつても等しく發生し得るもので klinisch に一定の Befund を呈する時は原因の如何を問はず之を濕疹と診斷すべきである。唯特殊の原因を有する他の皮膚病に續發する濕疹様變化は之を Eczema symptomaticum として固有の Eczema から區別すべきである。例へば Skabieseczema, Eczema pruriginosum Eczema uraemicum, Eczema trichophytinum 等を除外する時に始めて Eczema の真相を認識する事を得るのである。

**發生原因** 外因と内因と協力して起るもので、勿論外部的刺戟に因つても發生するが、同時に又内因として一種の素質の存在を必要とする。是れ同じ外因が作用しても、或者では Dermatitis に止まり、或者では Eczema が成立し又濕疹を發生しても其程度が異なる理である。此 Disposition は故土肥慶藏先生の言はるゝ如く多くは angeboren であるが亦 erworben にも發生し或は一過性に止まり、或は持續性である。是れ Eczema が allergische Dermatose なりと考へられる所以である。

#### A) 外因 1) Chemische Ursache:

- i) Jodoform, Jodotinktur, Hg-Salbe, Carbol, Schwefel, Teer, Kroton, Formalin etc.
- ii) 吸入, 罌法, 白髮染め, 絆創膏
- iii) 汗, 涙, 唾涎, 鼻汁, 糞尿等。

#### 2) Mechanische Ursache:

衣服, コルセット, カラー, 帽子, 皮膚両面の接觸等

B) Physikalische Ursache:

火氣, 日光々線, Röntgen, Radium, Ultraviolettstrahlen, 寒風等.

B) 内因 1) Exsudative Diathese, Arthritisums, Scrophulose, Lymphatismus, Status thymicolymphaticus

2) Magendarm-Störung, Nierenleiden, Diabetes mellitus Anaemie

3) Weibliche Geschlechtsorganerkrankungen

4) Neurasthenie, Zirculationsorganerkrankungen

C) 感受性變化 何か Haut に entzündliche juckende Krankheiten が存在する時には allergische Erscheinung として疾病局部の周圍の Haut から延いては全身の Haut は外來の刺戟に對して著しく感受性を亢め, 健康時には何等の反應を示さなかつた刺戟に對して著明の反應を呈し, 容易に濕疹を發生する。是れ Allergie の發生である。

症候 Eczema は大別して Eczema acutum と Ecz. chronicum に分つ又罹患部の重要な症状又は Krankheitsstadium に從て次の如く細別する。

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. Ecz. erythematosum | 紅斑性濕疹  |
| 2. Ecz. papulosum     | 丘疹性濕疹  |
| 3. Ecz. vesiculosum   | 小水疱性濕疹 |
| 4. Ecz. squamosum     | 落屑性濕疹  |
| 5. Ecz. madidans      | 糜爛性濕疹  |

6. Ecz. pustulosum 膿疱性濕疹

7. Ecz. crustosum 結痂性濕疹

8. Ecz. impetiginosum 膿痂疹性濕疹

9. Ecz. rubrum 赤色濕疹

Eczema は大概此順序を追ふて發生するものであるが其原因の種類, 輕重, 原因の作用する時日の長短, 素因の存否, 患者の素質, 治療の如何, 外界刺戟の有無等に依り種々の経過を示し, 各種の混合型を存する。例へば

Ecz. erythematosquamosum 落屑紅斑性濕疹

Ecz. erythematovesiculosum 紅斑性小水疱性濕疹

Ecz. papulopustulosum 丘疹膿疱性濕疹

の如くである。又同一患者でも部位により症状を異にし或は同一患部に於ても數種の濕疹の混在することがある。是等の現象は實に濕疹の特徴で之を濕疹の多様性 Polymorphismus と稱へる。癢痒は濕疹の主なる症状で濕疹の全経過中絶えず存在するものである。就中 Ecz. acutum の際に甚だしい。癢痒は摩擦, 搔破, 入浴, 飲酒, 過食, 尊温, 發汗, 神經過勞等により發作的に増悪し爲に Schlaflosigkeit を來し Neurasthenie 又は Anaemie の原因となる事がある。

A) 急性濕疹の症候 Symptome der Eczema acutum

炎症最も著明で, 劇烈な癢痒の他に灼熱感があり, 又 Eczema universalis 汎發性濕疹 では時に惡寒を伴ひ, 或は leichte allgemeine Symptome を伴ひ, 幼兒では發熱する事もある。

1) 紅斑性濕疹 Eczema erythematosum

i) Ecz. acutum の最初の徴候で, 特別の場合を除き濕疹は此皮膚の潮紅を以て始まり, 終始存在する。

- ii) 其 Grenze は unscharf で次第に健康部に übergehen する。
  - iii) allmählich に周圍に ausbreiten し、或は附近に島嶼狀に Erythem を散發し之と konfluieren して益々擴大する。
  - iv) 時に卒然身體の對側部位に、又は他の遠隔部に新に紅斑面を發生することがある。
  - v) 同時に患部は多少の entzündliches Oedem を來す。
- 2) 丘疹性濕疹 Ecz. papulosum
- i) Ecz. erythematosum の病勢が更に進んだ状態である。
  - ii) konisch rötlich の miliargross bis hanfkorngross の Papel を生ず。
  - iii) 多くは潮紅面上に又其周圍に disseminiert に存在す。
  - iv) 此 Ecz. papulosum が subacut に發生すると紅色の稍硬い Papel が密集して局面を作り又は散發するが其間に健康皮膚面を存するものがある。
- 3) 小水疱性濕疹 Ecz. vesiculosum
- i) Ecz. papulosum と同時に、又は之より一步進んだ状態である。
  - ii) miliargross の Bläschen であつて Blase は作らない。即ち濕疹には Ecz. bullosum は存在しないのである。
  - iii) 多くの場合 Bläschen は Seropapel として存在する。
- 4) 落屑性濕疹 Ecz. squamosum
- 原因が除去され又治療宜しきを得れば紅疹は消え Bläschen も乾燥し entzündliches Oedem も減退し其表面に枇糠様の落屑を生じ數日乃至十數日で ausheilen する。
- Eczema は其如何なるものも Heilung に赴く時には此 Stadium を經過するものである。

- 5) 膿疱性濕疹 Ecz. pustulosum
- i) 原因持續し治療を施さぬ際に (1) (2) (3) が増悪して生ず。
  - ii) 即ち Bläschen の Inhalt が trüben して Pustel となる。
  - iii) 又は初め潮紅面上に hirsekorngross の紅い Seropapel を生じ是が Pustel に變ずる事もある。
- 6) 糜爛性濕疹 Ecz. madidans
- Papel, Pustel が破潰すると rötlich の Erosionsfläche を現はす即ち Reteschicht が露出するので、Eiter と seröse Flüssigkeit が其表面から流出する。
- 7) 結痂性濕疹 Ecz. krustosum
- Erosionsfläche が存在すると Eiter und seröse Flüssigkeit を分泌し、是が乾涸して結痂する。又 Ecz. madidans は癢痒最も激烈であるから屢々搔破して出血を來し Eiter と混じて黒褐黄色の Krust を結ぶ事もある。
- 8) 膿痂疹性濕疹 Ecz. impetiginosum
- (7) に Eiterkokken の傳染を來し Impetigo contagiosa を合併して Kruste は更に厚く堆積する。
- 上述の各期は種々の Kombination を以て現はれ、必ずしも typisch の Verlauf をとるものではない。但し Ecz. erythematosum と Ecz. squamosum とは Ecz. acutum の初めと終りに當り、必ず視られるものであつて diffus の境界不明の潮紅面があつて其上に各種の症狀を呈するのである。例外は唯 Ecz. papulosum が subacut に發生する場合で Papel が konfluieren して一つの Plaque 局面を作つても Rötung は單に Papel の部位にのみ存して其間に gesund の Hautfläche を介在することがある。斯くて Eczema は必ず abschuppendes Stadium

を経て治癒するので此際必ず完全治療を營んで決して後に Narbe を遺さない。是も一つの特徴である。又濕疹は極めて増悪再發し易いもので一旦輕決しても極めて輕微な原因によつて増悪し再發常なく慢性症に移行し易い。

#### B) 慢性濕疹の症候 Symptome der Eczema chronicum

Ecz. chronicum とは Ecz. acutum が或局部に長く存続したとき、或は反覆發生して局部の皮膚に Epidermis und Cutis の Infiltration und Verdickung を來したものを謂ふのである。即ち entzündliche Symptome は限局性であるが、Ecz. acutum に比して深部に迄變化の及んだものである。局部の Haut は Hautleisten が erhaben し、Hautfurchen が深大となり、Hautfelderung が粗大となる。(Lichenifikation) 觸れれば硬く、柔軟性弾力性を失つてゐる。色は屢々紅褐色又は暗黒褐色で、表面は多く乾燥し、abschuppendes Stadium の Zustand をなすけれども處々に nässende Fläche があり、又癢痒も強く Exkoration を示す。Grenze は Ecz. acutum に比し稍々明劃な事が多い。又此 Ecz. chronicum は時につれ acute Symptome を呈するもので注意して觀察すると、病竈の何處かに急性症狀を發見することが多い。

**部位** 好んで Beugeseite を侵し、又屢々對側性を示す。又一局部に限らず、全身に汎發する Ecz. universalis もある。但し其強弱は部位により異なり、一般に裸露部又は摩擦し濕潤し易き部位は濕疹を起し易く、又症狀の著明なものを常とする。

#### 身體各部の濕疹

1) **頭部の濕疹** i) Regio parietalis et frontalis の 脂漏 Sebo-

rrhoea sicca et oleosa の増加するに従て潮紅濕潤して Eczema に變じ好んで Ecz. impetiginosum をなす。

ii) 小兒の Hinterhaupt の Ecz. impetiginosum が Pediculus capitis 頭虱の爲に發生することがある。

iii) 「白髮染め」に依つても屢々 Eczema を起し易い。

iv) 男子大人の Eczema capitis は Ecz. papulosum chronica になり易く kratzen するために化膿菌の感染を起して毛囊炎 Folliculitis を起し易い。即ち Folliculitis eczematosa capitis である。

2) **顔面の濕疹** i) 小兒殊に Exsudative Diathese Czerny のものは皮脂の分泌が旺盛であり、皮膚薄弱で輕微な刺戟に對しても敏感である。

初め輕微な刺戟のために多く頬に Rötung を來し、搔破、摩擦のために小水疱性となり、漿液の分泌が來り、或は Papel を生ずる。皮膚が弱いから直ちに小水疱が破潰し、或は Papel は Pustel に變じ濕潤糜爛し又 impetiginös になり易い。周圍に蔓延することも速かで耳翼の前面から耳後に蔓延する時は耳溝に皸裂性濕疹 Ecz. rhagadiforme を發生し易い。又治癒に向つた時も äusseres Gehörgang や Augenlid には残り易い。

口圍濕疹 Ecz. orbiculare も多い、垂涎又は食物の刺戟により生ずるものである。口圍紅色濕疹 Ecz. orbiculare rubrum は多く垂涎等の Reiz により口圍皮膚の Hornschicht が薄く剝離し皮膚に乾燥緊張感が起る故、患兒は常に舌で舐め廻す結果口の周圍が暗紅色を呈し、上皮の不全形成のため表面灰白色を呈する。同時に Mundlippe も粗糙になり Rhagaden を生ずる

- ことがある。此處にも Eczema が發生するのである。
- ii) 男子成人の硬毛を有する鬚髯部では、潮紅した濕疹面に於て屢々化膿性毛囊炎を併發し、毛幹に Kruste を附着し、毛瘡狀になることがある。即ち毛瘡狀濕疹 *Ecz. sycoisforme* である。
- 3) 頸部の濕疹 殊に幼兒では Hautfalte をなして兩面摩擦する故、發汗摩擦等が原因となつて、間擦疹 *Intertrigo* 又は間擦性濕疹 *Ecz. intertriginosum* を起し易い。初めは disseminiert に stecknadelkopfgross の小丘疹が生じ後には融合して一面に潮紅する。限界の散漫性なものもあるが、時には皮膚の接觸面にだけ限局して明確な境界を示すこともあつて爲に Eczema の Diagnose を困難ならしむるものもある。
- 又汗疹 *Sudamen* s. *Ecz. sudamina* も起り易い。
- 4) 軀幹の濕疹 頸部、腋窩、乳房下、臍圍、鼠蹊部、陰股部等は濕疹を生じ易い部位である。
- i) 多く授乳婦に見る所の Brustwarze und Warzenhof の Eczema は往々極めて hartnäckig で、暗紅色で濕潤結痂を呈し、或は肥厚浸潤して chronisch となり Rhagaden を生じ易い。
- ii) Brust und Bauchteil に、Haarfollikel に entsprechen して papulös の Eczema が發生し、癢痒殊に激烈で Extremitäten にも蔓延して好んで其 Streckseite を侵すものがある。之を毛囊性又苔癬様濕疹 *Ecz. follicularis* s. *lichenoides* と云ふ。
- 5) 陰部の濕疹 i) 陰囊濕疹 *Ecz. skroti* は少年では潮紅糜爛落屑性のものが多く、大人では chronisch で Hodensack は浮腫肥厚し皺襞粗大になり、甚しきは象皮病狀をなす。
- ii) 陰門濕疹 *Ecz. vulvae* は非常に hartnäckig で然も癢痒の殊

- に激烈なものがある。濕潤性のもの或は肥厚性のものが多い。
- iii) 肛門濕疹 *Ecz. ani* は肥厚浸潤し易く時には浸潤が粘膜にまで及ぶことがある。
- 6) 四肢の濕疹 Ellenbeuge 肘窩, Kniekehle 膝圍が侵され易い。
- i) 癢疹性濕疹 *Ecz. pruriginosum* は好んで Unterschenkel から Oberschenkel に發生し、Prurigo と同じく季節によつて輕重があり、殊に晩秋から初春に亘つて増悪し、雁の去來と一致する故に雁瘡の異名がある。Grenze は頗る scharf で Kniekehle, Ellenbeuge をも侵す濕疹の異型である。
- ii) 疣狀濕疹 *Ecz. verrucosum* は下肢に發し *Ecz. papulosum* から變じて皮膚が著しく肥厚し疣贅狀をなすものを云ふ。
- 7) 手足の濕疹 i) 手掌足趾濕疹 *Eczema palmare et plantare* は指趾の間が汗汁又は湯水の爲に Haut が白く糜爛して、癢痒を起すことがある。指趾間濕疹 *Ecz. interdigitale* 又は指趾間糜爛症 *Erosio interdigitalis* と云ふ。是は sekundär に Trichophyton の感染を起し易い。然し又 Trichophyton が primär に指趾の間を侵し *Trichophytia interdigitalis* をなし eczematös に變ずる事も屢々である。
- Trich. interdigitalis* が更に進んで Fusssohle に ausbreiten し或は Fussrücken に蔓延し落屑、膿疱を作り次で eczematös に變ずれば即ち *Ecz. trichophyllum* である。此際附近に Trichophyton に原因する靴擦れの鱗屑が認められ或は *Trichophytia unguium* 爪甲白癬があり又は他の身體部位に白癬病癩が存する事が多い。
- ii) 職業濕疹 *Gewerbeeczema* とは花火、火藥を取扱ふ職工、染

料工, 寫眞師, 化學者, 醫師等の化學藥品を取扱ふ者に見られるもので, 普通 Ecz. vesiculosum et pustulosum であるが原因の反覆するために慢性になり易い。

- iii) ひびは冬期に見る一種の Ecz. squamosum rhagadiforme で, 寒風に曝露する部位又は水に浸し易い部位に来る。即ち四肢の末梢, 頬, 脛等に鬱血性潮紅浮腫を生じ, 寒風, 冷水の爲に體温の消失, 皮脂の發散を招き, 表皮が乾燥して落屑を生じ癢痒がある。又皮膚が浸潤肥厚して屢々皸裂を生ずる即ちあかぎれである。
- iv) Handteller, Fusssohle, の Eczema が chronisch になると往々表皮が肥厚して tylotisch 胼胝腫状になり Seropapel が其下に發生して時々劇烈な癢痒を起す。即ち胼胝狀濕疹 Ecz. tyloticum で若し Rhagadenbildung が甚だしければ皸裂性濕疹 Ecz. rhagadiforme と云ひ, 此兩者の kombinieren した Ecz. tyloticum rhagadiforme の状態で來る事が多い。

#### 解剖

Ecz. acutum:

- 1) St. papillare: Dilatation der Blut- u. Lymphgefäße, Leucocytinfiltration
- 2) Epidermis: Intrazellularraum が擴大され Lymph が充溢し其間に Leucocyten の遊走を認める。是が更に一層擴大されれば遂に空洞を生じ Bläschen を作る (Ecz. vesiculosum)。Stachelzellenschicht は verdicken し Zellen は anschwellen する (Ecz. papulosum)

Hornschicht は Parakeratose (St. squamosum) を示す。

Ecz. chronicum:

- 1) Cutis の Blut- u. Lymphgefäß が dilatieren するのみでなく, 其周圍に Rundzelleninfiltration があり, Bindegewebszellen も増加す。Infiltration は又 Talgdrüsen, Haarfollikel, Schweißdrüsen の周圍にも及び, 此等の Anhangsorgan は肥大するが後には萎縮消失を來す。
- 2) Epidermis は Acanthose が著しく, 時には Hyperkeratose を伴ひ, Retezapfen は不規則に延長擴大する。従て Papillarschicht も亦延長する結果, 皮膚表面に凹凸を生ずる。

#### 診断

- 1) Polymorphismus
- 2) Nässen
- 3) Unscharfe Begrenzung
- 4) Juckgefühl.
- 5) Beugeseite を侵し易いこと
- 6) 再發し易く又 chronisch に übergehen し易き傾向あること
- 7) Geschwür を作らず従て Narbe を残さぬこと

#### 類症鑑別

- 1) 毒物性皮膚炎 Dermatitis venenata: i) Haut の腫脹, 灼熱極めて猛烈である。ii) Bläschen のみならず Blase をも作る。iii) Grenze は scharf なる事が多い。
- 2) 脂漏性濕疹 Eczema seborrhoicum: scharf begrenzt で頭部より漸次下降する傾向を示す。
- 3) 白癬性濕疹 Eczema trichophytinum: 手甲, 足背, 下腿, 前膊等に發生した時 Eczema と誤り易いが多少明瞭な境界線があり, 乾燥して多くは Ecz. squamosum の狀で nässen する事が稀で



ある。

- 4) 頑癬, 輪廓性濕疹 *Eczema marginatum*: scharf begrenzt で分明に隆起した堤防状の外廓があり, Rötung, Anschwellung, Infiltration も此周縁部に於て著明である。普通の *Eczema* では中心が症状最も旺んであるのに反し, 本症では中心部は却て症状減退するか, 又は ganz gesund である事が異なる。
- 5) 頭部白癬及頭部秕糠疹 *Trichophytia capitis* u. *Pityriasis capitis* 共に乾燥して *Eczema* の如く濕潤せず, 且つ *Eczema* の Abschuppung は diffus で且 Rötung を認める。
- 6) 疥癬 *Skabies* 癢痒激しく, 搔破の爲に屢々濕疹化して *Skabieseczema* を生ずるが, *Skabieseczema* は Papel, Pustel が多く播種状であり, 其他固有の Milbengang (1-mm の黒褐色の細い線) があり, 其頭部に多く丘疹, 水疱又は膿疱を見る。

#### 療法

##### A) 局所療法 *Local: Behandlung*

*Eczema* の *Behandlung* に當つて最も主なるものは, 疾病局所に對する外用薬で Salbe, Pasta の類である。勿論其病理を察し原因の除去に努める事が大切で, 其爲には或は内部の原因に向つて全身療法をも兼ね行ふべきであるけれども, 殊に重きをなすものは外用薬である, 故によく其性状適用法を識り, 症状に應じて之を用ゐなければならぬ。此膏劑中東大土肥教室で行はれた基礎劑を挙げると

- 1) Carbolzinkliniment Dohi
- 2) Zinköl Unna
- 3) Zinkpasta; Vaselinepasta Lassar, Fettpasta Wilson, Lanolinpasta Dohi

- 4) Borzinksalbe
- 5) Teerpasta Dohi, Wilkinsonsche Salbe である。

今其効用と適應症を述べると

- 1) **Linimentum zinci carbolici K. Dohi), Carbolzinkliniment** 皮膚の乾燥した場合にのみ用ふる。即ち潮紅面や乾燥した丘疹を治し, 又癢痒を止める効が多く, 爲に濕疹の紅斑期と落屑期に適應する。  
本劑は乾燥した皮膚面に固着して之を覆ふ性質があり又水に溶けるから, 濕潤面若しくは多少浸出性傾向のある丘疹等には用ゐないがよい。Ausschlag が治し Jucken のみの残つた場合には妙である。又 Pasta を塗布し Pulver を撒布した上に用ゐて Verband の代用たらしめることも出来る。即濕疹の極初期又は治癒期に用ひる。
- 2) **Oleum zinci Unna, Zinköl** 本劑は刺戟の最も少い藥劑で, 硬度も極めて軟かで油に近いから, 最も急性で炎症の著しい場合に適する。*Eczema* に於ては *Ec. erythematovesiculosum, vesiculosum, madidans* に用ふると Rötung u. Anschwellung が速に減退する。Haut の Erosion が著しく, Seröse Flüssigkeit の滲出が甚だしい時, 或は炎症性腫脹の猛烈な時は, 本劑を塗布した上から間接に Umschlag (2% Borwasser) を施すと Exsudat を resorbieren して早く local を乾燥させ, 又 entzündliche Anschwellung は速に吸収される。即 *Ec. acutum* の最も旺盛期に用ゐるのである。
- 3) **Vaselinepasta Lassar, Fettpasta Wilson** *Stad. erythematosum, St. vesiculosum, St. papulosum, St. erythematosquamom-*

sum に適し最も應用の廣い藥劑である。

4) **Lanolinpasta Dohi** Lanolinpasta Dohi は subacut od. chronisch の Eczema で Rötung は已に去つた際に用ひて能く丘疹, 痒癢を治す。即 St. papulosum, St. squamosum に最も適する。但し Lanolinpasta は Vaselinepasta, Fettpasta より固く, 強く厚く患部に粘著する性質があるから, St. vesiculosum, Ecz. rubrum et madidans の如く滲出性の傾向強く, 或は Bläschen を形成し或は Erosion を呈する時期等には却て local を reizen する虞があつて使用に適しない。然し又固着して軽い壓迫を與へるので, 細胞浸潤や表皮の肥厚を伴ふ彼の乾燥した丘疹で, 而も散發する特殊の丘疹性濕疹には最も効果がある。

5) **Borzinksalbe** Lint に展ばして濕潤, 糜爛, 結痂面に貼用する。但し漿液又は Eiter の滲出最も旺んな場合に適しない。軟膏が分泌液を吸収し盡さねば軟膏と糜爛乃至肉芽面との間に分泌液の滯溜を來すからである。此の場合には寧ろ (2) を適用すべきである。

以上述べた基礎劑は此まゝ用ふるか, 或は更に鎮痒, 消炎, 防腐, 還元等の目的に諸種の藥劑を加へて使用する。即ち Tumenol, Pityrol, Neopityrol, Glyteer, Novoteer, Thigenol, Thionol, Ichthyol, Sulfo-genol, Lignol, Dermatol, Xeroform, Anaesthesin, Orthoform, Jodoform etc.

9) **Teerpasta Dohi, Wilkinson'sche Salbe** Ecz. chronicum に用ひて其浸潤を吸収せしむるために用ふる。

此内 Teerpasta は最も人口に膾炙してゐるために, 皮膚病の治療藥として之を唯一の良藥と誤信し, Ecz. acutum に濫用して徒に

症状の悪化を招き, 或は Dermatitis を併發せしめる輩が甚だ多いのは大に注意すべきである。初學者は決して之を急性濕疹に使用してはならない。

#### Symptome Stadium) による外用膏劑の使用法

##### 1) St. erythematosum

###### i) Pulver

Rp. 1)	Zinc. oxyd.	亞鉛華	} aa
	Amyl.	澱粉	
2)	Zinc. oxyd.	亞鉛華	} aa
	Amyl.	澱粉	
	Talc. vene.	滑石末	
3)	Zinc. oxyd.	亞鉛華	25.0
	Amyl.	澱粉	20.0
	Talc. vene.	滑石末	5.0
	Pulver radix Rhizoma	菖蒲根末	0.5

以上の Pulver に鎮痒劑として Bromokol, 止汗劑として Tannoform, 防腐劑として Eugform, Dermatol, Xeroform 等の粉末劑を 5-10% の割合に混じて用ふる。

ii) Carbolzinkliniment Jucken が尙激しき時に用ふる。Carbol に empfindlich の者には次の處方のものを本劑の代用として用ふる。

Rp. 3%	硼酸水	100.0
	布苔	5.0
	亞鉛華	10.0
	グリセリン	3.0

iii) Zinköl Unna Entzündung が hochgradig で, Rötung と共に Oedem があり, 又は多少 exsudativ の傾向がある時には Liniment は乾燥の際に却て Haut の Spannung を増加し且つ水に溶解するが故に不適當である。

斯る際には Zinköl を用ひ, Entzündung が激烈ならばその上から更に 2% Borwasser で Umschlag を行ふが可い。Umschlag は決して直接に患部に施してはならぬ。一般に Eczema は濕濡せしめる事は Kontraindikation である。

## 2) St. erythematovesiculosum

i) Lassar'sche Vaselinepasta, Wilson'sche Fettpasta 兩者就れかを塗布し Pulver を撒布し Verband を施す。

ii) Zinköl mit Umschlag Entzündung 高度なる時必要とする事がある。

## 3) St. papulosum

i) Vaselinepasta Lassar, Fettpasta Wilson Papel の性質が acut で Rötung が強く, 滲出性の傾向を帯びた時本劑を用ひ, Rötung が去り輕快した後 Lanolinpasta に移るを得策とす。

ii) Carbolzinkliniment 初めから St. erythematousum なしに trochene Papeln が散發した時に本劑を用ひ, 症狀の減退を待つて徐に Lassar'sche Pasta, Wilson'sche Pasta を用ひて Verband を施す。Exsudat のある時には不可なるは勿論である。

iii) Lanolinpasta subacut の場合で, 矢張り Papel が trocken で滲出濕潤の傾向なく, 而も浸潤を伴つて稍硬いものには初めから Lanolinpasta が適當する。Lanolinpasta は Vaselinepasta, Fettpasta に比し, 固くよく粘着する性質があるからである。其上

に pudern し更に Liniment を塗擦して Verband を省略することも出来る。

diffus の Rötung を伴ふ papulöse Eczema には不適當で此際には (i) の處置を行ふ。

## 4) St. pustulosum, madidans et krustosum

i) 10% Borsalbe od. Borzinksalbe 此時期に Pulver を用ふると, 膿漿と膠着して人工的に Kruste を作り, 已に化膿菌の感染を受けた分泌液が其下に瀦溜して附近の Lymphdrüsenanschwellung を來し, 發熱を來し又幼兒の頭部に於ては Meningitis を誘發する事さへある。

Kruste は成るべく早く除去し, Erosionsfläche は直ちに被覆して Epidermisierung を促さなければならぬ。即此の目的に最も適當するものは Salbe である。

本劑を部厚に布片に展ばして患部に貼用すると, 厚い Kruste は軟化して一, 二日で離脱し, 其下の Erosionsfläche は能く日光, 風塵の如き外界の Reiz より保護され, 容易に Epidermisierung を營む。

但し Entzündung が著しく Kruste の下より膿漿の分泌甚だ旺んな時には Salbe も之を吸収し得ず, 却て Salbe と Erosionsfläche との間に膿漿の瀦溜を招くことがあるから, 此際は Zinköl と Umschlag を暫く用ひ, Entzündung 去り分泌の減するを待つて Salbe を用ふべきである。

## 5) St. erythematosquamosum

i) Zinckpasta od. Liniment

ii) Lanolinpasta Abschuppung があり多少 Haut に Infil-

ration がある場合

- 6) **Eczema chronicum** Infiltration を去るために Teerpasta, Wilkinson 氏膏, Chrysalobintraumaticin を用ふ。尙浸潤を除くには Röntgen 治療が最も有効である。

		基 礎 膏						特 殊 膏	
		Lini-ment	Zinköl	Vaseli-npasia	Fett-pasta	Lanol-inpask	B.Z.S.	Teer-pasta	Wilkin-son
急	單純潮紅	+							
	潮紅浮腫		++	+	+				
	潮紅小水疱		+	++	++				
	播種狀丘疹	+				+			
	集簇性丘疹					++			
	膿疱糜爛						++		
性	膿疱結厚						++		
	潮紅落屑	++		++	+	+			
慢	落屑浸潤					+		+	
	落屑肥厚							+	+

備考 表中の++は當該膏劑の最も適應せる症期を, +は較々適應せる症期を示す

部位による膏劑の使用法

1) **Eczema capitis**

- i) St. erythematosquamosum  
 a) 10% Tumenol - Glyteer - Pityrolwilson  
 b) Glyteerpasta Unna.

Rp. Sulf. Sublim.            硫 黄 華            4.0  
 Zinc. oxyd.                亞 鉛 華            6.0

Talc. vene.                滑 石 末            2.0  
 Adeps Suill.              豚 脂                28.0  
 Glyteer                    グリテール            2.0

c) 弱 Glyteerpasta

Rp. Sulf. sublim.           硫 黄 華            2.0  
 Zinc. oxyd.                亞 鉛 華            3.0  
 Talc. vene.                滑 石 末            1.0  
 Adeps Suill.              豚 脂                15.0  
 Glyteer                    グリテール            1.0  
 Vaseline                  ワゼリン             15.0

(b) (c) は Erwachsene ならば可なり nassen した場合にもよく之を乾燥せしめて有効であるが, 小兒に於ては注意して使用せねばならぬ。即小兒の頭部濕疹は好んで impetiginös になり Kruste を作り其下に多量の Eiter を藏し Erosionsfläche を呈する。此時は Zinköl の如き出来るだけ mild な Behandlung を行ふべきで餘り早期に Glyteerpasta を用ふると害がある。

- ii) Ecz. krustosum    10% Glyteer- Pityrol- Tumenol- Salbe  
 iii) 白髪染めかぶれ等    5% Glyteer- Tumenol- Zinköl mit Borwasserumschlag

iv) Ecz. chronicum    Teerpasta

2) **Eczema faciei**

- i) St. erythematosum et papulosum  
 a) Lassar'sche Pasta, Wilson'sche Pasta に Pityrol, Glyteer, Tumenol を 10% に加へて用ふ。  
 b) 小兒にては Pityrolwilson, Glyteerwilson, Lanolinpasta,

Pityrollanolinpasta が効あるものゝ如く、殊に前二者を Lint に展べて用ふるがよい。小児では此際必ず繙帯を施さなくてはならぬ。

## ii) Ecz. krustosum et madidans

a) Borzinksalbe

b) 1% Piocetanin: 眼瞼, 口圍, 口唇, 耳殻等の濕潤せるものは容易に乾燥せず, 又膏劑も容易に剝脱してふから, 早く乾燥せしめるために之を用ひる。

c) 1% Mercurochlom, 5% Tripaflavin-Borzinksalbe は impetiginös のものに用ふ。

## 3) Eczema am Hals u. Rumpf

i) Ecz. mammae 急性期には Pityrol-od. Glyteersalbe を用ひ漸次 Zincpasta に移行する。

慢性期には Teerpasta を用ひ紫外線療法を兼用する。

ii) Ecz. intertriginosum erosieren し易き故 Zinköl を塗布し Epidermisierung を待つて Zincpasta に移る。

iii) Eczema sudamina, Sudamen leichtes Grad のものには Zinc- Amylum の撒布, 又は 20% Thionolcalcium を加へた滑石末がよく又は硼酸を加へてもよい。

Rp. Thionolcalcium	10.0	} 汗疹に撒布す
Zinc. oxyd.	20.0	
Amyl.	10.0	
Talc. venet.	10.0	

## 4) Eczema der äusseren Genitalien und Anus

絶えず nassen, reiben され易い部位で Behandlung が困難であ

る。通常の濕疹治療方針に従ふ可きは勿論であるが尙

i) Skrotum には Teerpasta が比較的よく Reizsymptome を呈せず用ひられる。勿論 subacut より chronisch の場合である。

ii) Wilkinson 氏膏又は 10% Pyrogalloltraumaticin が皮膚肥厚のある際に用ひられる。

iii) Saliaylsänre- Alkohol を用ふるは絶対に不可である。

Ecz. skroti は俗間には“いんきん田虫,” と稱へて此附近に屢々見る淺在性白癬の一種である所の Eczema marginatum 頑癬と混同される。此頑癬に用ふ可き Salicylsäure- Alkohol を Eczema に用ゐると激烈な Dermatitis を發生して Skrotum は auffallend に腫脹發赤し, 或は全部 erosieren し苦痛甚だしき事がある。市場にある“陰きん田虫,” の藥は多く Salicylsäure- Alkohol 又は稀釋沃度丁幾の類で, 孰れも白癬の治療劑であるから, 之を陰部濕疹に用ふれば必ず症状の悪化を招く。

斯の如く症状悪化した場合には Zinköl を塗布し其上より濕布を施し, 炎症の消褪するを待つて始めて Eczema の Behandlung に移る。

iv) Glyteerpasta は Mons pubis, の Eczema に用ふ。chronisch になれば (ii) を適用する。又弱 Teerpasta を用ふる事もある。

Rp.	木タール	5.0
	豚脂	25.0
	硫黄華	10.0
	亞鉛華	10.0

## 5) Eczema tyroticum et. tyroticum rhagadiforme der Extremitäten, besonders Handteller od. Fusssohle

- i) 普通の膏劑 (Wilson'sche Pasta, Lassars'sche Pasta, Lanolin-pasta, Teerpasta) を用ふ。
- ii) (i)で効果がなければ Hebra氏膏又は Pick氏膏を用ふ。
- iii) Hebra氏膏と Wilkinson氏膏を等分にしたものも効がある。
- iv) 頑症には Röntgen を用ひなければならない。

#### B) Eczema の物理的療法 Physikalische Behandlung

- 1) Röntgen und Radium: 頑症で浸潤肥厚の著しいものは之によつて能く之を除く事が出来る。故に慢性濕疹の治療には最も必要である。
- 2) Ultraviolettstrahlen (Künstliche Höhensonne, Quarzlampe): Jucken を去り、局部組織の生活力を増大して、濕疹の治療を促す。
- 3) 浴治療法又は電光浴: 慢性症又は後療法に用ひ、血行を旺んにして、浸潤の吸収を促し、或は皮膚の荒蕪したのを治するに効がある。

#### C) 全身療法 Allgemeine Behandlung

- 1) Organismswaschung Bruck: Eczema acutum universalis に適用されるもので、其方法は 0.85% NaCl wasser 300—500 c.c. を、intravenös に注射する方法で毎日又は隔日に行ふ。之を行ふと Rötung, Oedem は速に減退し癢痒は減退し経過を短縮し chronisch に移行するのを防ぐ事が出来る。
- 2) Arsenpraeparat: Eczema chronicum に用ふ。Arsenpraeparat は Haut の Lebenskraft を旺んにし、皮膚の Allergie 性過敏症を除くに妙である。故に濕疹の再發して止まぬ時、滲出性體質で濕疹の治癒し難い場合等に用ひて卓効を奏する。

- i) 1% Na-arsen. 又は Solarison を隔日に  $\frac{1}{2}$ —1c.c. Subcutan に注射す。

- ii) 法列兒水(亞砒酸カリウム)又は亞細亞丸。

Rp. 法列兒水	5.0
桂皮水	10.0
メント水	10.0

毎食後一滴宛(小兒)又は五滴(大人)白湯に和して服用、漸次増量小兒は一回五滴大人は十五滴に至る。

Rp. 亞砒酸	0.05
黒椒末	5.0
アラビヤゴム	1.0
溜水	適宜

上爲亞細亞丸百粒

大人毎食後一丸内服三日目又は四日目に一日につき一丸宛増量し一日十五乃至三十丸に至る。

- 3) Abführmittel: ラキサトール、カルルス泉鹽、硫酸マグネシウムの如き緩下劑、又は醋剝水の如き利尿劑を處方する。緩下劑は Eczema acutum に、利尿劑は Eczema chronicum に、其原因たる體質的及機能的障礙を驅除する目的のため用ひらる。
- 4) 飲食物の注意: Haut に Hyperaemie を來すもの、又は Jucken を増進するものは禁ずる。酒類、辛酸味、鹽物、膏膩の肉類、特重の魚類(蝦、蟹)小兒では乳汁、卵に注意する。
- 5) 入浴は一般に禁忌である: 入浴は血行を旺盛にし、病毒を蔓延させる傾向があり、又癢痒を増激するから急性濕疹には禁忌である。併し Eczema chronicum には糠浴、Lysol 浴、カミツレ浴

乾葉浴が有効な事がある。よく注意して Indikation を定めるを要す。

- 6) Nachbehandlung 紫外線と酸素とに富む高山の温泉が宜い。普通は鹽泉又は鐵泉を可とし、硫黄泉は慢性丘疹性濕疹には適するが濫に推賞出来ない。

## II 脂漏性濕疹 Eczema seborrhoicum Unna

**定義** 慢性の juckende Hautkrankheit で、多く behaarter Kopfteil に始まつて漸次下行する傾向があり、限界の明劃な大小の落屑痂皮面を作るものである。

- 症候** 1) 多く behaarter Kopfteil に circumscripht の潮紅落屑面として始まる。  
 2) Schuppen は初めは帶黄灰白色で枇糠様であるが後には黄褐色の痂皮を作る。共に著しく脂軟性である。  
 3) 病竈は常に scharf begrenzt である。  
 4) parietalgegend から occipitalgegend に著しく、漸次擴大融合して遂には全頭部に蔓延するに至る。  
 5) Jucken は輕微であるが時に激烈なる事もある。  
 6) 患部が黄褐色の痂皮を生じて、其下は膿痂疹の如く濕潤しない。  
 7) 時に毛髪が多少稀疎になることがある。

**部位** 1) behaarter Kopfteil に始まり、漸次下降する性質を有し、殊に硬毛部の皮脂漏のある部を好んで侵す。

- 2) Achselhöhle, Nabelgrübe, Mons pubis は其好んで侵す部位で

あるが Bauch, Brust にも來る。

- 3) 毳毛部は治し易く硬毛部は残り易い。  
 4) Brust, Rücken では scharf begrenzt の斑紋で、小點狀から錢大手掌大に及び、又は融合して花瓣狀、連環狀をなす。邊緣は rosa rot で稍々隆起し、中心は却て陷凹し、脂黄色の鱗屑を被る (Ecz. seborrhoicum psoriasiforme) 或は全面 rosa rot で枇糠様の落屑を帶ぶることもある (Ecz. seborrh, pityriasiforme)  
 5) Achselhöhle, Nabelgrübe の如き汗脂の分泌旺盛なる部位では數々濕潤結痂し、濃厚の著色を呈し Ecz. crustosum の狀を呈す。  
 6) 稀に Brust, Rücken, Achselhöhle, Nabelgrübe, Gelenkbeuge から原發することがある。

**原因** 一種の寄生性疾患ならんと考へられるが、未だ明かでない。

### 類症鑑別

- 1) Eczema: Ecz. crustosum に類する事があるが Eczema では境界明劃を缺き、徐々に健康部に移行する。  
 又 Ecz. seborrhoicum の Schuppen は總て fettig で、指間に摩擦すると Fett の如き感がする。且つ頭部から漸次下行する傾向があり濕疹では之を缺く。  
 2) 乾癬 Psoriasis vulgaris: Schuppen は乾燥して silberweiss で剝離し易く之を剝離すれば punktförmig の Blutung があり部位も肘、膝蓋に多く決して濕潤しない。  
 Brust, Rücken に稀に見られる Ecz. seborrhoicum psoriasiforme と Psoriasis vulgaris の輕症のものが似る事があるが前者では決して punktförmige Blutung は見られない。

- 3) 薔薇色秕糠疹 *Pityriasis rosea* Gibert: *Ecz. seborrhoicum pityriasiforme* と類似するが多く *Rumpf u. Extremitäten* に始まり、経過が急速で一二週間内に蔓延し決して濕潤の傾向がない。
- 4) 小水疱性斑状白癬 *Trichophytia maculovesiculosa*: 多く *Rumpf und Extremitäten* に來り中心は殆ど治癒し輪廓の浸潤は更に著明で中に *Bläschen* を認める。且つその鱗屑中より容易に *Trichophyton* を證明する。
- 療法 1) *Teerpasta*: 殆ど *Spezificum*である
- 2) *Schwefelsalbe*: 硫黄が主として作用する。頭部の結痂面に用ふ。
- 3) *Schwefelvaselin*: 潮紅減退し軽度の落屑ある際に用ふ。
- 4) *Glyteerunna*: 小兒に用ひて効果がある。
- 5) *Ultravioletstrahlen* を併用すると *Verlauf* を短縮せしめる。

### III 毒物性皮膚炎 *Dermatitis venenata s. toxica*

**定義** 刺激性又は腐蝕性の物質が *Haut* の一部に作用した爲に起る皮膚の急性炎症である。

- 症状** 1) 其 *Symptome* の強弱は毒物の種類、性質、作用した時間、作用した方法及び之に對する皮膚素因の有無により異なる。
- 2) 軽度のものは一時的の *Rötung* に止まり、又は單に *Folliculitis* を起すに止まるが、時には皮膚に高度の *Rötung*, *Oedem*, *Anschwellung* を來し、灼熱、癢痒、疼痛を伴ひ、或は *Bläschen*, *Blase* 時には廣面の大水疱、*Erosion* を招く事がある。
- 3) 多くは毒物の作用した部位だけに限局するが、或は瀰漫性に周

圍に擴大し、時に反射的に遠隔の部位に發生する

- 4) 此等の症状甚だしきものと雖も原因が除去されれば速に治癒するのが常であるが、又慢性症に移行して *Eczema* に變ずるものも多い。

**原因** 最も多く見られるものは漆によるもの、白髪染めによるもの、*Teerpasta* によるもの、*Salicylsäure Alkohol* に因るものであるが其他毒草、假漆、昇汞、*Jodoform* *Jodotink*, *NaOH*、昆蟲毒に因るもの等も屢々見られる。

**漆瘡、漆性皮膚炎 *Lacdermatitis*** 漆樹、生漆、又は漆器に接近又は接觸するとき、特異質を有するものに發生する *acute Dermatitis* で俗に“うるしかぶれ、”と稱する。

*Symptome* は多く數時間又は數日の潜伏期があつて後 *Haut* に灼熱と劇痒があつて、局部が潮紅腫脹し、其中に丘疹小水疱甚だしい時は大水疱、膿疱を作り糜爛する。二三日で病頂に達し、後炎症減退し落屑して治するが、時には漆に接した部位以外の遠隔の部位にも潮紅丘疹を發し、或は全身遠和輕熱を發することがあり、顔面では一體の浮腫を來し、眼瞼腫脹して閉塞する事がある。

*Gesicht*, *Hals*, *Handrücken* 等露出部が好發部位である。

**白髪染めに因る *Deramtitis*** 一二日乃至數日の潜伏期の後、初めは *Haarfollikel* と *Poris sudoriferus* 汗孔に一致して小丘疹を發生し、速に進行して *diffus* の *Rötung und Anschwellung* を來し、*Bläschen*, *Blase*, *Pustel* を生じ或は破れて多量の漿液を洩し厚き *Kruste* を作る。自覺的には劇烈な癢痒がある。

初めは頭部殊に髮際部に限られるが、漸次額、頸部に蔓延し重症では上半身又は全身に擴がり *Nephritis* を *kombinieren* し易い。



**類症鑑別**

1) Eczema acutum: Dermatitis venenata と等しく皮膚上層の炎症であるが, klinisch には Dermatitis よりも Rötung und Oedem が軽く, Dermatitis に見る如き Blase を形成しない。Grenze も明割でなく而も Verlauf は却て緩慢であり, Jucken は激烈で症状は多種多様に變化し易い。

但し Dermatitis venenata が chronisch に移行すれば Eczema に變化するのである。

**療法** 1) 原因の除去

2) Zinköl の塗布と其上に鉛糖水, 硼酸水の冷巻法

3) Lacermatitis の治療及豫防には弱アルカリ液(1%炭酸加里水, 2% 重曹水, 稀釋アンモニア水) の濕布又は塗布。

4) 「白髪染かぶれ」の癢痒激烈な際には Zinköl, Glyteerpasta に數滴の Öl menthae (薄荷油)を加へて塗布するのが最も宜い。

5) 症状輕快したならば Zinkpasta に移る。

## 第五章 滲出性並に中毒性疾患

### Exsudative und toxische Hautkrankheiten

炎症性浮腫を伴つた限局性充血を exsudative Erythema 滲出性紅斑と稱し, 之に屬する疾患は症候多型で變化し易く, 且つ常に漿液滲出の傾向を有するものである。

#### I 多形滲出性紅斑 Erythema exsudativum multiforme

**定義** 滲出性の紅斑, 丘疹及水疱を發生し固有の部位と経過とを有し多く全身症状を伴ひ且つ一定の時期に流行性に來る急性皮膚疾患である。

**症候** 1) Prodrom Ausschlag の生ずる 2-3 日前より發熱, (38°C 時に 40°C まで) Kopfschmerz, Mattigkeit, Appetitlosigkeit, Coniunktivitis, Angina etc. を來す

2) Ausschlag i) 次で手背, 足甲から前膊, 下腿の伸側に, symmetrisch に針頭大から linsengross の圓形鮮紅色の紅斑 (Erythema maculosum) 或は硬い Knötchen (Eryth. papulosum) を生じ Hautniveau から erhaben する。

ii) Erythema annulare (i)が漸次増大して銀貨大になると周縁は猶鮮紅色を呈するが, 中央は陷沒して braulich となる。

iii) 中心は退行するが周圍には益々蔓延して手掌大以上に達することがあり, 形も圓形より變じて連環狀 (Eryth. circinatum) となり蛇行性 (Eryth. serpiginosum) となり, 或は中心に新丘疹を再發して虹彩狀 (Eryth. iris) となる。

- iv) 更に紅斑内に於ける漿液滲出の程度に従ひ小水疱, 水疱を發生して Eryth. vesiculosum et bullosum をなし, 或は中心と周縁とに水疱を形成して Herpes iris 虹彩狀疱疹をなす。
- v) Ausschlag の Rand は概ね著明の肥厚があり, 色は鮮紅色で陳舊なもの、中心部或は四肢の末端部に於けるものは蒼紅色で且つ壓迫すると多少黄褐色の色彩を残す。
- vi) 時に Gesicht, Rumpf のみ又は Handteller, Fusssohle のみに現はれ, 又 Schleimhaut に發疹する事もある。
- 3) 殆ど常に Gelenk の Schmerz und Anschwellung を伴ひ, 又 Albuminurie を來す事もある。
- 4) Verlauf は 2-3 Woche で Prognose は常に可良である。
- 5) 本症は好んで 20Lj. 前後の青年男女を侵し春秋二季に多い。
- 診 断** 1) symmetrisch に手甲, 足背に多きこと。
- 2) 紅斑の中心は蒼紅色になり Rand 鮮紅色を呈すること。
- 3) 丘疹 水疱, 關節痛を伴ふこと。
- 4) 急性の経過と全身症状

**類症鑑別**

- 1) 濕疹 Eczema: nässen し Jucken 強く, Bläschen に止まり Blase となる事なし。
- 2) 丘疹性又斑狀梅毒 Syphilis maculosa et papulosa: Ausschlag の色は kupperrot で主として Beugeseite に現る。
- 3) 蕁麻疹 Urticaria: 出沒迅速
- 4) 白癬 Trichophytie: Schuppen に富み癢痒が甚だしい。
- 5) デューリング氏疱疹狀皮膚炎 Dermatitis herpetiformis Dühring: 水疱遙に大きく膨滿し経過も緩慢。

- 6) 結節性紅斑 Erythema nodosum: 主として 1 腿に來り壓痛あり水疱を作らず。

**療 法** 1) 撒曹, Salol, Aspirin etc. を内服させ

2) Entzündung 著明なるときは Zinköl mit 2% Borwasserumschlag を行ふ。

3) Blase 破潰して Erosionsfläche を現はすときは Borzinksalbe, 口粘膜の侵されたのには 2% 過酸化水素水, 2% 鹽剝水, 1 萬倍過マンガン酸加里水等で含嗽させる。

**II 結節性紅斑 Erythema nodosum**

**定 義** Allgemeine Symptome を前驅として, Unterschenkel に subcutane Knoten を生じ, Oberfläche は潮紅する。Verlauf は acut 又は subacut で, 通常 Gelenk の Anschwellung u. Schmerz を伴ふ疾患である。

**症 状** 1) Prodrom として數日間 Fiebersteigerung (38 c—40 c) allgemeine Symptome, Gelenkschmerz mit Anschwellung がある。

2) Exanthem i) Unterschenkel の Streckseite に始まり, 其眞皮内に erbsen-bis taubeneigross, 時に hühnereigross に達する硬い Knoten を生ず。且つ此の Knoten は決して融合しない。

ii) Knoten の表面の皮膚は半球狀に隆起し, 緊張し境界は明劃を缺く。

iii) 其色は初め鮮紅色又は桃紅色であるが, 後に暗紅色, 帶青紅色, 綠黄色となり, 遂に消失す。斯の如く色の變化が出血斑と同様であるので, 此疾患を一名 打撲紅斑 Erythema contusi-

forme と云ふ。

v) Knoten は 1—2 Woche で吸収され、決して化膿せず又潰瘍となる事はない。

3) Komplikation: Arthritis, Pleuritis, Pneumonie, Pericarditis, Albuminurie

時に Fieber を伴つて發疹反覆出現し、月餘に亘ることがある。

部位 1) 下腿脛骨前面が最好發部位である。

2) Kniegelenk の周圍, Oberschenkel, Vorderarm, Oberarm に及ぶ事もある。

3) Rumpf, Gesicht には發しない。

診斷 1) 左右下腿に好發する半球状の皮下結節。

2) 著色の變化及び膿潰しない事。

3) Gelenkschmerz 及び allgemeine Symptome を伴ふこと。

類症鑑別 1) バサン氏硬結性紅斑 Erythema induratum Bazin:

腺病質のものに來り屢々潰瘍を作り経過慢性である。

2) 結節性結核性靜脈炎 Phlebitis tuberculosa nodosa: 形細長く Hautvenen と一致し炎症症狀然く著明でなく経過慢性である。

3) 微毒性護膜腫 Gumma: 初め Haut に變化なく後 Haut と verwachsen し潰瘍廢痕を作り経過慢性である。

4) 多形滲出性紅斑 Erythema exsudativum multiforme: 多形の exsudative Ausschlag を見、手背、足甲に多く皮疹相互に融合する

治療 1) 患部を高舉すること。

2) Thionol, Ichthyol 塗布又は濕布。

3) 内服に撒曹, Aspirin, Chinin 等。

4) 注射に Trypaflavin, Israviv 2-3% CaCl<sub>2</sub> etc.

### III 血管神經性環狀紅斑 Erythema

annulare angioneuroticum

環状をなした紅斑で宛も Urticaria の如く忽ち發生し又忽ち消失するものである。環線の太さは 1-2 乃至數耗で色は淡紅色又は鮮紅色である。環線の大きさは針頭大から手掌大にも達するが貨幣大のものが最も多い。

### III 遠心性環狀紅斑 Erythema annulare

centrifugum Darier

小貨幣大より手掌大以上に及ぶ輪狀紅斑で、初めは紅斑又は丘疹を生じ遠心性に擴大し同時に中央は陷凹して著色なきか又は蒼紅色乃至褐色になる。邊緣は數耗の炎症性暈輪を有する鮮紅色の隆起をなし圓輪又は花環状をなす。

### V 中毒疹 Toxicodermie

Toxicodermie とは特殊の體質を有する者に於て、或特殊の物質が體內から(血管、胃腸から)或は外部から(内服、吸入、注射、外用)作用する爲に發生する Haut の變化を謂ふのである。

此現象の生ずるのは一つの Allergische Erscheinung に屬する、即ち一の Antigen-Antikörperreaktion に他ならない。此處に謂ふ Allergie とは廣義の意味で、彼の Anaphylaxie と Idiosynklasie とを總括したものである。

故に中毒を生ずる物質は、Anaphylaxie に於ける Antigen の如く hochmolecul の Kolloide 即凡て Eiweiss (一二の例外を除いて)たるを要しないので、Anaphylaxie 説に於て nichtantigene と考へられる Eiweiss 以外の chemisch genau definierte Substanzen、即 Aspirin、

Morphin, Trypaflavin, 染毛剤 の如き物質も亦充分に中毒疹の原因たり得るのであり、更に検索すれば、体内に於て行はれる新陳代謝の病的産物や、疾病（内臓や皮膚の）部位に於て産出される異常物質も、局部に於て或は一旦吸収されて、中毒疹の原因となり得るのである。

又斯る物質が中毒疹を惹起するにも、Anaphylaxie の如く Antigen が非経口的に体内に入った時のみに発生すると限らず、Verdauungsorgan を通じても立派に発生するのである。

今 Toxicodermie の一般性状に就て記載すると

- 1) Toxicodermie の発生には Antigen の量が関係する、即或場合には大量を用ゐて始めて之を生じ、或時は極微量によつても発生する、即過敏症に程度の差異が存する。
- 2) Toxicodermie の発生が、其中毒性物質即ち Antigen の化学的構造によつて支配される場合と、支配されぬ場合とある。即 relative Idiosynklasie と absolute Idiosynklasie である。
- 3) Toxicodermie の発生に對する Allergie は、遺傳的に angeboren に存在することもあり、又 erworben にも発生する。又其性質は變動するもので或は一時的であり、或は永久に持続する、是 Allergie が Anaphylaxie と異なる點である。
- 4) Toxicodermie の発生には、Antigen の作用方法が関係することあり、又無關係の事もある。
- 5) 中毒性 Allergie には monovalent と polyvalent とあり、又相互に變化し得るものである。
- 6) 中毒症には Locale Allergie 即 (fixe Exanthem をなす) と、Locale Immunität とが存在する。
- 7) Toxicodermie の Antikörper は、或は一定の細胞群に固定され、

或は又血中に存在する。

- 8) Toxicodermie の性状は、一般に部位、疹形に一定の法則がなく、極めて多種多様で、且つ不規則なのが常である。即紅斑あり、蕁麻疹あり、紫斑、水疱、膿疱、皮膚肥厚、角質増殖、色素増殖等各種の變化があり、紅斑にも限局性のもの瀰漫性猩紅熱様、麻疹様紅斑があり、同一原因による場合にも症状は一定しないのである。

#### A] 自家中毒疹 Autotoxische Exantheme

症 状 極めて多種多様で一定しない、頑固な癢痒、潮紅、Urticaria、濕疹狀變化、紫斑、化膿、壞疽等、時に Erythema exsudativum multiforme に類するもの、或は Herpes zoster に似たるものがある。

Stoffwechselstörung に因る Toxicodermie

- 1) Dermatitis dysmenorrhoea : Menstruationsstörung
- 2) Herpes gestationis, Impetigo herpetiformis : Schwangerschaft
- 3) Urticaria, Lichen urticatus : Magendarmstörung etc
- 4) Leber, Niere の疾患 Fettsucht, Gicht, Diabetes mellitus

全身病に因る中毒疹

- 1) Typhus abdominalis, Cholera, Typhus exantematica, Masern, Rubeola, Scharlach, Pocken, 恙虫病,
- 2) Arthritis rheumatica acuta, Rheumatismus gonorrhoeica

化膿性疾患に因る中毒疹

- 1) Angina, Diphtherie
- 2) Cholecystitis, Leberabscess

## B] 滲出性中毒疹 Toxische exsudative Exantheme

### 1) 血清疹 Serumexanthem

血清注射に因つて起るもので注射の翌日に最も多く、時に2-3日後又は8-12日後に起ることもある。屢々熱發、Muskelschmerz, Gelenkschmerz, LymphdrüsenのAnschwellung, Albuminurie, Erbrechen, Diarrhoe, Respirationsstörung, Schlafsucht等を伴ふ即ちSerumkrankheitである。

ExanthemはErythem, Urticaria, scarlatiniforme Exanthem, morbilliforme Exanthem等種々で、一部に限局する事もあり、全身に汎發する事もある。背部、臀部、腹部等に来り、或は頸、項、上下肢の屈側に好發する、概ね2-3日から10日で治する。

### 2) 牛痘疹 Postvaccinale Exanthem

接種後直ちに或は2-3日でRumpf, Extremitätenに大小種々のErythema, Urticaria, exsudative Erythemを來すことがある。大概2-3日で吸收される、之を牛痘性蕃藪疹 Roseola vaccinicaと呼ぶ。汎發性牛痘疹 Vaccina generalisataと稱するは接種後第8日乃至14日にrote Knötchen, vesiculöse Exanthemが汎發するもので、高熱と全身症状を伴ひ結節、水疱は膿疱に化し乾燥して痂皮を作り其状全く種痘疹に酷似することがある。多く2-3日で乾燥し枇糠状落屑を呈して治癒する。注意すべきは他に皮膚疾患のある際に種痘を行ふ時此部位に牛痘疹の發生することがあり、或は患兒が種痘疹を搔破する爲に種痘疹より漏出する膿漿を附近の皮膚面又は濕疹其他の糜爛面等に接種して其局部が種痘疹同様の

變化を呈して大膿疱を形成し或は大癬痕を形成することがある。

### 3) ツベルクリン疹 Tuberculineexanthem

紅斑状丘疹、丘疹状、猩紅熱様、麻疹様、水疱様又は蕁麻疹様發疹を對側的に發生す。

## VI 藥疹 Arzneiexanthem

**定義** 或る藥品の内服、注射又は外用によつて現る一種の中毒疹である。

藥疹は中毒疹に他ならぬ、從て前章に述べた中毒疹の性質は凡て藥疹にも該當するのである。通常藥疹は使用後數分にして現はれるのが常で長くも數時間を出でない、而も藥用を中止すれば發疹は自然に消褪する。今藥疹中最も屢々遭遇するものに就てのみ記述すると

### 1) アンチピリン疹 Antipyrin-exanthem

i) 紅斑 最も多く形は圓形又は楕圓形で、大きさは銅貨大から手掌大以上に及ぶ、色は鮮紅色（又は黒褐色）で少しく皮膚面から隆起する。

藥用を絶つと潮紅は數日で消褪し、或は其跡に一時黒褐色の色素沈着を留める。藥用を反覆すると此著色は濃厚になり、周圍にroter Hofを生じ、後には其部に淡黒色又は碧黒色の色素斑を永く残す。即ち之がAntipyrinのfeste Exanthem固定疹でAntipyrinを服用すると再び癩瘡を發し潮紅腫脹する。

ii) 小水疱又水疱 Rötungがhochgradの時に其上に發生する淺い扁平な水疱で破れて剝離面を露出し易い。

iii) 紫斑、蕁麻疹を生じ、又粘膜にErythema, Blaseを生ずる事

もある。

iv) 部位は多く Haut と Schleimhaut との移行部に生じ易く、次に四肢の末端を侵すが、重症では何處にでも生ず、Antipyrin に対し Idiosynklasie あるものは同種類の Salipyrin, Phenacetin, Pyramidon は同じく禁忌である。(Pyrazolonderivat)

### 2) キニーネ疹 Chinin-exanthem

服用後数時間で Übelkeit, Erbrechen, Kopfwegh, Frost, Fieber 等の Allgemeine Symptome を伴つて發疹する。發疹は Erysipelas に類し又 Scharlach に似る。稀には大小不同の Erythema や Urticaria, Purpura, Blase, Papel を發することもある。

自覺的には灼熱癢痒がある。粘膜は侵されない。

### 3) 水銀疹 Quicksilber-exanthem

水銀劑時に多くの場合水銀軟膏の外用によつて水銀性毛囊炎 *Folliculitis mercurialis* を起す。初めは軟膏を塗擦した部位に、粟粒大の硬い紅色の丘疹を毛囊に一致して發生し、時に其頂點が Pustel に變化する。次で周圍に蔓延し、或は全く遠隔した部位にも發生する。甚だしい時には初め Haarfollikel を中心とした linsengross, erbsengross の Erythema が融合して diffus の Erythema となり周圍に擴大して Haut の大部分を侵すことがある。重症では猩紅熱様又は麻疹様の紅斑を來し、全身症狀を伴ひ後に猩紅熱の如き葉狀落屑を伴ふ。

Eczema mercuriale は稍々稀で、Papel と Bläschen とからなり、nässen して Kruste を作る。

内服により Erythema, Blase, Papel, Pustel を形成することがあり、又紫斑を生ずることもある。重症では allgemeine Symptome,

hohes Fieber, Diarrhoe を來し又 Schleimhaut も侵される

### 4) 沃度疹 Jodoexanthem

Jodopraeparat 殊に Jodkali の内服によつて起る事が最も多く、屢々見るものは丘疹及結節である。即ち konisch od. halbkuglich の紅色小結節で、大きさは麻實大から小豆大、豌豆大に達する。基底に浸潤があり、周圍に frischroter Hof を有し、頂點は屢々小膿疱となる、即ち沃度座瘡 *Jodoacne* である。

若し更に沃度の内服を持續すると、小結節が密集融合して李桃大以上に達する、即結節性沃度疹 *Jododerma tuberosum* で紅暈浸潤は更に著明になり、暗紅色又は暗紫紅色を呈し、或は表面が海綿状に増殖して其内に多數の小孔があり Pseudofluktuatation を呈して壓すると此小孔から膿汁を排泄し、宛も Karbunkel の如くであるが疼痛は甚だしくない。

結節に次で多いのは浮腫及水疱で、紅斑及び紫斑は遙に稀である。部位は顔面、胸部、背部、頭部、前膊に最も多い。

### 5) 臭素疹 Bromexanthem

Jodoexanthem と等しく Papel が最も多い、即臭素座瘡 *Bromakne* と稱するもので、座瘡に類する miliargross bis erbsengross の暗紅褐色の丘疹で多く Haarfollikel に一致する。中心は變じて Pustel となり、其上に黒褐色の Kruste を有するのが特徴である。此 Bromakne は時に融合して Jodoexanthem (*Jododerma tuberosum*) の如く指頭大から鶏卵大以上に及び、圓形又は橢圓形で黒褐色の表面平滑な腫瘍狀隆起をなすことがある。即ち結節性臭素疹 *Bromoderma tuberosum* である。時としては其中に多量の Eiter を藏し、又は表面が papillös に増殖し、或は其上に黒

褐色の厚い痂皮を被むる。所々に帽針頭大の小膿疱又は穿孔があつて壓迫すると此處から多量の膿汁を漏す。即ち Bromoderma pustulotuberosum s. frambaesiforme で Rand には紫褐色の Hof を示す。

部位は四肢に最も多く顔面、軀幹が之に次ぐ。

#### 6) 砒素疹 Arsenikexanthem

Arsen の内服に據つて起るもので、急性症では roseolaartig, masernartig, scharlachartig の Erythem を生じ、或は Urticaria, Blase, Pustel, Akne, Purpura を來し、炎症消褪する時には lamellöse Abschuppung を起す。時には其跡に Hornschicht の増殖を來すことがある。

Arsenikexanthem として Zoster arsenicalis を來すことあり。subjektiv には 激烈な癢痒がある。

**Salvarsanexanthem** は全く此の Acute Arsenikexanthem に一致する、即ち猩紅熱様又は麻疹様紅斑を生じ、其消褪後廣汎な色素沈着又は白斑を招來することがある。

慢性症としては、**砒素黒皮症及角皮症 Arsenmelanose, Arsenkeratose** がある。前者は初め皮膚の著色斑を生じ、或は平等に全身に蔓延する。砒素の服用を持続すると著色は漸次濃厚になり黒灰色を呈し或は斑紋に脱色斑を混ずることもある。斑の境界は多くは明劃を缺くが時に稍々判然してゐることもある。

Arsen-keratose は唯一の症状として現はれ、又は他の Erythem, Melanose に伴ひ、多く Handteller, Fusssohle を侵す。即此部の Hornschicht が平等に肥厚して、紅暈を繞らし、又は針頭大から豌豆大の尖圭又は扁平の帶黄褐色乃至暗褐色の結節を作る。所謂

角様鵝眼様隆起又は Hütchinsonsche Clavus である。

以上の他外用によつて紅斑、水疱、潰瘍を生ずることもある。

多く癢痒を伴ひ、外壓を受け易い部位例へば關節の伸側面が侵され易い。

#### 7) 銀色症 Argyrie

銀の化合物殊に硝酸銀の内服、外用によつて銀の分子が沈着して生ずるもので Haut 及び Schleimhaut は灰色、暗灰色又は帶青灰色を呈する。

内服した場合には Allgemeine Argyrie として Haut u. Eingeweide に遍く沈着し、外用に因るものは locale Argyrie で Conjunktiva, Zunge, Urethra, Scheide 等の Schleimhaut に發生す。

Gewerbeargyrie は銀細工を職業とするものゝ手、前膊、顔面に來る。

**其他藥疹の原因となるもの** バルサム、サンタール、クベーバ、硼酸、ウロトロピン、ボロベルチン、抱水クロラル、ヴェロナール、ストリキニーネ、ラキサトール、アスピリン、サルチール酸、麥角、トリパフラビン、等々

#### 藥疹の療法 Behandlung der Arzneixantheme

- 1) 該藥劑の使用を廢する。
- 2) 淨血法 (0.85% NaClwasser 300—600c.c. intravenöse Injektion)
- 3) 尿量の増加を計り、又は發汗せしめ、食餌は流動食を多量に與へ、又は下劑を投ずる。
- 4) i) Brom は其 Ausscheidung 遅く、藥用を廢止しても長く體內に残り、却て其後に至つて結節性臭素疹が増殖を示す如きこともある故、食鹽を多量に與へ早く其排泄を促すべきである。  
ii) Arsen, Quecksilber, Bismut 等重金属の中毒疹には次亞硫酸曹達 0.6—1.5 を毎日又は隔日に内服若しくは 10% 溶液として

静脈内に注射す。

iii) Keratose には Pick 氏膏 Spiel 氏膏を貼する。

iv) Geschwür には過マンガン酸加里浴がよく Sepsis を豫防する。

### VII 蜀黍紅斑 Perragla

**定義** 主として蜀黍を常食とする地方に視られる疾病で、皮膚露出部の潮紅を以て始まり、胃腸障碍と神経障碍とを伴ふ慢性症である。

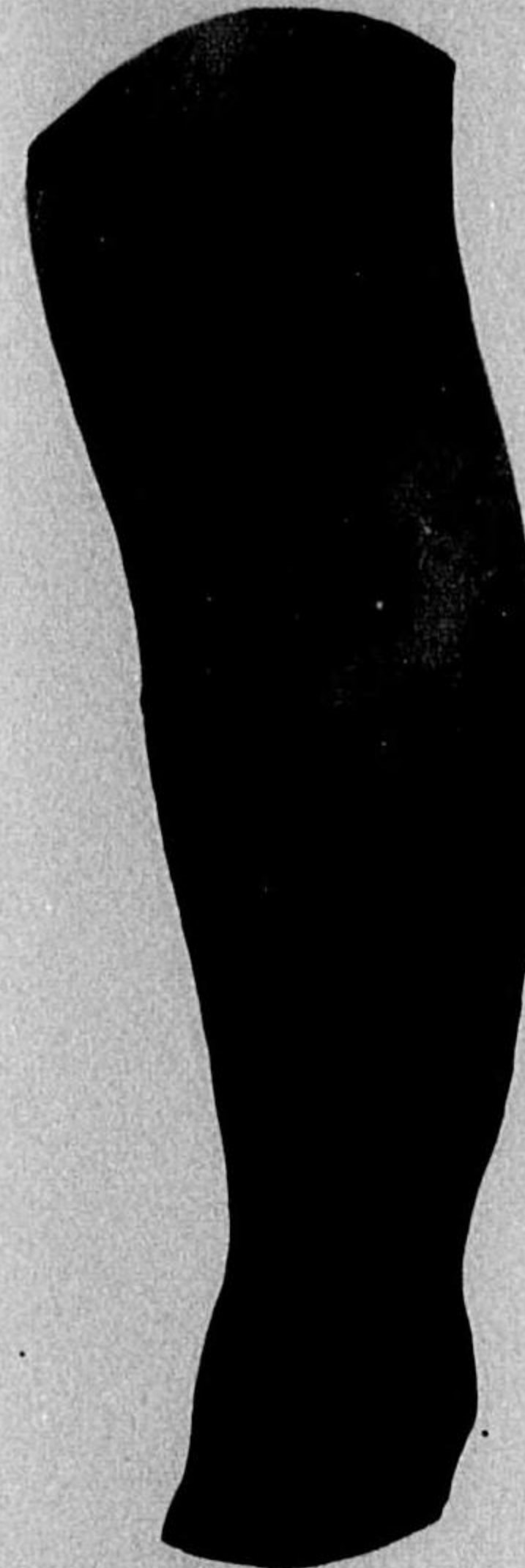
**症候** 1) Hauptsymptome は手甲、足背の如き露出部に、對側的に scharf begrenzt の Erythem を生じ、表面から abschuppen する。時には Blase 又は Pustel を作り Kruste を結ぶ。後には紅褐色に變じ、終には褪色して著明の色素沈着を止めるが、周圍には長く紅斑が認められる。温暖の候に發生し冬は消失するが、翌年春になると一段増悪して再發するのが例である。爲に數年の間には Haut の角化症、次で萎縮に陥り運動障碍を招くに至る。

2) Verdauungsstörung としては慢性下痢、食思缺乏を主とし、時には高熱を伴つて Typhus と誤られる。

3) Nervensymptome の症狀は不定で、Kopfschmerz と Gliederschmerz に始まり、Ohrensausen, Nachtblindheit, Sehschwäche から Tremor 或は脚氣様症狀を呈し、重症では Krampf, sensibilität- u. motorische Lähmung, 精神異常を來す。

**原因** 腐敗した蜀黍粉の chronische Vergiftung と考へられたが近來は Vitaminmangel-theorie が唱へられる。

第七圖



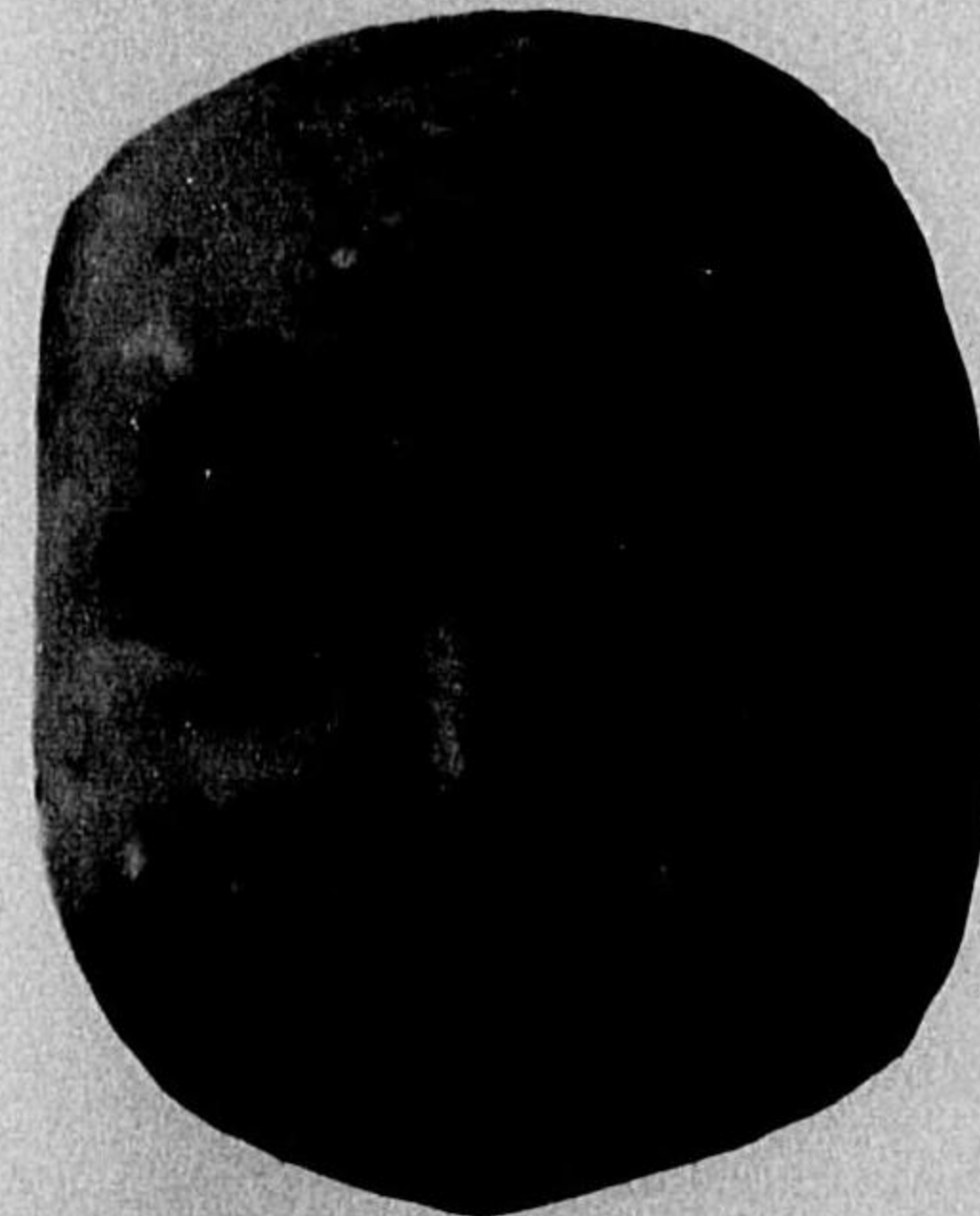
結節性紅斑  
Erythema nodosum

第八圖



安知必林疹  
Antipyrinexanthem

第九圖



白色葡萄狀球菌性膿痂疹  
Impetigo albestaphylogenes Dohi

第十圖



連鎖狀球菌性膿痂疹  
Impetigo streptogenes Dohi



診断 Haut-Verdauungs- u. Nervensymptome の症状

療法 1) Ernährungstherapie

2) Vitamin B を投與する

附 **Perragloid** と稱するは蜀黍を常食とせざる地方に起るもので同一疾患である。

## 第六章 化膿球菌性皮膚疾患

### Pyodermien

#### I 白色葡萄状球菌性膿痂疹

##### Impetigo albestaphylogenes

**定義** 主として顔面、手足の如き露出部に於て、健康皮膚面に卒然水疱を發生する疾患で、水疱中には白色葡萄状球菌を含み、觸接傳染し、屢々流行性に小兒を侵すものである。

**症候** 1) 突然健康な皮膚面に Blase を發生し、又は先づ Erythema を生じ間もなく Blase に變ずる。

2) Blase i) 初めは Stecknadelkopfgross 又は bohnergross であるが、後には taubeneigross 或は hühnereigross に達することもある。

ii) Blasenwand は菲薄で、初めは稍々緊張し、其内容も klar であるが、時を経るに従ひ淡黄色で日本酒の如き色を呈し、被膜も弛緩し來る。尙時を経れば Blaseninhalt は少しく trüben し殊に下垂部に bogenförmig をなして Eiter が沈澱するのが見られる。

iii) Blasenwand が自然的に、又は輕微の外傷で durchbrechen すると、跡に赤い圓形又は橢圓形の scharfbegrenzt の Erosionsfläche を現はし、nässen し或は汚穢黄褐色の薄い痂皮を生ずる。小なる水疱では自然に吸收されるものもある。

iv) Kruste は時に稍々褐色調を帯ぶることあるも、決して重疊

する事はない。

v) 稍陳舊なる擴大した病竈部を見ると、中央部に暗褐灰色の菲い痂皮があり、外周に赤い Erosionsfläche があり其周圍に痂膜が残存し多少の roter Hof を帯ぶることがある。

vi) Blase は前後續發し、漸次周圍に遠心性に擴大し、或は近接のものと融合するが、後に至るも概ね其原發した形を識別することが出來て、Impetigo streptogenes に見る如き不規則な形に蔓延しない。

vii) Blase は四、五日で durchbrechen し、又は Inhalt が吸收されて Kruste を作るが、是も亦數日以内に脱落して其跡に一時紅褐色の Pigmentierung を残し、時には數ヶ月間消滅しない事がある。

3) Subjektive Beschwerden は殆どなく、稀に Jucken, Brennendes Gefühl を訴へる。結痂する時、其脱落する時に癢痒が稍々強い。稀に leichtes Fieber (unter 38°C) を伴ふことがある。

4) 多く小兒の虚弱な Haut を侵すが、時としては小兒から大人に傳染することもある。春暖の候に流行し始め夏季に最も著しく秋冬には減少する。

5) 部位は多く Gesicht で次に手、足、前膊、下腿、等露出部に多いが Rumpf に來ることも稀でない。

**診断** 1) 健康皮膚面に孤立する水疱で、播種状に蔓延すること

2) 周圍に entzündliches Zeichen を缺くこと

3) Blaseninhalt は klar なるか、又は下部に膿の沈澱するを認むること

4) Kruste が薄く汚穢灰白色又は黄褐色で、常に水疱の大きさと一致

する事

- 5) 多く小児を侵し夏季に流行性に傳染すること
- 6) Subjektive Beschwerde は比較的輕微なるか又は缺如すること

類症鑑別

- 1) 連鎖状球菌性膿痂疹 Impetigo streptogenes: Kruste は黄蠟色で厚く、不規則な形狀をなして蔓延し、炎症々状も強く、経過も長い。
- 2) 水痘 Varicella: 紅疹を以て始まり、中心から徐々に水疱となり、周囲の炎症性紅暈も著明で、痂皮は黒褐色である。又全身症状を伴ふ。
- 3) 天疱瘡 Pemphigus: 経過慢性で、水疱も長く存在し、内容に化膿菌を證せず傳染もしない。

豫後 佳良唯稀に Lymphangitis, Lymphadenitis を併發する。

治療 1) Blase を punktieren し、Blaseninhalte を消毒綿で吸取り Borzinksalbe を貼する。Erosionsfläche を露出したものも Borzinksalbe を用ふると、一、二日で epidermisieren される。其跡は Zincpasta を塗布する。

2) 輕症ならば 3—5% Trypaflavin 水又は 1% Mercurochlom 水或は之を加へた Zinköl を塗布するだけでも宜い、更に其上に Borzinksalbe を用ふれば一層効果がある。

3) 成るべく患部に Verband を施し、病菌の散漫するのを豫防する事が肝要である。

4) 局部を洗滌するのは病菌の蔓延を助長するのみであるから慎まねばならない。常に局部を乾燥したまゝに保つことが必要である。

## II 連鎖状球菌性膿痂疹 Impetigo streptogenes Dohi

定義 Streptokokken の感染により、健康皮膚面に急性に膿疱を發生し常に蠟黄色の厚痂を結び、觸接傳染を營むものである。

症候 1) 多くは顔面に先づ miliargross 又は hanfkorngross の紅疹を生じ、須臾にして中心に小膿疱を作る。此の膿疱の大きさは麻實大以下に止まる。

2) Pustel は間もなく破潰して上に黄蠟色の厚い痂皮を形成する。

3) 痂皮の下には膿汁が滲溜し、周囲に流溢して直ちに其部の Haut を侵し結痂する。斯くして痂皮は漸次擴大して豌豆大、二錢銅貨大或は手掌大にも及び、且つ厚みを増して蠟殼状をなし不正形の局面を作り、其周囲には又紅疹小膿疱が散在する。

4) Kruste を剝離すれば紅色の Erosionsfläche が現はれ、黄灰色の膿漿を見る。

5) Kruste の周囲には entzündlicher roter Hof があるが、時に之を缺き健康皮膚面上に黄痂の附着する如き觀を呈する事もある。殊に Sekret が流れて新に結痂したものに多い。

6) subjektiv には輕微の Jucken が存在するのみである。

部位 始發部位は Gesicht であるが其他 Hals, Hand-u. Fussrücken, Oberarm, Unterschenkel にも見られる。

初めは多く Gesicht に數個散發するのみであるが、融合して周圍に擴大すると同時に Sekret が附着するために隨所に蔓延する。

経過 1) 比較的緩慢で、一二週間から四五週間に及ぶ。其間多く強て痂皮を剝離するために bluten し、或は汚塵により痂皮黒褐色となり又は血痂を混する。

- 2) Kruste の脱色した後には一時 Pigmentierung を遺すが決して Narbe は作らない。故に暫く存在した時には Kruste, Erosion, Pustel が相混じり或は Blutborke があり, Pigmentfleck があり, 汚穢な外観を呈し, Impetigo albostaphylogenes の如き一様の規則正しい Verlauf を示さない。
- 3) 身體の一部から他部に傳染するのみでなく, 容易に他の人にも接觸傳染する。
- 4) 時に其の経過中に regionär の Lymphdrüsenanschwellung を來し發熱することがある。

**診 断** 1) 健康皮膚面に存在する膿疱。

- 2) 蠟黄色の厚い痂皮を有し且つ是が膿疱より大であること。
- 3) 接觸傳染し且つ自覺症状を缺如すること。

**類症鑑別** 1) 白色葡萄狀球菌性膿痂疹 Impetigo albostaphylogenes: Blase は大であるが, Kruste は薄く色は灰白又は黄褐色で水疱面より大きくなるない。

2) 膿痂疹性濕疹 Eczema impetiginosum: Kruste は常に炎症性潮紅面上にあり, 癢痒も強く他に Eczema の Symptome を認め得る。

**療 法** 1) Kruste は Olivenöl, Vaseline, Borzinksalbe を用ふれば軟化し容易に除去し得られる。

- 2) Kruste の下の Erosionsfläche には Borzinksalbe を貼用すれば直ちに表皮が形成さる。
- 3) 小兒顔面に於ては涙液, 垂涎の爲に軟膏の效果をして減弱せしめる事が多い, 此際には 5% Trypaflavin 水又は 1% Pyoktanin 水を塗布して其上から Borzinksalbe を貼用する。

- 4) 病勢激烈で旺んに蔓延する虞ある時は Trypaflavin-Borzinksalbe (5% Tripaflavin 水若干量を同量の亞鉛華と共に Borzinksalbe に加へる) を用ふ。
- 5) Kruste が存したり又 Erosionsfläche が存する時に, Borwasser, Oxyfull 等で洗滌する事は病竈の擴大を招くが故に有害無益である。
- 6) epidermisieren したならば Thionolwilson, Tumenolwilson 等を用ひる。
- 7) 頭部では最初 Glyteerborzinksalbe を用ひ, 少々乾燥したならば Glyteerunna 氏膏を用ゆ。
- 8) Mundlippe に於けるものは 5% Boraxvaselin を一日數回塗布す。
- 9) Augenlid に於けるものは 1—3% 白降汞ラノリン Weisspräzipitätlanolin-od. Vaseline を用ゆ, 又 Pyoktanin 水を用ひて卓効を見る事もある。

### Ⅲ ボツクハルト氏膿痂疹 Impetigo Bockhardt.

#### 葡萄狀球菌性膿痂疹 Impetigo staphylogenes Unna

**定 義** 皮膚の搔破又は摩擦により, 多く毛嚢口から黄色葡萄狀球菌が表皮中に侵入して發生する膿疱である。

- 症 候** 1) 多く Haarfollikel を中心として山椒實大より小豆大の Pustel を生ず。
- 2) Pustel は固く緊張し, 黄色で餘り増大せず, 周圍には著明の

- roter Hof があり時に疼痛を伴ふ。
- 3) 後には黄褐色の痂皮を作り、其脱落した跡には Pigmentierung を残す。
  - 4) 多く四肢の伸側硬毛部に孤立し、又は播種状をなすが時には集簇する。
  - 5) Prurigo, Skabies, Eczema chronicum 等の如き juckende Hautkrankheiten に併發することが多い。
  - 6) 多發した際には Acute Nephritis を併發する虞れがあり、又 Furunkel に變じ易い。

#### 類症鑑別

膿痂疹性濕疹 Eczema impetiginosum: Pustel は散漫性に潮紅した皮膚面上に發生する。

- 療法 1) Pick 氏膏を貼じ膿疱上の角質を溶かし、次で Borzinksalbe を用ふ。
- 2) Furunkel になれば Ultravioletstrahlen, Biersche Stauungstherapie, Warmer Umschlag, Sollux
  - 3) Staphylo vaccin (隔日に 0.5c.c. 以上)

#### IV 尋常性膿瘡又深膿痂疹 Ecthyma vulgare

定義 Haut に Pustel を發生して、Kruste を結び、深く眞皮をも侵して後に Narbe を止めるものである。

- 症候 1) 初め zerstreut に erbsengross から nagelgross の紅色で固い扁平の小結節を生じ、炎症々状が強く、紅暈が著明で多少の疼痛が伴ふ。

- 2) 一二日以内に其頂點に膿疱を發生し内には混濁した膿を藏してゐる。
- 3) Pustel は漸次周圍に擴大し、同時に基底の浸潤も蔓延する。
- 4) Pustel は中心から乾涸し、同時に其下の組織は Nekrose に陥つて黒褐色の痂皮を作るが、初めは其周圍に猶膿疱状の邊縁が堤防状をなして存在し、其外縁に更に炎症性浸潤がある。
- 5) Kruste の下には深く眞皮に達する Geschwür があり薄い膿及び組織の破壊物で覆はれて居る。
- 6) 自然に痂皮が脱落した後には一時暗紅の著色を止め浅い Narbe を遺す。

原因 本症は主として他の juckende Hautkrankheiten のある際に搔破の結果、Streptococci 又は毒力の強い Staphylococci を移植する結果發生するもので、下腿に多く Komplikation として Furunkel, Lymphangitis, Lymphadenitis purulenta, Geschwür, Nekrose を繼發する。

- 治療 1) Pick 氏膏を貼じ其後に Borzinksalbe 又は 0.5-1% Trypaflavin (borzink) salbe を用ふ。
- 2) Entzündung 強ければ Umschlag を行ひ
  - 3) Infiltration 強ければ Hebra 氏膏が適當である。
  - 4) Ultravioletstrahlen, Sollux は経過を短縮する。

#### V 壞疽性惡液性膿瘡 Ecthyma gangraenosum cachecticorum

定義 Kachexie の小兒に多發する Ecthyma で、屢々死を招く

事がある。

- 症候** 1) Kachexie に陥つた Säugling を侵すもので多く Magendarmstörung, Schwere Infektionskrankheiten, Tuberculose, Masern に伴つて肛門陰部, 下腹部, 臀部等に發生する。
- 2) 初め深在性紅色又は錆色の結節を生じ, 中心が膿潰して血痂又は Nekrosenmasse からなる汚穢暗褐色の Kruste を生じ, 其下には邊緣鋭利で宛も鑿で穿てる如き Geschwür を作る。
- 3) Geschwür の表面には膿性又は壞死組織よりなる苔を被り, 周囲は entzündliche Infiltration が強く rötlich bräunlich を呈して居る。
- 4) Geschwür は周囲及深部に向つて ausbreiten し或は相融合して hühnereigross に達することがある。
- 5) 患兒は發熱を伴ひ, Schwäch のため又は Sepsis のために sterben するものが多い, 幸にして retten したものは跡に scharf begrenzt の Narbe を留める。

**療法** 栄養に注意し, Lysol 浴 Rivanol 水の Umschlag 又は Protargolsalbe を貼用する。

## VI 疔疹様膿痂疹 Impetigo herpetiformis Hebra

**定義** 殆ど Schwangerin に限り, 殊に Termin に迫つて Schüttelfrost を以て發熱し, 重篤な全身症状を伴つて發生する悪性の皮膚疾患で, 早産を招き多く死の轉歸をとる。

- 症候** 1) 初め銅貨大圓形の rötliche Anschwellung を生じ, 其表面殊に邊緣部に芥子粒大の Pus'elchen が密生する。
- 2) 膿疱は破れて脂性黒褐色の薄い痂皮を作り, 相融合して大きな痂皮をな

すが, 次で乾涸して脱落する。同時に潮紅面は周圍に擴大して其外周に新に膿疱帯を生じ蔓延する。

- 3) 附近の健康部にも膿疱が不規則に散在するのが見られ, Schleim aut にも Pustel を發生し或は糜爛面となつて疼痛を發する。
- 4) Schüttelfrost, Fieber があり全身状態が著しく侵され psychische Störung を併發し危険を招く, 早産を招くのみでなく 3—4 週の間に死を致すが多い。幸に治癒しても次の妊娠に再び本症を發するのが常である。

**部位** 陰肢部, 下腹, 臍高, 乳房, 腋窩等に始まり漸次他の部位に蔓延する。

- 療法** 1) 0.85% NaCl-lösung の intravenöse Injektion.
- 2) Autoserum, 健康人血清注射
- 3) 局所は藥浴, 防腐粉末劑 (Euguforn, Dermatotol, Jodoform, Vioform) 撒布或は防腐劑加軟膏貼用。
- 4) künstliche Abortus を行ひ, 尙其後の妊娠に對して不妊手段を行つて再發を豫防しなければならない。

## VII 尋常性痤瘡 Akne vulgaris

**定義** 妙齡の男女に於て, 顔面其他に發生する急性多發性毛囊炎で, 化膿の傾向があり, 経過は慢性で新舊の疹相混じて多形をなすものである。

痤瘡 Akne とは毳毛部に於ける Folliculitis を謂ふのである。

- 症候** 1) 半米粒大時に小豆大の紅疹として發生し, 或は其儘吸收され, 或は其頂點に黄色の小膿疱を作り, 周圍に entzündlicher roter Hof を帯びる。

此際新疹は鮮紅色を呈し, 舊疹は暗紅色を呈する。

- 2) 膿が排出され、ば其處に小痂皮を結び、臍て脱落して治するが、小痂皮が屢々搔破されて漿液を洩し又結痂し其治癒した後には一時 Pigmentierung を來す。
- 3) 化膿が深部より生じた時は後に中心に點狀の瘡癤痕 Aknenarbe を止め、更に炎症が深いと bohngross 暗紅色の浸潤を呈し容易に消褪せぬことがある。則硬結性瘡癤 Acne indurata である。時に Acnenarbe から Keloid を生ずることがある Acnekeloid と云ふ。
- 4) 數年に亘つて新疹が續發するから丘疹、膿疱、色素沈着、癬痕が混在し、尙常に皮脂漏を伴ふが故に皮膚は滑膩である。自覺症はない。
- 5) Haarfollikel に一致して黒點を見る。是は皮脂と角質物との混合したもので 面疱 Comedo, Blackhaed と云ふ。

**部位** Lieblingssitze は Gesicht, 殊に前額, 額, 頬邊に多く其他 Rücken の Interskapulargegend, 及び Brustbeingegend に多い。

**経過** 男女共 14—5 Lj. より 20 Lj. 位迄に著明で、概ね數年の間に自然に治するが時に壯年以上にも及ぶことがある。

**組織** Haarfollikel に Hyperkeratose があり Talgdrüsen の Ausscheidungskanal は深部まで Verhornung を示し同時に Folliculitis, s, Perifollikulitis の Bild を示す。

**原因** 1) 脂漏と角化異常 青年期には種々の原因から皮脂の分泌が増加し同時に角化作用も旺盛になる。其素因には内分泌障碍 殊に生殖腺分泌異常, 肥胖, 貧血, 萎黃病, 月經異常, 飲酒, 膏膩性食物, 常習便秘等が擧げられてゐる。

- 2) 細菌の感染  
3) 局所の汚穢

**鑑別診断** 1) 丘疹膿疱性梅毒疹 Syphilis papulopustulosa

同時に身體他部にも發生し、顔面では髮際, 鼻唇溝, 眼瞼, 眼背, 鼻腔口, 口角, 頤部に多く形も扁平で色は暗紅褐色を呈し、環狀に配列する傾向がある。

- 2) 沃度瘡癤 Acne jodica: 一時に身體各部に發生し、鮮紅色で紅暈も強く、各疹皆同一の状態を示すのが常である。
- 3) Tuberculid: 結核疹にも好んで顔面を侵すものがあるが、個々の疹の経過が緩慢で、中心が壞疽に陥り易く従て其跡には不規則の小癬痕を留める。

**療法** 1) 素因と思はるゝものを除去する。即ち Magendarmstörung, Anaemie, Scrophulose を治療する。

2) 腸内の abnorme Gärung を制止するに複方甘草散(處方 84 頁参照) 酵母劑 Enzeim, Cerolin 丸等が用ひられる。

3) 食餌には脂肪性のもの, 辛辣のもの, 不消化のものを避け常に適度の運動を行ひ、便秘を防ぐことが肝要である。

4) 所謂性的瘡癤 Acne sexualis と稱へるのは生殖腺内分泌異常が原因なりと稱せられ、好んで膿疱を形成し脂漏及び Comedo が著明でないと云はれる、是には男女とも生殖腺臟器製劑(♂ スペルマチン, テストグランドール類 ♀ オ、ホルミン, オボホルモン等)を用ひて効果がある。

5) Locale Behandlung としては局部を努めて清潔に保つために度々洗顔することが第一に必要である。

6) 藥劑には i) Schwefelpraeparat, 本劑は過剰な角質を溶解し

脂漏を抑制する効があるので好んで用いられる。但し鉛を含んだ白粉と同時に用ふると、毛孔中に黒い硫化鉛の沈着を招く虞がある。

## Liquor Kummerferdii

Rp. Sulf. sublim.	硫黄華	12.0
Mixtur gummos.	護謨漿	6.0
Kampher	カンフル	1.0
Aqua calcariae	石灰水	100.0
Aqua rosae	薔薇水	100.0
Rp. Lassarsche Vaselinepasta	ラツサール氏膏	50.0
Resorzin	レゾルチン	1.0
Acid. salicyl.	サルチル酸	0.5

以上の他 10% Schwefelliniment, 2% Zinnoberliniment が軽症に用いられる。

- ii) Lanolinpasta, Pick氏膏は少々重症で浸潤の強いものに適す。
- iii) Staphylovaccin.
- iv) Quarzlamp, Höhensonne, Röntgen
- v) Comedo は Comedoquetscher 面皰壓出器で壓出し其あとは酒精で拭ふがよい。

## VIII 尋常性毛瘡 Sykosis vulgaris

**定義** 硬毛部に於ける Folliculitis 及び Perifolliculitis で紅い丘疹又は膿疱を續生し極めて慢性の経過をとる疾患である。

毛瘡 Sykosis とは短硬毛に於ける Folliculitis を謂ふのである。

**症候** 1) 初め短硬毛を中心として dunkelrötlich 小豆大の丘疹を生じ、多くは Pustel に變じ、周圍に軽度の entzündliche Rötung u. Infiltration を示す。

2) Pustel が破れて Eiter が排出されれば一時結痂し、次で治癒するが如斯發疹が治しては又新疹を生ずるのである。

3) 毛は容易に抜けるが Haarwurzel は通常殘存して毛は再生する、然し若し化膿が深く毛根を傷ければ、小瘡痕を止めて再生しない。

4) 如斯 Ausschlag が散在することもあり集簇することもある。集簇密生すると炎症が強くなり多少の疼痛を招く。化膿の部位が深い程炎症は強い。

**部位** 上唇、頬、頤の鬚髯部、眉毛、睫毛、鼻毛、腋毛の如き短硬毛部を侵す。

**経過** 慢性になり易く、絶えず新疹を生じて數年、數十年に亘るものが多い。

**原因** Eczema, 「剃刀まけ」に續發する事が多く、化膿菌(殊に黄色葡萄狀球菌)が毛囊及び其周圍の Bindegewebe を侵すに因るのである。

**類症鑑別** 1) 寄生性(白癬性)毛瘡 Sykosis parasitaria s. trichophytina: 多くは單發し、急性で瘡面が圓形に隆起し、蜂巢状をなし浸潤強く癢痒。疼痛も激しく、Haarwurzel から Trichophyton が證明される。

2) 毛瘡状濕疹 Eczema sycosiforme: Eczema に續發して Folliculitis を併發するもので diffuse Rötung があり、其中に Papel, Pustel があり、其他 Eczema の Symptome を具へ癢痒も激し



い。

- 3) Impetigo streptogenes Dohi: Haarfollikel と関係なく皮膚の表面を侵すもので痂皮が厚い。

治療 1) Pustel には Pick 氏膏

2) 炎症旺んなれば 2% Resorzin 水, Borwasser の Umschlag

3) 痂皮が存在する時は Borzinksalbe, 2% 赤降汞軟膏

4) 慢性症には Röntgen-bestrahlung が最も有効である。同時に局部に Teerpasta 又は次の処方ものを塗擦し, Staphylovaccin を注射する。

Glyleerpasta Unna

Rp. Glyteer	グリテール	2.0
Zinc. oxyd.	亜鉛華	6.0
Sulf. sublim.	硫黄華	4.0
Talc. venet.	滑石末	2.0
Adep. suill.	豚脂	28.0

### K 痘瘡状痤瘡 Acne varioliformis

痘瘡状又前頭部痤瘡 Acne necrotica s. Acne frontalis

定義 一定の部位に生ずる Folliculitis で, 中心浅く痘瘡に陥り, 跡に痘痕様の癩痕を貽すものである。

症候 1) 初め釘頭大, 麻實大乃至豆大の鮮紅色の丘疹性毛囊炎を多發し, 其中心が常に Pustel に變じ痘瘡に陥り, 黄褐色の痂皮を作る, 其脱落したあとは Narbe となり陥凹して Pockennarbe

に類する外觀を呈する。

2) 自覺症状はない。

3) 中年以後に生じ経過慢性で, 數年に亘る故容貌が著しく損ぜらる。

部位 前額髮際部に來ることが最も多く其他鼻部, 頰部, 側頭部, 耳翼等にも現れ時としては被髮部から背面に及ぶことがある。

類症鑑別 1) 尋常性痤瘡 Acne vulgaris: Narbe を作ることはあるが Ausschlag が全部中心に Nekrose を生ずるものではない, 但し兩者を截然と區別するは困難である。

2) 顔面播種状粟粒性狼瘡 Lupus miliaris disseminatus faciei: symmetrisch に急性に生じ毛囊に一致しない, 發生部位も顔面の中心が主である, 且つ發疹は扁平で時に中心に黄色の膿點の如きものを認めるが是は膿疱でなく kässige Masse である。跡に不規則な癩痕を作る。

3) 微毒疹 Syphilid: 前頭部に屢々 pustulöse Syphilid を發生し跡に Narbe を遺すが發疹の色が銅紅色で常に集合して輪状又は弧線を畫く傾向がある。

治療 Quarzlampebestrahlung が必要で他は大體 Acne vulgaris の Behandlung に準ず, 或は Pick 氏膏を貼用し又 2% 赤降汞亞鉛華泥膏を用ひる。

### X 頭部乳頭状皮膚炎

Dermatitis papillaris capillitii Kaposi

#### 項部硬化性毛嚢炎又項部ケロイド

Folliculitis sclerotisans nuchae, Nacken-keloid

**定義** Nacken 及び Hinterhaupt に Folliculitis を續發し、次で Keloid 様の結締織硬變を呈する疾患である。

**症候** 1) 項部髮際から後頭に限られた疾病で、最初項部髮際に近部分に散在性に Folliculitis を生じ次で化膿する。

2) 此 Folliculitis は淺い Narbe と硬結とを残して治するが、新疹が附近に續發し、其炎症は眞皮中で融合して一つの局面をなし同時に結締織細胞の新生増殖が旺んに行はれる結果、癩痕様硬結となり、或は癩腫をなして隆起する。

3) 此隆起した部分の形は不規則で、或は索状をなし或は扁平に隆起し、大さは拇指頭大より鶏卵大或は手掌大に達する。

色は常色又は暗紅色を呈し、滑澤ではあるが凹凸があり、乳頭状を呈する。毛髮は稀疎になり僅に漏斗状をなして陥没した毛嚢口に數本の硬毛束を見るのみに至ることあり、或は全く赤禿になる。又屢々此部位に Keloid を生ず。

4) Subjektive Beschwerde は殆どなく時に軽度の緊張感を伴ふのみである。

5) 経過は極めて慢性で數年、數十年に亘る、中年以後の強壯肥満の男子に多い。

**診断** 部位、毛嚢炎の存在、癩痕息肉の發生、毛幹束の散在、急性

炎症の缺如、慢性の経過

**類症鑑別** 1) 尋常性痤瘡 Acne vulgaris: 部位を異にし Folliculitis も輕くて硬結は生じない。

2) 瘰癧疹 Syphilid: 環状配列をなし且つ Haarfollikel と直接の関係がない。

**療法** 1) 初期の毛嚢炎には Pick 氏膏、水銀軟膏、Teerpasta、5% 焦性没食子酸トラウマチチンを用ひる。

2) 息肉を形成したならば Fibrolysin, Narberisin を注射し或は切除する。

3) Röntgen, Radium は常に奏効最も確實である。

### XI 口角腐爛症 Perlèche, Angulus infectiosus, Faulecke

**定義** 屢々流行性に来る疾患で、口角の皸裂又は糜爛潰瘍形成を特徴とするものである。

**症候** 多くは兩側、時に一側の口角に潮紅、落屑、Erosionsfläche を生じ時に灰白色を呈する。屢々 Rhagaden を生ずるため口唇の運動に當り Schmerzhaft である。

炎症は Mundwinkel に限局し周圍には移行しない。

**療法** Pyoktanin, 稀薄硝酸銀液、白降汞軟膏の塗布にて容易に治癒する。

## 第七章 皮膚結核症

## Tuberculosis cutis, Hauttuberculose

Tuberkelbacillen が内臓諸器官を侵すと、多種多様の臨床的及解剖的變化を招來する如く、是が Haut を侵した際にも極めて異なつた各種の Symptome を呈するもので、従て種々の名稱の下に分類されてゐる、然も幾多の研究の結果、此等の多くの臨床的所見を異にするものも等しく結核菌の爲に發生するもので、只個人的素質と細菌の多寡、免疫反應の強弱等に依つて如斯多様の異なる外觀を呈するものなることが知らるゝに至つた。

Tuberkelbacillen の種類、即 Typus humanus と Typus bovinus との差異は臨床上大した意義を有しない。其孰れに因つても Hauttuberculose が由來されるが、唯 Hauttuberculose に於ては他の器官の結核よりも屢々牛結核菌が證明される。

Disposition が感染率に關係あることは内臓結核に於けると同様で、體質の虚弱なもの、或は損傷等が Hauttuberculose を招き易いのは自明の理である。更に結核菌の多寡、毒力が或程度まで關係がある。

Hauttuberculose が他の内臓に伴ふことあり、又唯一の結核病竈であることもある。

感染の経路に就ては外部から傳染することもあり (Impftuberculose, Kontiguitätstuberculose) 内部から血行淋巴行により皮膚結核を起すこともある。(Metastatische Tuberculose) 然し klinisch には其孰れに因るか不明の事も多い。

今日通常行はれる Hauttuberculose の Einteilung を示すと

## D) Hauttuberculose im engeres Sinne

Tuberkelbacillen が外傷から皮膚組織内に侵入し、或は他の組織の結核症から連続的に Haut に蔓延したもので、通常容易に結核菌が證明され、結核固有の histologische Befund を呈する。従て古くから tuberkulöse Erkrankungen なることが識られたもので、病竈は漸次周圍に擴大し、或は附近に新生する。之に屬するものは尋常性狼瘡 Lupus vulgaris, 皮膚疣状結核 Tuberculosis verrucosa cutis, 皮膚腺病 Scrophuloderma, 潰瘍性粟粒結核 Tuberculosis miliaris ulcerosa である。

## E) Tuberculide 結核疹と呼ばれるもの

Jadassohn に據ると此 Tuberculide なるものは次の性質を有するものである。

- 1) 甚だ良性なること
- 2) 播種状並に相對性に發生し易きこと
- 3) 徐々に發生すること
- 4) 主として慢性結核を有する患者に發生すること
- 5) 比較的屢々定型的結核組織を缺如すること
- 6) 甚だ稀に染色上又は動物試験上結核菌が證明されること
- 7) Tuberculin に對する反應が一定せざること

現在では此 Tuberculide は身體の何處かに存在する結核病竈から結核菌若しくは其代謝産物が血行を介して播布され、既に「結核性 Allergie」を呈する皮膚面に廣く發疹するものと考へられてゐる。従て其結核性疾患なることは毫も疑がない。之に屬するものは腺病性苔癬 Lichen scrophulosorum, 顔面播種状粟粒性狼瘡 Lupus miliaris disseminatus faciei, 壞疽性丘疹状結核疹

Papulonekrotische Tuberculide, バザン氏硬結性紅斑 Erythema induratum Bazin, 結核性靜脈炎 Endophlebitis tuberculosa, 陰莖結核疹 Penistuberculide, 亞液性瘰癧 Acne cachecticorum, 類狼瘡 Lupoid である。

■) 組織學上極めて結核に類似するが、未だ一回も局所に結核菌が證明されず、動物試験にも成功しないもので其結核性疾患なりや否やは、尙大に疑問とされてゐる。即凍瘡狀狼瘡 Lupus pernio, 光澤苔癬 Lichen nitidus, 環狀肉芽腫 granuloma annulare, が之に屬する。

Hauttuberculose の一般的組織像は血管を伴はない Epitheloidzellen 上皮様細胞が集簇し、其周圍に Lymphocyten の浸潤があつて、其中に處々に Langhans'sche Riesenzellen を認める。又 Epitheloidzellengruppe の中心には屢々 käsige Degeneration 乾酪様變性が證明される。

## 狹義の皮膚結核症

### I 尋常性狼瘡 Lupus vulgaris

**定義** Tuberkelbacillen の直接作用に因り、Haut 又は附近粘膜中に zirkumskript の Infiltration を生じ、密集融合して紅褐色の局面を呈し、或は變じて潰瘍となり又は萎縮落屑し、一時瘰癧を結んでも再三破壊して容易に癒合しない、慢性の傳染性皮膚疾患である。

**症候** 1) Lupus の特徴は其原發疹たる 狼瘡疹 Lupusknötchen の存在である。Lupus-knötchen は真皮中に發生する miliar-bis

hirsekorngross の Knötchen で淡褐色又は紅褐色を呈し、初めは認め難いが、硝子壓を加へると周圍が貧血を起す故却て著明になる。後には皮膚面上に隆起し柔軟で Sonde で刺すと容易に穿孔する。histologisch には結核特有の Rundzellen, Epitheloidzellen, Riesenzellen よりなる Zelleninfiltration である。此 Lupusknötchen は皮膚面のみでなく Schleimhaut にも發生する。

此の Lupusknötchen が多數に發生し組織中で互に融合して褐色の局面を作り、或は表皮肥厚し或は Geschwür に變じ又は局部皮膚の萎縮落屑を來し瘰癧をも營む。此際一旦 narbige Heilung を營んだ所にも Lupusknötchen が再發することが特徴である。

### 2) 種類

Lupus maculosus	孤立斑状をなすもの
L. disseminatus	散在性のもの
L. tuberosus s. tumidus	密集し表面に隆起するもの
L. exulcerans	潰瘍をなすもの
L. exfoliaceus	表皮落葉状に剝離するもの
L. resoltivus	表皮萎縮瘰癧状をなすもの
L. verrucosus s. papillaris	表皮乳頭状に増殖するもの
L. sclerosus	結締織の肥大著しく大の結節 肉様硬化を作るもの
L. serpiginosus	潰瘍を形成し蛇行性に蔓延するもの

3) Lupusknötchen が多數融合し浸潤窩が大きくなれば、遂に表皮が破壊して Geschwür を作る。即ち **Ulcus luposus**, Lupusgeschwür で Rand には Infiltration がなく又 Unterminierung

もない。Geschwürsboden は多く紅褐色で出血せず、多少の分泌物があり或は厚い Kruste を被むる。

Geschwür は治癒して Narbe (Lupusnarbe) を作るが其上に再び Lupusknoten を発生し其數次第に増加すれば復 Geschwür に陥る。

Knorpel は侵され易いが Knochen は容易に侵されない。

部位によりては其 Narbe のため醜形を貽し容貌を害す。

**部位** 好發部位は Gesicht で、鼻梁に起るが口唇・頬・額・側頭部・耳朶をも侵す。其他頸部・四肢・軀幹にも発生し又粘膜にも生ず。

- 1) **Lupus mucosae** は Mundschleimhaut, Nasenschleimhaut, Conjunktiva 等に或は原發し或は Hautlupus に續發し、漸次蔓延して Cornea, Rachen, Kehlkopf に及ぶ。
- 2) Extremitäten には Lupus serpiginosus が最も多く、Geschwür は周圍に進行し Granulation は増殖し痂皮が重疊して Bindegewebe の肥大硬化を伴ひ易い。時には皮下の Muskel, Sehne, Periost, Knochen 等を侵し指趾の脱落を招く事がある。即ち Lupus mutilans 斷節性狼瘡である。
- 3) Rumpf では Lupus serpiginosus, Lupus tumidus 等を見る。

**経過** 概ね青年期、少年期早きは 3-4 Lj. 頃から発生し極めて緩慢の経過をとり而も終生治しないのが常である。

血行性狼瘡では、時に一時に身體各所に多發することがあるが多くは或部位に限局し數年、數十年に亘り其間一時一部に Narbe を作るが又再發し易い。

Allgemeine Zustand に何等影響なく長壽を保つものもあるが、又往々他の結核性皮膚疾患又は Lymphadenitis tbc, Karies 又は内臓結核

を合併し、此爲に斃れる事も尠くない。

- 診断** 1) Lupusknoten の證明、即 Geschwür の周圍、癩痕部又は健皮中に存在する紅褐色麻痺大の小結節
- 2) Lupusgeschwür は Rand に Infiltration と Unterminierung を缺く
  - 3) 幼時から発生して Verlauf の緩慢なること
  - 4) Tuberculinreaktion は多く著明に反應するが診斷的價値は少い。

**類症鑑別** 1) 護謨腫 Gumma: Geschwürsrand に浸潤が著明であり、又癩痕中に再發することはない。Wa-Reaktion が多く陽性である。

- 2) 癩 Lepra: 知覺麻痺、神經肥厚がある。
- 3) 慢性濕疹 Eczema chronicum: Geschwür を作る事なし。

**療法** 1) Phisikalische Therapie:

Finsen Kohlen-bogenlampe.  
Kromayer'sche Quecksilberquarzlampe  
Künstliche Höhensonne  
Röntgen  
Radium  
Mesotrium

- 2) Operationstherapie
- 3) Mittel- behandlung としては焦性沒食子酸、亞砒酸、格魯兒ア  
ンチモン水、結晶又硝酸銀桿 用ひて組織を腐蝕するが、是は最も姑息な對症療法に過ぎない。
- 4) 一般強壯療法を行ふは勿論である。又近來 Gerson 氏無食鹽療

法が行はれ是によつて治療した者は美容上最も好結果を得ると云ふ。

## II 皮膚疣状結核 Tuberculosis verrucosa cutis

**定義** 外傷を受け易い部位に發生して疣贅の如き局面を作り、極めて緩慢に周圍に擴大すると同時に、中心は漸次癩痕化する皮膚結核症である。

- 症候**
- 1) 好發部位は外部に露出する部位で指掌・趾蹠に最も多く又腕關節・足關節附近・膝・上腿・臀部等にも屢々起る。
  - 2) 外觀は疣贅に類似し灰白色又は黄綠色の厚い Hyperkeratose がある。其表面は極めて粗糙で、新鮮な部位即多く邊緣部では其角層の間に Rhagaden があり Pustel を有し壓迫すると膿を洩す。
  - 3) 長く存在すれば、中心部に於て最初肥厚してゐた眞皮乳頭が收縮し角層も菲くなり、薄い網狀の癩痕を作る
  - 4) Grenze は常に明劃で Rand には淡紅又は暗紅の roter Hof がある。
  - 5) 形は不定で其部位により種々異なる。  
Subjektive Beschwerde は殆どなく唯壓迫すれば僅に微痛を訴へる。
  - 6) 経過は極めて緩慢で十數年にも亘る。漸次周圍に蔓延するが時としては自然に退行萎縮して癩痕治癒を營む事もある。一旦癩痕を形成すれば此部に再發せず又終始潰瘍に陥る事なく底面とも癒着する事はない。

第十一圖



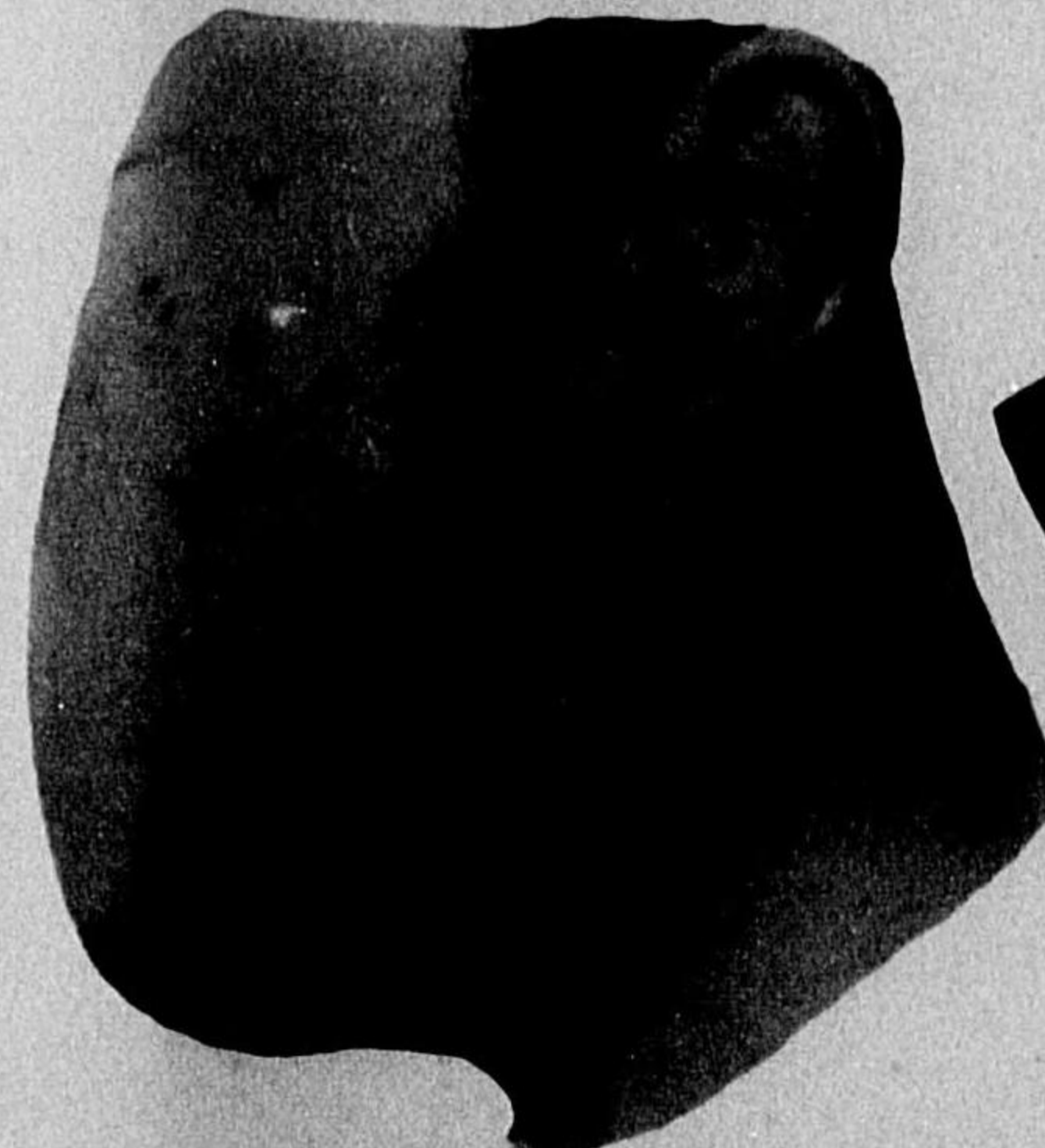
尋常性狼瘡  
Lupus vulgaris

第十二圖



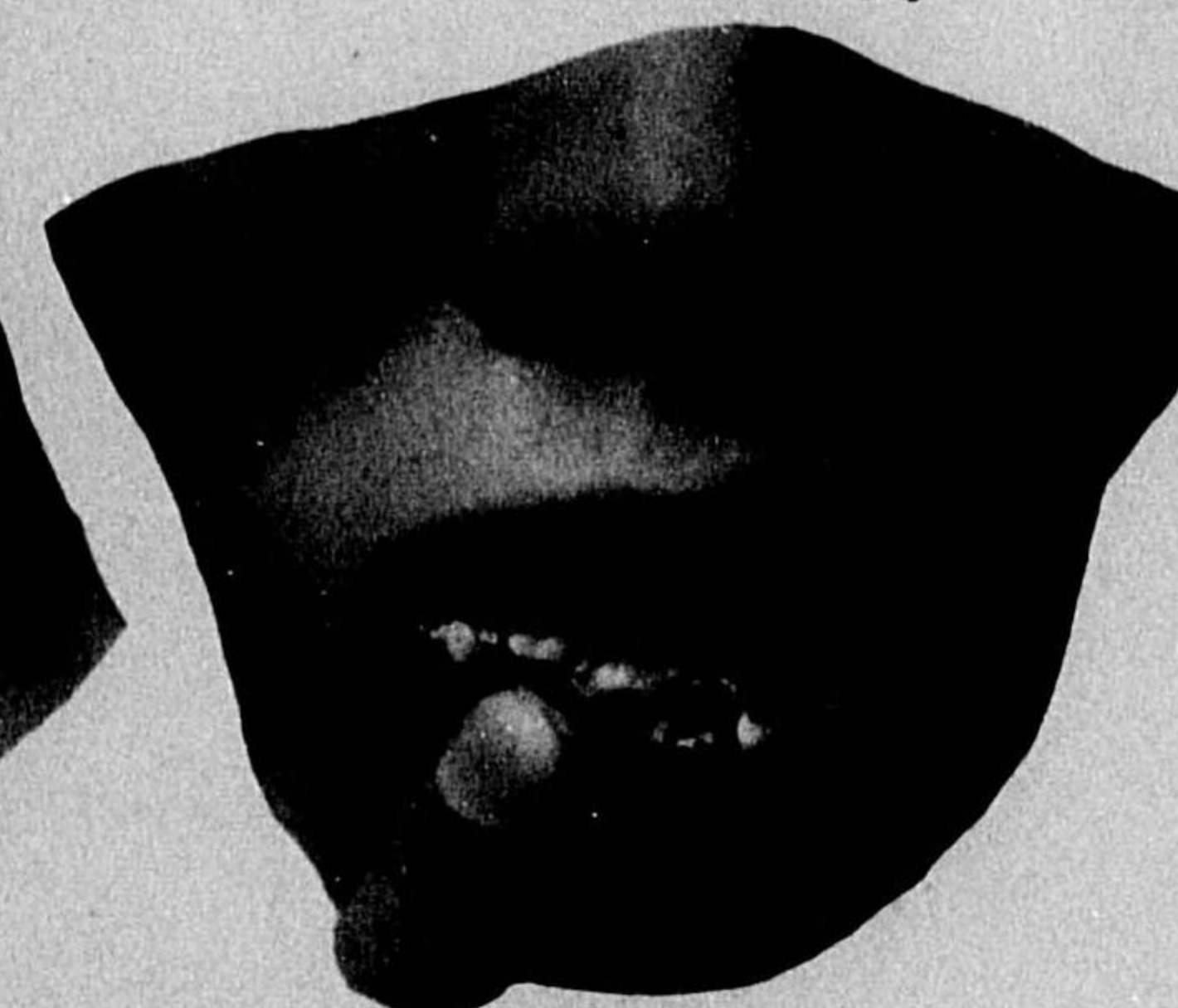
皮膚疣状結核  
Tuberculosis verrucosa cutis

第十三圖



皮膚腺病  
Scrophuloderma

第十四圖



潰瘍性粟粒結核  
Tuberculosis miliari sulcerosa

**原因** 1) 本症は Inoculations-od. impftuberculose 接種結核で外部から皮膚の損傷部に Tuberkelbacillen の附着する事により發生することが多い。Darmtuberculose 患者の肛圍に發生し、或は Blasen-tuberculose の患者の手掌に發生した例もある。

2) 中、以前の然も健康なる者に多く見る。

3) 本症は稀に Haematogene-od. lymphogene Infektion を來す事もある。

4) 本症に於て證明される菌型は Typ. bovinus が多い。

**病理解剖**

1. St. corneum: Hyperkeratose

2. Retezapfen: hypertrophiert u. verlängert

3. Papilla: hypertrophiert u. verlängert

4. Tbc-Herd: Cutis の oberer Schicht に在つて Rundzellen, Epitheloidzellen, Riesenzellen の浸潤を作り其間に Käsige Degeneration を示す。此の周圍に entzündliche Infiltration がある。

5. Tuberkelbacillen: Tbc-Herd の内外に多數證明される。

**診断** 1) verrucös の Oberfläche. 2) Zentrum の Narbenbildung. 3) Umgebung の roter Hof. 4) chronisch の Verlauf. 5) Geschwür を作らぬこと. 6) Narbe 中に紅疹を有しないこと。

**類症鑑別** 1) 疣贅状狼瘡 Lupus verrucosus: Lupusknötchen を有し, Geschwür を作り, 瘰癧面から屢々再發する。histologisch には Käsige Degeneration があり Tuberkelbacillen が比較的少い。

- 2) 尋常性疣贅 *Verruca vulgaris*: 概ね小さくて多發し殆ど炎症を伴はず、勿論膿を排出する如き事はない。又疣贅を水平に切断して其断面を見ると柴束状の排列を見且つ滴状の出血を見るが、疣状結核では斯の如き像は見られない。
- 3) 疣状濕疹 *Eczema verrucosum*: *Narbe* を作る事なく、境界不明で劇痒がある。
- 4) 疣状紅色苔癬 *Lichen ruber verrucosus*: 排膿せず癩痕を作らず、劇烈なる癢痒があり、且つ周圍に孤立した個有の苔癬疹を認む。

療法 1) 小さいものは切除する

- 2) 腐蝕、搔抓、燒灼と、Radium, Röntgen, Ultraviolettstrahlen を併用する。

### III 皮膚腺病 *Scrophuloderma*

定義 内部臓器の結核病竈が漸次擴大して *Haut* を侵すもので、先づ結節を生じ軟化し終に皮膚表面に破れて *Geschwür* 又は *Fistel* を作り、*Narbe* を形成する。

- 症状 1) 初め *Subcutan* に *sperlingeigross bis taubeneigross* の *Tuberkel* を生じ漸次増大して *Cutis* と癒着し、次で中心から軟化して外に破壊し *Geschwür* を作る。
- 2) 此時の *Granulation* は淡紅貧血性で出血し易く、*Geschwürsrand* は薄くて *Unterminierung* を示す。  
*Geschwürsboden* からは *Käsige Substanz* を混じた稀薄の膿漿を分泌し、或は乾燥して *Kruste* を作るが其下に *Eiter* が瀦溜し

て皮下を傳つて附近に新病竈を作り大きな潰瘍を作る、是が潰瘍性皮膚腺病 *Scrophuloderma ulcerosum* である。

- 3) 以上の變化は皮下深層の結核病竈に續發する *Kontaguität-tuberculose* で従て *scrophulös* の青年男女に多いが、稀には外傷に伴つて發生することもある。
- 4) 経過は慢性で時には潰瘍・結節が融合して廣い潰瘍面をなすこともある。
- 5) 治癒した後には凹凸不平の癩痕を作る、又時として是から *Lupus vulgaris* に變化することもある。

- 診断 1) *Scrophulöse Diathese*. 2) 附近に *primäre tuberculöse Herd* を見る, 3) 固有の *tuberculöse Geschwür* を作る。  
4) 結節では *Fluktuation* を觸れる。

#### 類症鑑別

- 1) 護謨腫 *Gumma*: *Geschwür* は肉芽が強健で *unterminieren* せず、且つ *Rand* に浸潤が著明に存在する。*Wa-Reaktion* は *positiv*
- 2) 尋常性狼瘡 *Lupus vulgaris*: *Geschwür* に *Unterminierung* がなく、附近に *Lupusknötchen* を證明する。
- 3) 放射線菌病 *Aktinomyces*: *Fistel* は硬い索状をなし、其分泌物中には *Aktinomyces* を證明する。尙 *Haut* は硬く板の如き扁平の浸潤を呈するのが特徴である。
- 4) バザン氏硬結性紅斑 *Erythema induratum Bazin*: 多く *Unterschenkel* に *symmetrisch* に來り多發する。
- 5) 皮膚釀母菌病 *Blastomycosis cutis*: 時に頗る類似するが深部と関係のない病竈部があり又膿疱を證明する。

- 療法 1) *Röntgen*: 一週又は十日の間隔を以て  $\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{3}$  紅斑量



0.5—1.0 m. m. の Aluminium 板で濾過して放射する。

- 2) Ultravioletstrahlen
- 3) 搔破, 摘出, 焼灼。
- 4) クレーデ氏銀軟膏, 水銀軟膏, 沃度加里軟膏
- 5) Allgemeine Behandlung

#### IV 潰瘍性粟粒結核 Tuberculosis miliaris ulcerosa

**定義** Haut 又は Schleimhaut に粟粒結核疹を生じ, 速に Käsig Degeneration に陥り, 結核特有の Geschwür を形成するものを謂ふ。

**部位** 皮膚と粘膜との移行部に多く発生する。即口唇, 頬粘膜, 口角, 肛圍等である。

- 症状** 1) 概ね重症なる Eingeweidetuberculose を有する者に現はれるもので, 内部の結核病竈から結核菌が輸送されて直接局部に感染を來すに因り発生する皮膚の typisch な Tuberculose である。
- 2) 初めは硬い淡紅又は褐紅色の小結節であるが, 直に膿疱に變じ忽ち數個融合して圓形又は不正形の潰瘍に變ずる。
  - 3) Geschwür は邊緣鋸齒狀を呈して淺く, Granulation は帶黃紅色結節狀で弛緩し出血し易く, 一部は屢々豚脂様の苔を帯びる。又處々に微小類黄色の Käsig Herd も認められる。又周縁部或は附近の Haut に灰白色の粟粒結核を見ることもある。
  - 4) 潰瘍の分泌物中には容易に結核菌が證明される。
  - 5) Geschwür は極めて疼痛性で, 治癒の傾向に乏しく數年に涉り, 大豆大蠶豆大に至る, 更に大なる潰瘍をなす事もあるが多くは其

前に患者は不幸の轉機をとる。

- 6) 粘膜に現はれた潰瘍は通常 Unterminierung を示すが時には邊緣銳利な事もある。

**診断** 1) Haut と Schleimhaut との移行部に發生し易き事  
2) 内臓結核を有する事 3) 疼痛性出血性潰瘍及び其の周圍の粟粒結核

**類症鑑別** 1) 軟性下疳 Ulcus molle: 肉芽鮮紅で邊緣の鋸齒粗大であり, 軟性下疳菌を證明する。

2) 護謨腫 Gumma: 肉芽強健で周圍に浸潤を有す。

**療法** 1) 内臓結核の治療

- 2) 局所治療 i) 疼痛に對しては Euguform, Orthoform, Anaesthesin の撒布
- ii) Elektrische Kauterisation, Röntgen, Radium
- iii) Lapis, Milchsäure, Carbolsäure, Chromsäure の Aetzung.

## 結核疹

### I 腺病性苔癬 Lichen scrophulosorum

**定義** Scrophulös のもの, 若しくは他に皮膚乃至内臓の結核性疾患を有する少年者に多く來るもので, 黃褐色粟粒大の毛嚢性丘疹である。

**症状** 1) Ausschlag の大きさは miliargross で, 形は尖圭, 鈍圓又は扁平である。色は皮膚色, 類黄色稀に紅褐色で微かに皮膚面上

に隆起し、概ね毛嚢孔に一致するが又之と関係なしに發生するものもある。頂點に秕糠狀の鱗屑を被むるものが多く、中には小水疱小膿疱に變じて小痂皮を結ぶもある。

一般に發疹は浸潤なく、其大さ小豆大に達し瘰癧様膿疱を作るものを腺病性瘰癧 *Acne scrophulosorum* と云ふ。

- 2) 如斯小丘疹が漸次續發して、多く境界不明な大小の集團を作るが、時には播種狀に發疹することもある。
- 3) 個々の Ausschlag は融合することなく、數ヶ月の間存在して自然に吸収され、多くは痕跡を止めず或は一時 Pigmentation を止め或は稀に narbige Grübchen を遺す。

**部位** 常に symmetrisch に生じ Brust, Seitenbrust, Bauch, Rücken に多いが、時には徐々に或は發熱を伴つて急激に殆ど全身に汎發することがある。

**診断** 1) 帶黄紅色の粟粒大の小丘疹。2) 集簇性又は播種狀の發生。3) 秕糠様落屑。4) 時に小膿疱を混すること。5) 部位慢性の経過。6) 自覺症狀の缺如。7) 腺病性素質。

**類症鑑別** 1) 尖圭紅色苔癬 *Lichen ruber acuminatus*: 鮮紅色又は褐紅色の發疹で、白く硬い鱗屑を有すること。汎發することがあるが久しく或部位に限局し、且つ膿疱に變ずる事はない。又劇烈な癢痒がある。

2) 微毒性苔癬 *Lichen syphiliticus*: Pustel を混するが Ausschlag は一般に之より大で浸潤がある、色も銅紅色で環狀に配列し尙他にも微毒症狀を證明することが出来る。

3) 毛孔性苔癬 *Lichen piralis*: 青春期に來り、四肢の伸側に播種狀に現はれる固い丘疹で、紅暈を帯ぶる事があるが Pustel に變

ずることはない。

- 療法** 1) allgemeine Behandlung
- i) Diätkur
  - ii) 海岸温暖地への轉地又は温泉浴
  - iii) 規則正しい生活と適度の運動
- 2) Lebertran (肝油) の塗布と内服が特効的である
- 3) Ultraviolettstrahlen の照射は効果が多い

## II 顔面播種狀粟粒性瘰癧

*Lupus miliaris disseminatus faciei*

**定義** 主として Gesicht に symmetrisch に且播種狀に紅褐色瘰癧様の Papel を發生し、組織中には Tuberculöse Herd を證明する慢性症である。

**部位** 通常顔面殊に眉間・上眼瞼・顴骨部・上下口脣・頤部の如き顔面の中央部に symmetrisch に發生し、稀に Stirn, 耳前髮際から被髮部・耳翼・頸部に及ぶ。

**症候** 1) Ausschlag は Lupusknötchen に類するが大さは miliargross, sesamkorngross, (胡麻) reisskorngross に及ぶ扁平な丘疹で、境界は明割なるものもあり又不明で徐々に Hautniveau から隆起するものもある。色は frisch のものは frischrot であるが、深在性のものは紫紅色、舊いものは暗紅色乃至褐紅色を帯びてゐる。其表面は一般に滑澤で白色微細の落屑を頂き又薄い褐色の Kruste を帯ぶる事もある。

此の Ausschlag の或者では中心に黄色膿點様の小點を認めるが

是は nekrotische Masse で Pustel ではない。

- 2) 是等の Ausschlag は初めは acut に數日間に數十個發疹し、其後は極めて緩徐で時々多少の増加を見るのみであるが、増加するに従ひ多少集簇融合して個々の境界が不明になる事がある。指頂で皮膚面を擦過して始めて之を觸知する事もある。
- 3) Ausschlag は其まゝ變化せず長く同一状態を保ち、中には自然に吸収されて何等の痕跡を止めぬものもあるが、多くは表面に破潰し或は自然に吸収されて其後に不正の浅い Narbe を作り Hautniveau から陥没する。  
一方に斯くの如き退行變性を來すと同時に、他方には少數づゝ新疹を發して経過は數年に亘る。其間に他の Hauttuberculose を併發する事もある。
- 4) 多く外見健康なる青年に發生するが同時に Lungentuberculose を證する事が多い。
- 5) Subjektive Beschwerde は全く之を缺く

**診 断** 1) 固有の部位 2) 膿疱に非ずして黄色の結核竈を證明すること 3) 不規則の小癩痕を形成すること 4) 慢性の経過

**類症鑑別** 1) 尋常性痤瘡 Acne vulgaris: 毛囊口と一致し、圓錐形で Pustel を作り、炎症が強く roter Hof が著明で又屢々 Comedo を混する。

2) 壞疽性痤瘡 Acne necrotica: Stirn, Temporalgegend に來り、linsengross の Papel で中心は Pustel に化し、或は Nekrose に陥り帶黄黒褐色の Kruste を作る。

3) 丘疹梅毒 Syphilis papulosa: 眼、口、耳、鼻の周圍に輪狀又は弧狀をなして發生し、浸潤も強く色も濃厚で kupperrot を帯びる。

- 療 法** 1) Radium  
2) Röntgen, Ultraviolettstrahlen  
3) Tuberculininjection  
4) Allgemeine Behandlung

### III 陰莖結核疹 Penistuberculid

**定 義** 多く龜頭に發生する慢性結核性小潰瘍である。

- 症 候** 1) Glans penis 又は其附近の Vorhaut に發生する針頭大から麻實大の紅疹で、頂點化膿し次で浅い不正圓形の小潰瘍をなす。  
2) Geschwürsboden は schmutzig grauweisslich で周圍に roter Hof と軽度の Infiltration を呈する。  
壓すれば軽い疼痛があるが spontaner Schmerz はない。  
3) 數は數個乃至十數個で多く集簇し、後に浅い不正形の Narbe を止める。  
4) 青年期に多く chronisch で、數年に亘り再發を繰返して治しない事がある。

#### 類症鑑別

- 1) 軟性下疳 Ulcus molle: Geschwürsrand の Rötung が強く Infiltration は少なく、schmerzhaft である。Verlauf も速か一旦治癒すれば再發しない。
- 2) 硬性下疳 Ulcus durum: 浸潤強く、初めは多く Erosion で潰瘍をなしても強い疼痛を缺く。
- 3) 陰部疱疹 Herpes genitalis: Bläschen の集簇で Erosion に

過ぎない。Rand は梅花状で 4-5 日で治癒し、發生する時には癢痒又は灼熱感を伴ふ事が多い。

- 療法 1) Radium, Mesothorium, Röntgen, Ultraviolettstrahlen, elektrische Kauterisation.  
2) Jodoformsalbe, Euguformsalbe.  
3) Allgemeine Behandlung.

#### IV 壞疽性丘疹性結核疹 Papulonekrotische Tuberculid

定義 主として Extremitäten の伸側に瘡瘡様の紅疹を發生し、Ausschlag の中心は往々 Nekrose に陥り、永く固有の Narbe を止めるものである。

症候 Ausschlag に 2 Arten を區別し得る。

##### A) 毛囊疹 Folliculitis

- 1) Cutis の Obererschicht から發生する。
  - 2) 初めは rosa-rot 麻實大の Papel で周圍に entzündlicher roter Hof があり多少の Jucken を伴ふ。
  - 3) 漸次増大して erbsengross 位迄に達すると、蒼紅色又は褐紅色を呈し中心が Nekrose に陥つて頂點に Pustel を作り、次で破れて Kruste を結び其下には小さくて深い鋭利な Rand を有する小潰瘍を生ずる。
- 10 日乃至半月で痂皮脱落して不正圓形又は橢圓形の境界明劇に皮膚面から陥没した Narbe を貽す。
- 4) 此 Narbe は初めは rosarot を呈し Hautniveau から陥没する

が、後には中心は其色が消褪し周縁及瘡痕周圍に一時桃紅色の Pigmentation を貽す。

##### B) 瘡疹 Acnitis

- 2) subcutane Gewebe 又は Cutis の深層に發生する故浸潤が大きく erbsengross の結節として觸れる。
  - 2) 初め Haut は常色であるが結節が増大して之と癒着すれば紅色を呈し、次で頂上に點狀の膿疱を生ずる。次で Kruste と kleine Geschwür を作り Narbe を以て治癒する。
- Subjektive Beschwerde は普通之を缺くが、時に發生時に軽度の Jucken を訴へる事もある。

以上二種の Ausschlag は Geschwür に陥り narbige Heilung を營むのが普通であるが、時に Geschwür を作らずに吸収され、或は表面に白色の Schuppen を作るものもある。

部位 Extremitäten の Streckseite 稀に Beugeseite に好發し、又手甲、足背、耳朶に生ずる。長く存在すると Gesicht にも發生し更に Hals, Schulter, Rücken, Gesäss にも及ぶ事がある。常に symmetrisch に disseminiert に發生するが時に gruppieren するものもある。

経過 平均 6-7 Woche で経過するが、不定の時期或は一定の時候に屢々再發し、數年に亘つて治しない。時には又集簇し融合して大なる結節と瘡痕を作ることもある。

青年期及壯年期の腺病質の者に多いが、一見全く健康な者に現はれる事もある。又同時に他の Hauttuberculose を合併する事もある。

診断 1) 部位。2) 對側性發生。3) 中心の痂皮と潰瘍。4)

瘡痕治癒。5) 慢性の経過。6) 疼痛の缺如

類症鑑別 1) 壞疽性瘡疹 Acne nekrotica 部位も限局し浸潤も